

Learninglife

ラーニングライフ

Learninglife

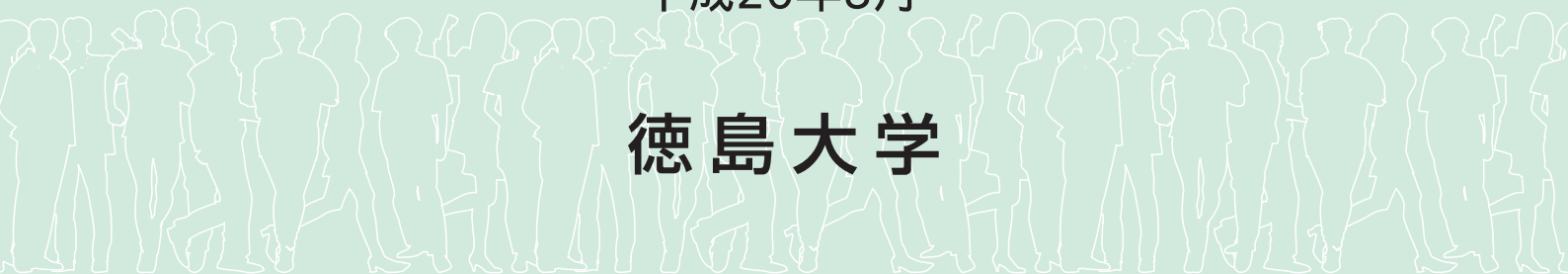
第1回 学生の学習に関する実態調査報告書

The University of Tokushima

Learninglife

平成20年3月

徳島大学



ま え が き

学習に関する全学的な学生の意識調査を行いました。ラーニングライフ第1回学生の学習に関する実態調査報告書—をお届けします。本学では、学生生活に関する実態調査は、ほぼ2年毎に行い、キャンパスライフとして学生の生活全般にわたる現状を知ることのできる統計資料としています。今回は、この「学生生活の実態」と対になる「学習に関する実態」を調査しました。

ちょっと意外に感じられるかも知れませんが、学習に関して全学的に学生のみなさんからの直接意識調査するのは今回が初めてです。5つの項目：①大学教育と将来、②学習状況、③全学共通教育、④専門教育、⑤英語教育について、全部で56問の質問により調査しています。また本書では、アンケート結果に加えて、結果から得られる各学部の現状と課題、これらをまとめた提言が報告されています。学科やコースといった小グループの単位で、オリエンテーションの折りにこのデータをご活用いただけると幸いです。

「学生の能力開発の観点から、教育と学生支援を一体として考えた大学教育を推進し、健全な体と心を養い、自立して学ぶ学生の立場に立った支援を行うこと」は、徳島大学の第一期基本計画の「教育と学生支援に関する基本方針」にも謳われていることです。アンケートからの私見ですが、講義の受講状況の良さに反して予習・復習にさく時間の短さを合わせて考えると、「自立して学ぶ」や「進取の気風を育む」ことの大切さが改めて浮き彫りになってきます。機会をとらえて、時間の使い方や困ったときの解決法など学びの技の大切さに気づかせる工夫をお願いしたいと思います。

最後になりましたが、大学教育委員会「教育の質に関する専門委員会」委員の先生および学務部職員の方々には、この調査に関してアンケート項目の設定から、調査の実施、集計、結果の分析まで、すべての事項について精力的に遂行いただきました。ご多忙の中、集中的にご討議いただき、早期完成を実現いただいたことに対し、辻明彦委員長をはじめとするみなさんに心から敬意を表すとともに深く感謝いたします。また、調査に協力いただいた学生のみなさんにもこの場を借りて感謝いたします。

平成20年3月

徳島大学理事（副学長）（教育担当）
大学教育委員会委員長

川 上 博

目 次

まえがき	1
序 章 学生の学習に関する実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 調査票の回収状況	4
7 図中の％表示	5
8 略語の表示	5
附表「平成19年度学生の学習に関する実態調査票」	6
第1章 将来の希望について	15
1-1 将来の希望	15
1-2 大学教育による将来の希望の実現性	16
1-3 自己の学習による将来の希望の実現性	17
第2章 大学教育について	18
2-1 大学教育に対する考え	18
2-2 大学で獲得すべき知識、能力	19
2-3 大学教育での知識、能力の獲得可能展望	20
2-4 大学教育で獲得できない知識、能力	21
第3章 あなた自身について	22
3-1 予習・復習の実施状況	22
3-2 予習・復習の時間	23
3-3 予習・復習の場所	24
3-4 授業の出席率	25
3-5 授業に出席することへの考え	26
3-6 授業を休むことに対する考え	27
3-7 授業を休む場合の理由	28
3-8 授業内容を理解できる授業科目の割合	29
3-9 レポートや宿題をする際の情報源	30
3-10 授業でわからないところの対処方法	31
3-11 教科書の購入状況	32
3-12 教科書を購入しない理由	33
3-13 年間単行本（専門外）読書冊数	34
3-14 1日のインターネット利用時間	35
3-15 学習以外での1日のインターネット利用時間	36
3-16 シラバスの利用状況	37
3-17 オフィスアワーの利用状況	38
3-18 教員に質問に行かない理由	39
3-19 高校で未履修科目があるため、大学で理解困難な科目の有無	40
3-20 高校での未履修科目について、大学入学後の学習方法	41
3-21 高校での未履修科目を大学で履修しない理由	42
3-22 期末試験における1科目あたりの勉強時間数	43
第4章 全学共通教育の授業について	44
4-1 科目の選択基準	44

4-2	授業を受けて学び得たこと	45
4-3	教養科目群（教養科目）について	46
4-4	基盤形成科目群（外国語科目・健康スポーツ科目）について	47
4-5	基礎科目群（基礎教育科目）について	48
第5章	専門教育の授業について	49
5-1	授業を受けて学び得たこと	49
5-2	授業内容の難易度	50
5-3	実習時間数に対する希望	51
第6章	免許・資格について	52
	総合科学部の学生のみ回答	52
6-1	取得できる免許・資格で興味のあるもの	52
6-2	資格取得に関する情報提供	52
	工学部の学生のみ回答	53
6-3	取得できる免許を生かした就職希望	53
6-4	免許・資格の認知度	54
6-5	免許・資格に関する情報提供	55
第7章	卒業研究、医学研究実習、研究基礎ゼミについて	56
7-1	研究室選考の基準	56
7-2	卒業研究、医学研究実習、研究基礎ゼミで学び得たこと	57
7-3	教員、TAによる研究指導時間の満足度	58
7-4	研究設備、スペースの満足度	59
第8章	英語学習・教育について	60
8-1	英語学習の時間	60
8-2	英語の学習方法	61
8-3	本学の英語教育への要望	62
第9章	夏季休暇の使い方について	63
9-1	夏季休暇の過ごし方	63
9-2	夏季休暇中の自主学習時間	64
第10章	大学に関する評価	65
10-1	大学教育全体の満足度	65
第11章	学部等の現状と課題	66
11-1	総合科学部	66
11-2	医学部医学科	66
11-3	医学部栄養学科	67
11-4	医学部保健学科	67
11-5	歯学部	69
11-6	薬学部	70
11-7	工学部	71
11-8	全学共通教育	72
11-9	FD（Faculty Development）の観点から	73
第12章	大学に対する自由意見	74
第13章	まとめと提言	75

序章 学生の学習に関する実態調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、本学学生の学習意識や学習に関する実態を把握し、今後の教育改革並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の組織

この調査は、徳島大学教育の質に関する専門委員会の次の委員が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区分	氏名	所属	職名
委員長	辻 明彦	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教授
委員	田島 俊郎	総合科学部	教授
委員	泉 啓介	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	寺尾 純二	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	吉本 勝彦	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	滝口 祥令	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	上野 加代子	全学共通教育センター	教授
委員	神藤 貴昭	大学開放実践センター	准教授
委員	金西 計英	高度情報化基盤センター	准教授

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する学部学生全員 5,985 人（平成 19 年 11 月 1 日に在籍するもののうち休学者数を除いたもの）を調査対象とした。

調査方法は、各学部の学務（教務）係及び教育の質に関する専門委員会の協力を得て調査票を配布し、回答用紙（マークシート）を回収した。

4. 調査の時期

この調査は、平成 19 年 11 月 12 日から 11 月 16 日まで実施し、11 月 1 日現在の実状について回答を依頼し、回答用紙の提出期限を 11 月 19 日までとした。

5. 調査の内容

今回初めてとなるこの調査の項目は、学生の学習意識や学習に関する実態を把握する目的に基づき、上記委員が作成し、教育の質に関する専門委員会において精選した。項目数は、授業に対する予習・復習実施状況、実施時間、授業内容を理解できる科目の割合等、全 56 項目とした。

6. 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者 5,985 人のうち回答数は 3,785 人で、回収率は 63.2%であった。学部・学科別の回収状況は次表のとおりである。

平成 19 年度 学生の学習に関する実態調査集計表

[学部学科別]

学 部	学 科	対象者数	回収数	回収率 (%)	
総合科学部	人 間 社 会 学 科	735	313	42.6	
	自 然 シ ス テ ム 学 科	369	179	48.5	
	計	1,104	492	44.6	
医 学 部	医 学 科	587	251	42.8	
	栄 養 学 科	202	172	85.1	
	保健学科	看 護 学 専 攻	307	253	82.4
		放 射 線 技 術 科 学 専 攻	159	157	98.7
		検 査 技 術 科 学 専 攻	80	72	90.0
	保 健 学 科 計	546	482	88.3	
計	1,335	905	67.8		
歯 学 部	歯 学 科	318	304	95.6	
	口 腔 保 健 学 科	16	16	100.0	
	計	334	320	95.8	
薬 学 部	薬学科・創製薬学科（新課程）	169	148	87.6	
	薬 学 科（旧課程）	99	85	85.9	
	製 薬 化 学 科（旧課程）	101	85	84.2	
	計	369	318	86.2	
工 学 部	昼間コース	建 設 工 学 科	366	129	35.2
		機 械 工 学 科	490	284	58.0
		化 学 応 用 工 学 科	343	240	70.0
		生 物 工 学 科	259	196	75.7
		電 気 電 子 工 学 科	459	252	54.9
		知 能 情 報 工 学 科	334	245	73.4
		光 応 用 工 学 科	219	159	72.6
	計	2,470	1,505	60.9	
	夜間主コース	建 設 工 学 科	68	30	44.1
		機 械 工 学 科	71	54	76.1
		化 学 応 用 工 学 科	43	34	79.1
		生 物 工 学 科	39	34	87.2
		電 気 電 子 工 学 科	73	37	50.7
		知 能 情 報 工 学 科	79	56	70.9
		計	373	245	65.7
計	2,843	1,750	61.6		
合 計	5,985	3,785	63.2		

注) 在学者数欄は、11月1日現在で、休学者数を除いた数である。

7. 図中の%表示

端数処理（小数点第1を四捨五入）の関係で合計が100%にならない場合がある。

8. 略語の表示

薬学部では平成18年度から新教育課程がスタートしたため、本報告書では新教育課程の1、2年生を「新課程」、旧教育課程の3、4年生を「旧課程」と表示し、学年別に分けて調査結果を分析した。

平成 19 年度 学生の学習に関する実態調査

平成 19 年 11 月

徳 島 大 学

お 願 い

この調査は、みなさんの学習意識や学習に関する実態を把握し、今後の教育改革並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、平成 19 年 11 月 1 日現在、本学に在学する学部学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入していただき、他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変だとは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

[調査実施期間 11 月 12 日～ 11 月 16 日]

**回答用紙(マークカード)の提出期限は、11 月 19 日(月)です。
所属学部の学務(教務)係へ提出してください。**

回答記入上の注意事項

- 1 平成 19 年 11 月 1 日現在で記入してください。
- 2 回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで、その番号を塗りつぶして回答してください。ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 マークカードの裏面に自由記入欄を設けていますので、質問 5 及び質問 43 について、及び大学に対して教育(カリキュラム、授業内容等)・研究について、気づいたことや要望したいこと、あるいは期待することがあれば、自由に記入してください。

1) 所属学部はどこですか。

1. 総合科学部
2. 医学部
3. 歯学部
4. 薬学部
5. 工学部（昼間コース）
6. 工学部（夜間主コース）

2) 学科はどこですか。

- 総合科学部 [1. 人間社会学科 2. 自然システム学科]
- 医学部 [1. 医学科 2. 栄養学科 3. 保健学科]
- 歯学部 [1. 歯学科 2. 口腔保健学科]
- 薬学部 [1. 薬学科 2. 製薬化学科]
- (薬学部の1・2年生については選択不要)
- 工学部 [1. 建設工学科 2. 機械工学科
3. 化学応用工学科 4. 生物工学科
5. 電気電子工学科 6. 知能情報工学科
7. 光応用工学科]

3) 何年生ですか。

1. 1年生
2. 2年生
3. 3年生
4. 4年生
5. 5年生
6. 6年生

4) コース・専攻はどこですか。

- 総合科学部 [1. アジア研究コース 2. 欧米言語コース
3. 国際文化コース 4. マルチメディアコース
5. 地域システムコース 6. 法律経済コース
7. 人間行動コース 8. 数理・情報コース
9. 物質・環境コース 10. 生命・環境コース]
- 医学部 [1. 看護学専攻 2. 放射線技術科学専攻 3. 検査技術科学専攻]

5) あなたの将来の希望について当てはまるものはどれですか。

1. 専門職として医院、病院、薬局などで活躍したい
2. 企業で活躍したい
3. 行政機関で公務員として活躍したい
4. 大学等の教育研究施設で活躍したい
5. 小学校、中学校、高等学校で教員として活躍したい
6. その他 ()

6) 現在あなたが受けている教育で将来の希望は実現できそうですか。

1. はい
2. いいえ

7) 現在のあなたの学習態度で将来の希望は実現できそうですか。

1. はい
2. いいえ

8) 大学教育について、どう思いますか。(複数回答可)

1. 社会に出た時に役に立つことだと思う
2. とにかく卒業できれば、良い成績でなくてもよい
3. 良い成績で卒業したい
4. 直接役に立たなくても、広い知識が豊かな生活を支える
5. 将来の仕事のための基礎作り
6. 資格取得のため選択の余地無し
7. 不合格になりたくないので仕方なく勉強している
8. 今が楽しめればそれで良い

9) 大学で獲得すべき知識、能力をあげてください。(複数回答可)

1. 基礎的知識
2. 専門的知識
3. 問題解決力
4. チームで目標を達成する術
5. コミュニケーション能力
6. 討論する能力

10) これらの能力は現在の教育で獲得できると思いますか。

1. はい
2. いいえ

11) 問 10 で「いいえ」と答えた人は獲得できない能力は以下のどれですか。(複数回答可)

1. 基礎的知識
2. 専門的知識
3. 問題解決力
4. チームで目標を達成する術
5. コミュニケーション能力
6. 討論する能力

あなた自身について

12) 授業に対して毎回予習、復習を行っていますか。

1. 必ず全科目、予習、復習ともに行っている
2. 科目によっては行っている
3. 予習のみ行っている
4. 復習のみ行っている
5. 宿題が出た時のみ予習、復習を行っている
6. 何もしていない

13) 1日平均するとどれくらい予習・復習を行っていますか。

1. 3時間以上
2. 2時間～3時間
3. 1時間～2時間
4. 1時間以内
5. 全くしていない

14) 予習・復習は、主としてどこで行っていますか。

1. 自分の部屋
2. 図書館
3. 図書館以外の学内施設
4. その他

15) 授業の出席率は平均でどのくらいですか。

1. 90% 以上
2. 70% 以上～90% 未満
3. 70% 未満

16) 授業へ出席することについてどのように考えていますか。

1. 全部の授業に出席するようにしている
2. 興味のある授業に重点的に出席するようにしている
3. 出席をとる授業には出席するようにしている
4. 必修科目に重点的に出席するようにしている

17) 授業を休むことをどう思っていますか。

1. なんとも思っていない
2. うしろめたい
3. 自分の責任で休むのだからとやかく言われたくない

18) 病気などのやむを得ない理由なく授業を休む場合の理由は何ですか。(複数回答可)

1. 朝寝坊
2. サークル・クラブ活動
3. アルバイト
4. 遊び
5. 他科目のレポート作成
6. 他科目の試験勉強
7. 教員が出席をとらないから
8. 出席しても遅刻すると欠席になるから
9. 授業が理解できないから
10. 授業がおもしろくないから

19) 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

1. 80% 以上
2. 70% 以上
3. 60% 以上
4. 60% 未満

20) レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)

1. 教科書、参考書
2. インターネット
3. 教員へ質問する
4. 友人・先輩に聞く

21) 授業でわかりにくかったところは、どうしていますか。(複数回答可)

1. 授業中または終了後、教員に直接聞いている
2. 先輩、友人に質問している
3. 自分で勉強し、解決している
4. オフィスアワーを利用して教員に質問している

22) 指定された教科書は購入していますか。

1. すべて購入する
2. 大部分は購入する
3. 少し購入する
4. 購入しない

23) 教科書を購入しない場合の理由は何ですか。(問 22 で「2」～「4」を選んだ方)

1. 教科書がなくても授業内容が理解できる
2. 教科書が高価である
3. 先輩、友人の本を使う
4. 図書館などの本を利用する

- 24) 平均して1年間に何冊程度の単行本(専門外)を読んでいますか。
1. 10冊以上
 2. 5～9冊
 3. 1～4冊
 4. 0冊
- 25) 学習のためにインターネットを1日何時間くらい使用していますか。
1. 2時間以上
 2. 1時間～2時間
 3. 1時間以内
 4. 全く使用していない
- 26) 学習以外の目的でインターネットは1日何時間くらい使用していますか。
1. 2時間以上
 2. 1時間～2時間
 3. 1時間以内
 4. 全く使用していない
- 27) シラバスは毎週確認し、授業の予習・復習に役立てていますか。
1. はい
 2. いいえ
- 28) オフィスアワーはどれくらい利用しましたか。
1. よく利用した
 2. 1～3回利用した
 3. 利用しなかった
 4. オフィスアワーに訪ねたが、教員が不在であった
 5. オフィスアワーを知らない
- 29) 教員へ質問にいかない理由は何ですか。(複数回答可)
1. 質問しにくい雰囲気
 2. 忙しそう
 3. 連絡方法が良く判らない
 4. 下手な質問すると怒られそう
 5. 聞きに行こうと思わない
- 30) 高校で履修しなかった科目(物理、化学、生物)のために、大学で理解するのが困難であった科目はありますか。
1. ある
 2. ない
- 31) 高校で履修していない物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。
1. 自分で高校の教科書、参考書を使い、勉強した
 2. 全学共通教育で開講されている自然科学入門やその他の科目で勉強した
 3. 何もしていない
 4. その他
- 32) 高校で履修していない科目を自然科学入門(物理、生物)で勉強していない場合、その理由は何ですか。
1. 他におもしろい授業がある
 2. 不都合を感じない
 3. 単位上限制のため
 4. 希望したが抽選に漏れた
 5. 自分で学習可能
 6. その他

33) 期末試験の試験勉強において、平均して1科目あたり、どれくらい勉強していますか。

1. 7時間以上
2. 5～7時間
3. 3～5時間
4. 1～3時間
5. 1時間以内

全学共通教育の授業について

34) 全学共通教育科目の選択はどのような基準で行いましたか。(複数回答可)

1. 広い教養を身に付けるため
2. 専門の基礎を築くため
3. 好きな科目や面白そうな科目を選択した
4. 単位をとりやすい授業を選択した
5. 授業科目を選択する余地がなかった
6. 特に基準はない

35) 全学共通教育科目の授業を受けて何を学ぶことができたと思いますか。(複数回答可)

1. 広い教養を身に付けるのに役立った
2. 専門の基礎を築くのに役立った
3. 自分の進路について広い視野で考えることができるようになった
4. 学問・研究に興味を湧いた
5. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った
6. 特に得るものはなかった

・全学共通教育について該当するものをあげてください。

36) 教養科目群(教養科目)について

1. 難しい科目が多い
2. 自分の知的能力に合っている科目が多い
3. 簡単すぎて物足りない

37) 基盤形成科目群(外国語科目・健康スポーツ科目)について

1. 難しい科目が多い
2. 自分の知的能力に合っている科目が多い
3. 簡単すぎて物足りない

38) 基礎科目群(基礎教育科目)について(履修している方のみお答えください。)

1. 難しい科目が多い
2. 自分の知的能力に合っている科目が多い
3. 簡単すぎて物足りない

専門教育の授業について

39) 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができたと思いますか。(複数回答可)

1. 広い教養を身に付けるのに役立った
2. 専門の知識を身に付けるのに役立った
3. 自分の進路について広い視野で考えることができるようになった
4. 学問・研究に興味を湧いた
5. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った

40) 授業内容の難易度についてどう思いますか。

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

41) 実習時間数についてどう思いますか。(2年生以上)

1. もっと増やしてほしい
2. これくらいでよい
3. 減らすべきである

・問 42 及び問 43 は総合科学部の学生への質問です。

42) 総合科学部では教員免許、学芸員、日本語教員養成、社会調査士、社会福祉主事等の資格(あるいは資格に準ずる教育内容)に対応した科目を開講しています。これらの資格のうち興味のあるものはありますか。

1. 教員免許
2. 学芸員
3. 日本語教員養成
4. 社会調査士
5. 社会福祉主事等の資格
6. 知らない、もしくは興味はない

43) 問 42 の質問で選んだ資格取得に関する情報は十分に提供されていますか。

1. 十分
2. 不十分
3. 不十分であると考え人は、主に足りない情報は何だと思えますか。

()

・問 44 ～問 46 は工学部の学生への質問です。

工学部では学科により技術士、建築士、測量士、甲種危険物取扱責任者、電気工事士、無線技士、高等学校教諭一種免許状(工業)の受験資格や免許が得られます。

44) 将来このような免許を生かした職業につきたいと思えますか。

1. はい
2. いいえ

45) このような免許または受験資格があることを知っていましたか。

1. はい
2. いいえ

46) このような免許に関する情報は十分に提供されていますか。

1. 十分
2. 不十分

卒業研究、医学研究実習、研究基礎ゼミについて（3、4年生または該当する学生のみ）

47) 卒業研究または医学科では医学研究実習、歯学科では研究基礎ゼミの研究室をどういう基準で決めましたか。

1. 関心の深い研究内容である
2. 将来のやりたい仕事や進路に必要と思ったから
3. 先輩や友人の勧めで
4. 研究室の雰囲気
5. やむを得ず入った
6. どこでもよかった

48) 卒業研究、医学研究実習（医学科）、研究基礎ゼミ（歯学科）によって何を学ぶことができると思えますか。（複数回答可）

1. 専門の知識を身に付けるのに役立つ
2. 自分の進路について広い視野で考えることができるようになる
3. 学問・研究に興味を沸かす
4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立つ
5. マナー、人格形成に役立つ
6. 特に得るものがない

49) 教員、TAの研究指導（データの相談、実験指導等）の時間は十分でしたか。

1. 十分
2. まあ十分
3. やや足りない
4. 全く不足している

50) 研究を進めるための設備、スペースは確保されていますか。

1. 設備、スペースともに十分である
2. 設備は十分であるが、スペースがせまい
3. スペースは十分であるが、設備が足りない
4. 設備、スペースともに足りない

英語学習・教育について

51) 英語は毎日または定期的に勉強していますか。

1. はい
2. いいえ

52) 問51で「はい」と答えた人は、質問に答えてください。

どのように、英語の勉強を行っていますか。（複数回答可）

1. 毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
2. 英会話スクールに行ったことがある。または現在行っている
3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している
4. TOEICなどの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している
5. 授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強している
6. TOEICや英検などの英語能力試験を定期的に受験している
7. 留学生と交流している

53) 徳島大学における英語教育について

1. 全学共通教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
2. もっと授業数を増やしてほしい
3. もっと授業数を減らしてほしい
4. もっと少人数のクラスにしてほしい
5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
6. 専門英語の時間を増やしてほしい
7. 専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

夏季休暇の使い方について

54) 本年の夏季休暇中は、どのように過ごしましたか。(複数回答可)

1. 自宅、実家、図書館で読書
2. 自宅、実家、図書館で学習
3. 集中講義を受講
4. 大学の研究室で研究活動
5. 企業インターンシップに参加
6. クラブ活動
7. アルバイト
8. 国内旅行・海外旅行

55) 本年の夏季休暇中に、集中講義およびそれに関連した学習(レポート作成)以外に、学習に使った時間は合計どれくらいですか。

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 1. 40時間以上 | 2. 20～40時間 | 3. 10～20時間 |
| 4. 5～10時間 | 7. 5時間以下 | 6. 0時間 |

大学に関するあなたの評価を教えてください

56) 大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 90点以上 | 2. 80点以上 | 3. 70点以上 |
| 4. 60点以上 | 5. 59点以下 | |

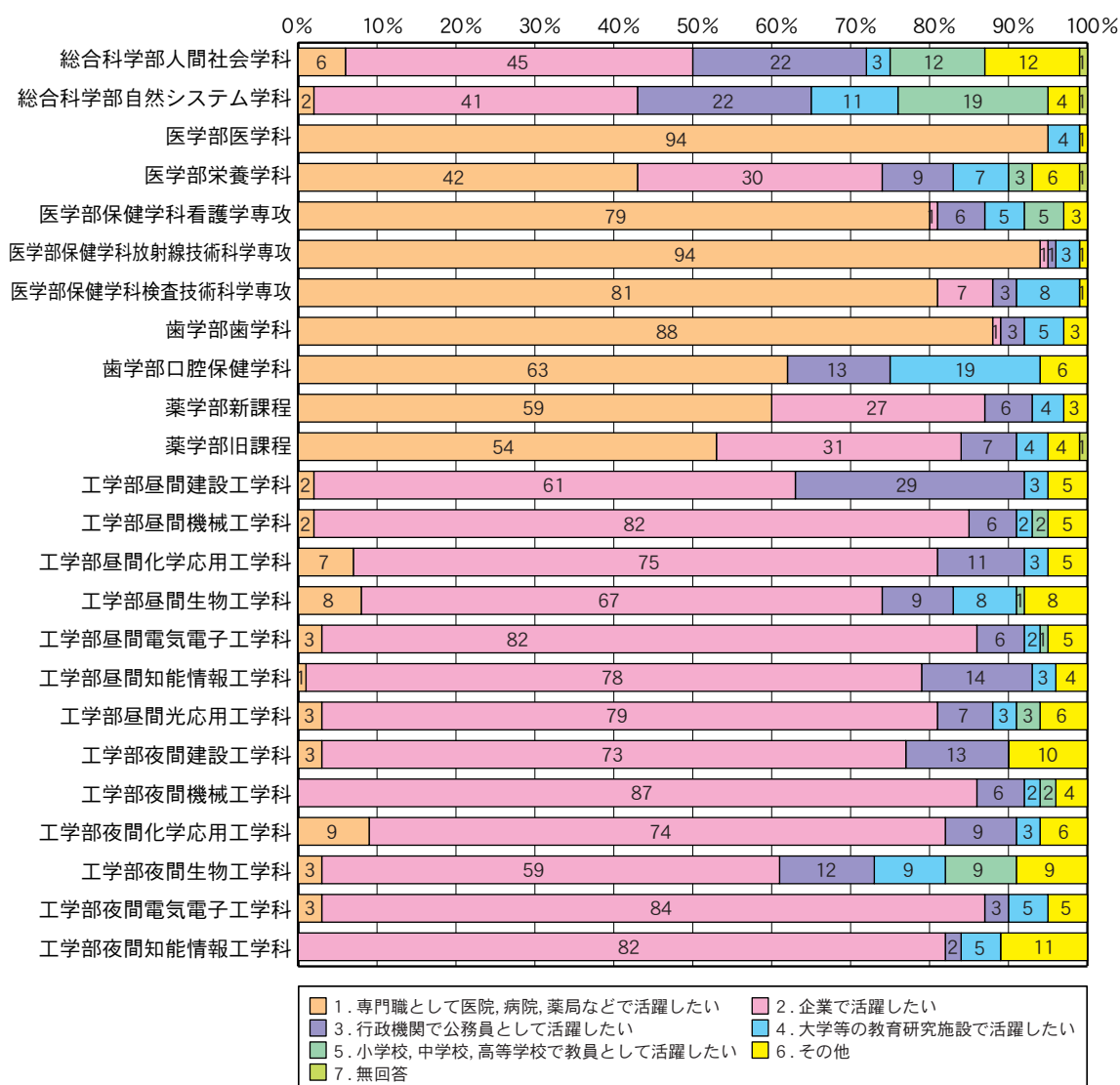
ご協力ありがとうございました。

第1章 将来の希望について

1-1 将来の希望

蔵本キャンパスの医学科、保健学科、歯学科の学生の79 - 94%は、専門職として医院、病院、薬局などで活躍したい、を選んでいる。栄養学科、薬学部、口腔保健学科においては、専門職として医院、病院、薬局などで活躍したいを選んだ学生の比率は42 - 63%で、医学科、保健学科、歯学科の学生に比べ、企業、公務員、大学等の教育研究施設を選んだ学生の比率が高くなっている。常三島キャンパスの総合科学部学生では、企業で、または公務員として働くことを大部分の学生が希望しているが、小学校、中学校の教員を希望する学生が、人間社会学科で12%、自然システム学科では19%いる。工学部では、全学科において企業で働くことを望む学生が多いが、建設工学科では公務員、生物工学科では大学等の教育研究施設を希望する学生が他学科に較べ多い。また、比率としては、少ないが、病院で医療機器の維持管理や研究に関わる仕事を希望する学生もいる。

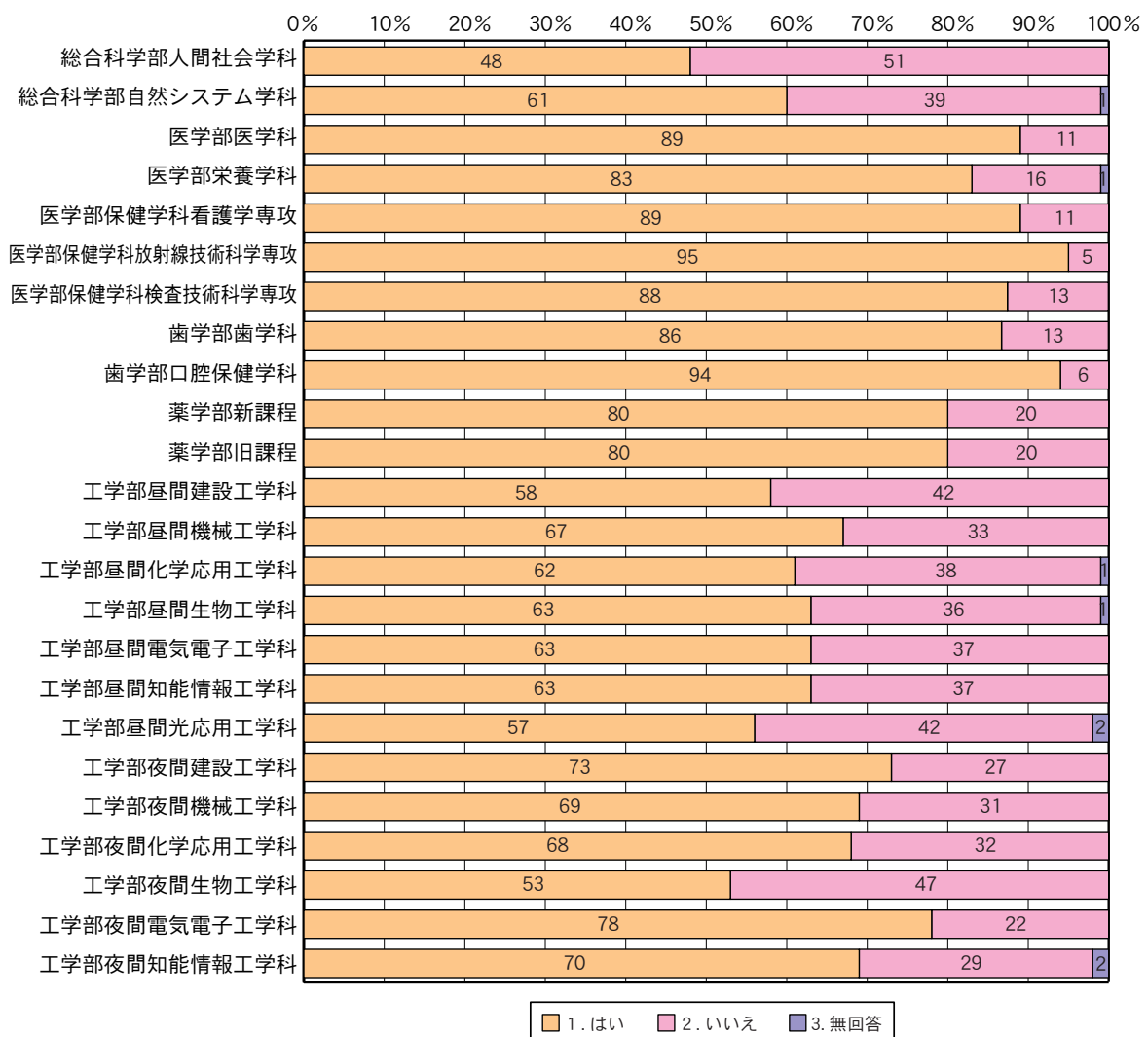
問5 あなたの将来の希望について当てはまるものはどれですか。



1-2 大学教育による将来の希望の実現性

医学部、歯学部、薬学部では約80-95%の学生が自分の将来の希望が実現できているのに対し、総合科学部、工学部の学生では22-51%の学生が自分の将来の希望が実現できないを選び、現在の希望と異なる仕事に就く可能性があると考えている。

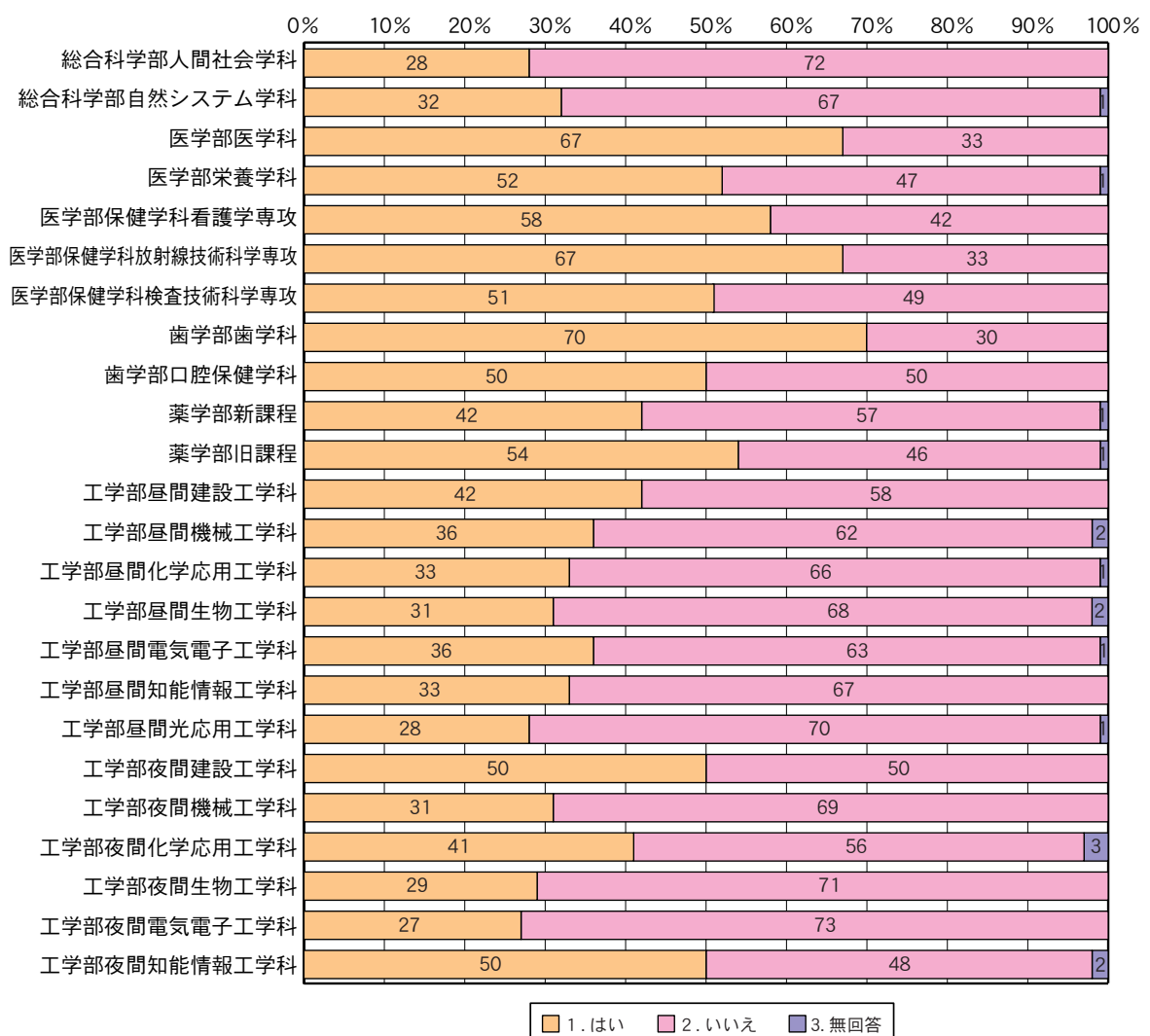
問6 現在あなたが受けている教育で将来の希望は実現できそうですか。



1-3 自己の学習による将来の希望の実現性

問6に較べ、「いいえ」を選んだ学生が増加し、将来の希望を実現するためには、現在の学習状況が不十分であることを自覚していると考えられる。特に総合科学部、工学部では約60-70%の学生が現在の学習態度に対して不十分と考えている。

問7 現在のあなたの学習態度で将来の希望は実現できそうですか。

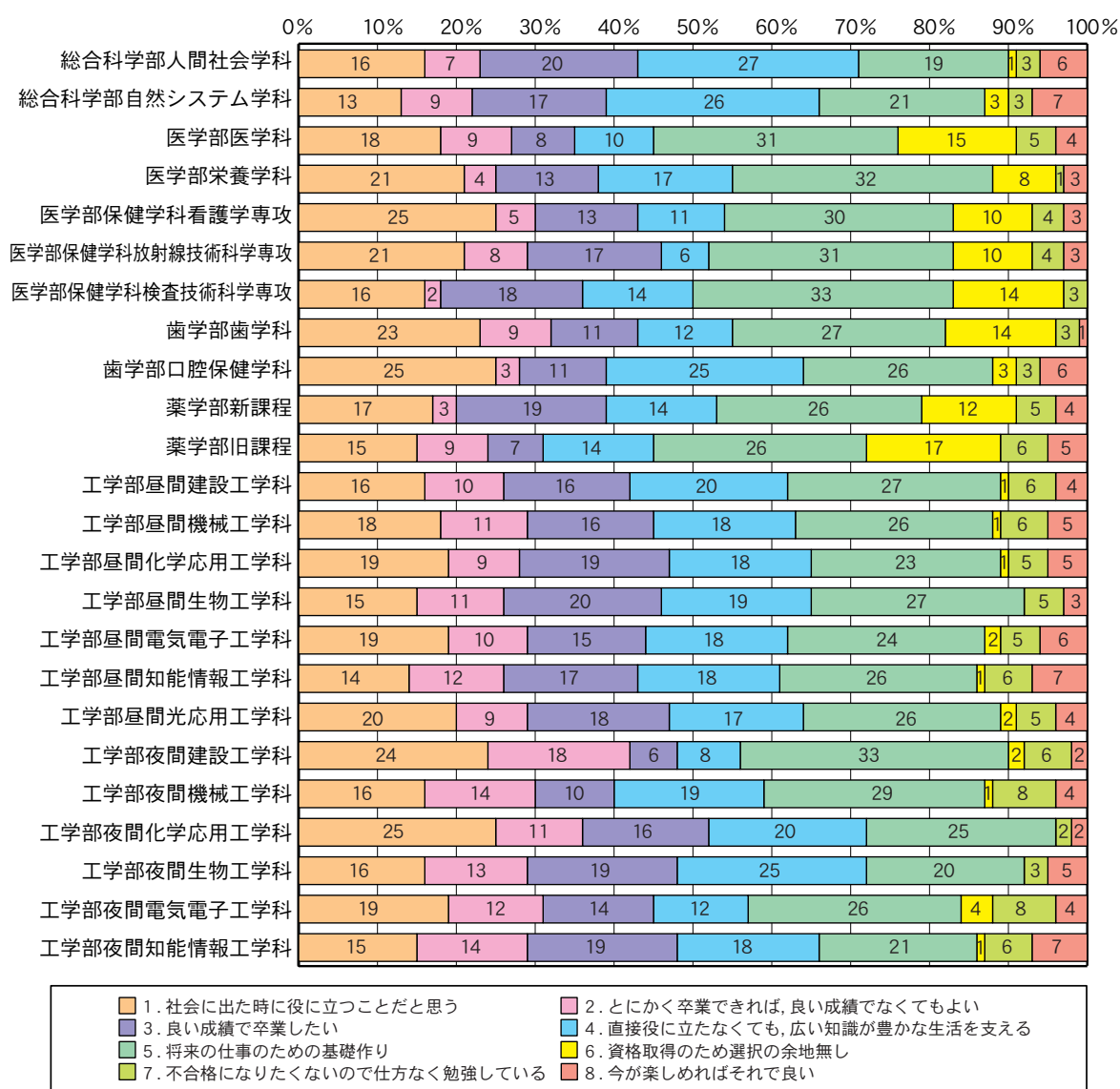


第2章 大学教育について

2-1 大学教育に対する考え

医学部、歯学部、薬学部は、国家試験があるためか、将来の仕事のための基礎作りを選んだ学生が一番多く、次いで社会に出た時に役に立つことだと思うである。総合科学部で最も多いのは直接役に立たなくても、広い知識が豊かな生活を支えるであり、次に多いのは将来の仕事のための基礎作りである。工学部は全学科で将来の仕事のための基礎作りを選んだ学生が一番多い。

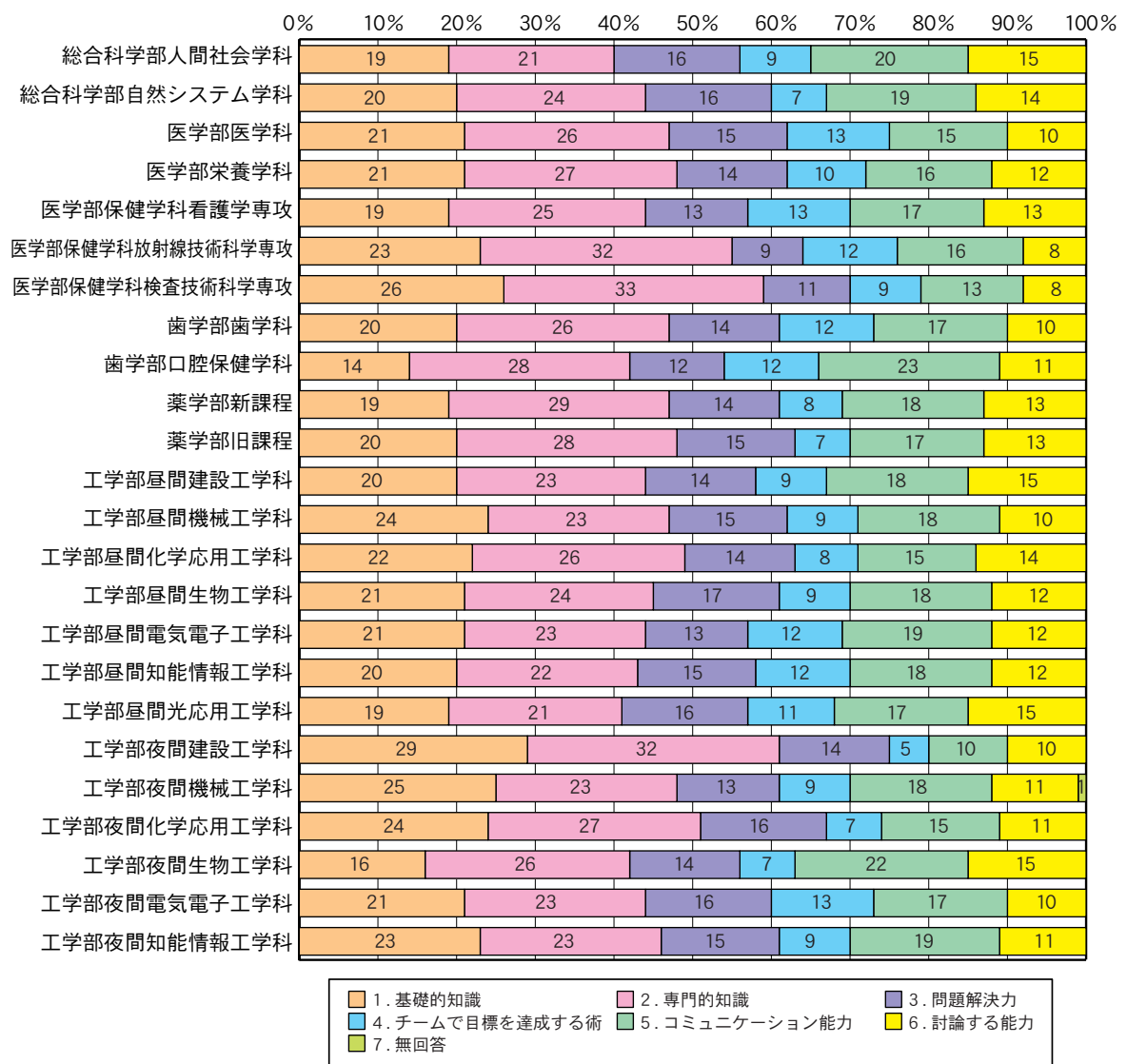
問8 大学教育について、どう思いますか。(複数回答可)



2-2 大学で獲得すべき知識、能力

全体的に、学生が大学で獲得すべき能力として考えているのは、専門的知識、コミュニケーション力、討論能力である。これらに加えて問題解決力を選んだ学生が多い。

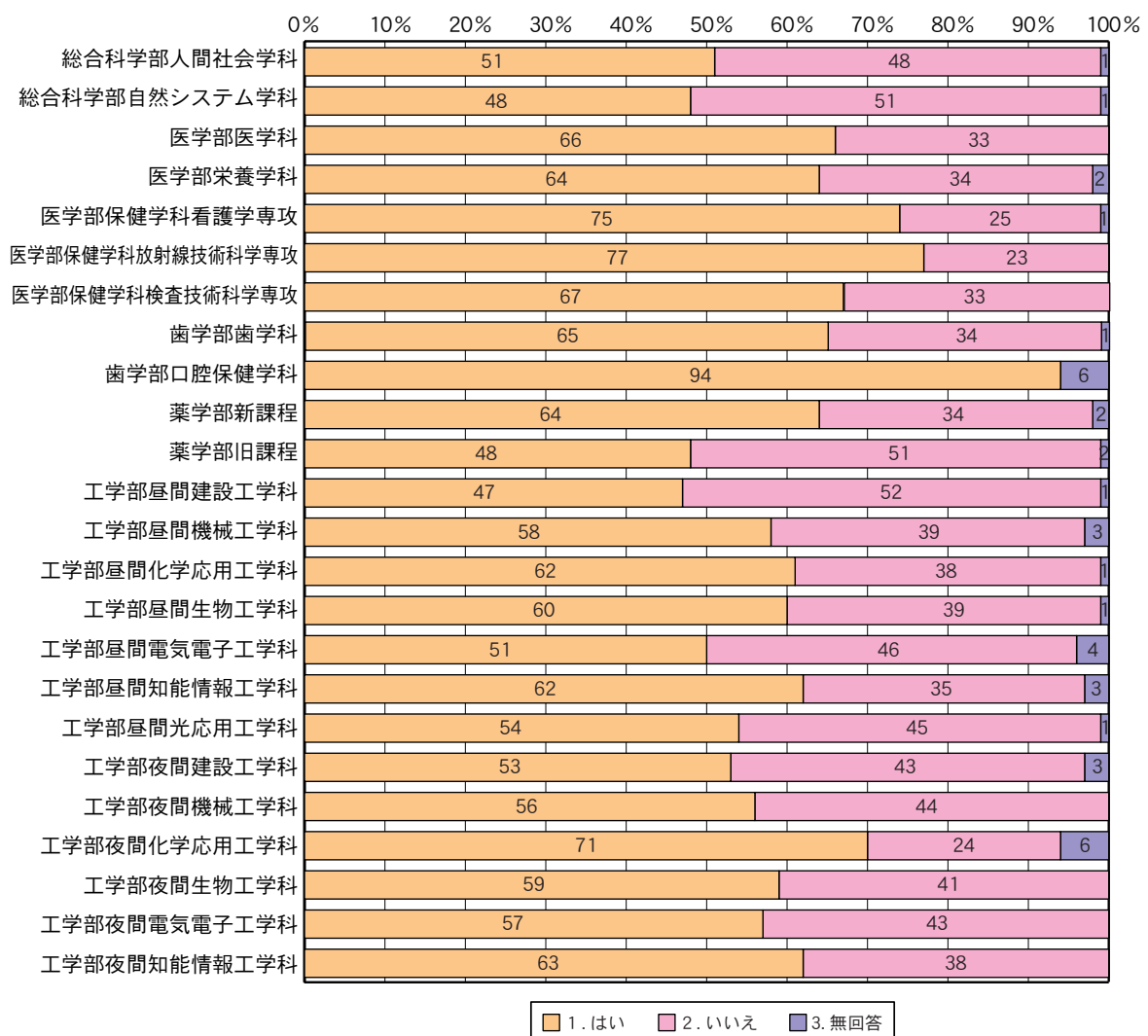
問9 大学で獲得すべき知識、能力をあげてください。(複数回答可)



2-3 大学教育での知識、能力の獲得可能展望

約30-50%の学生は、問9で答えた能力の獲得は、現在の教育では難しいと考えている。低学年に比べ高学年の学生がより難しいと考えている学生が多い。

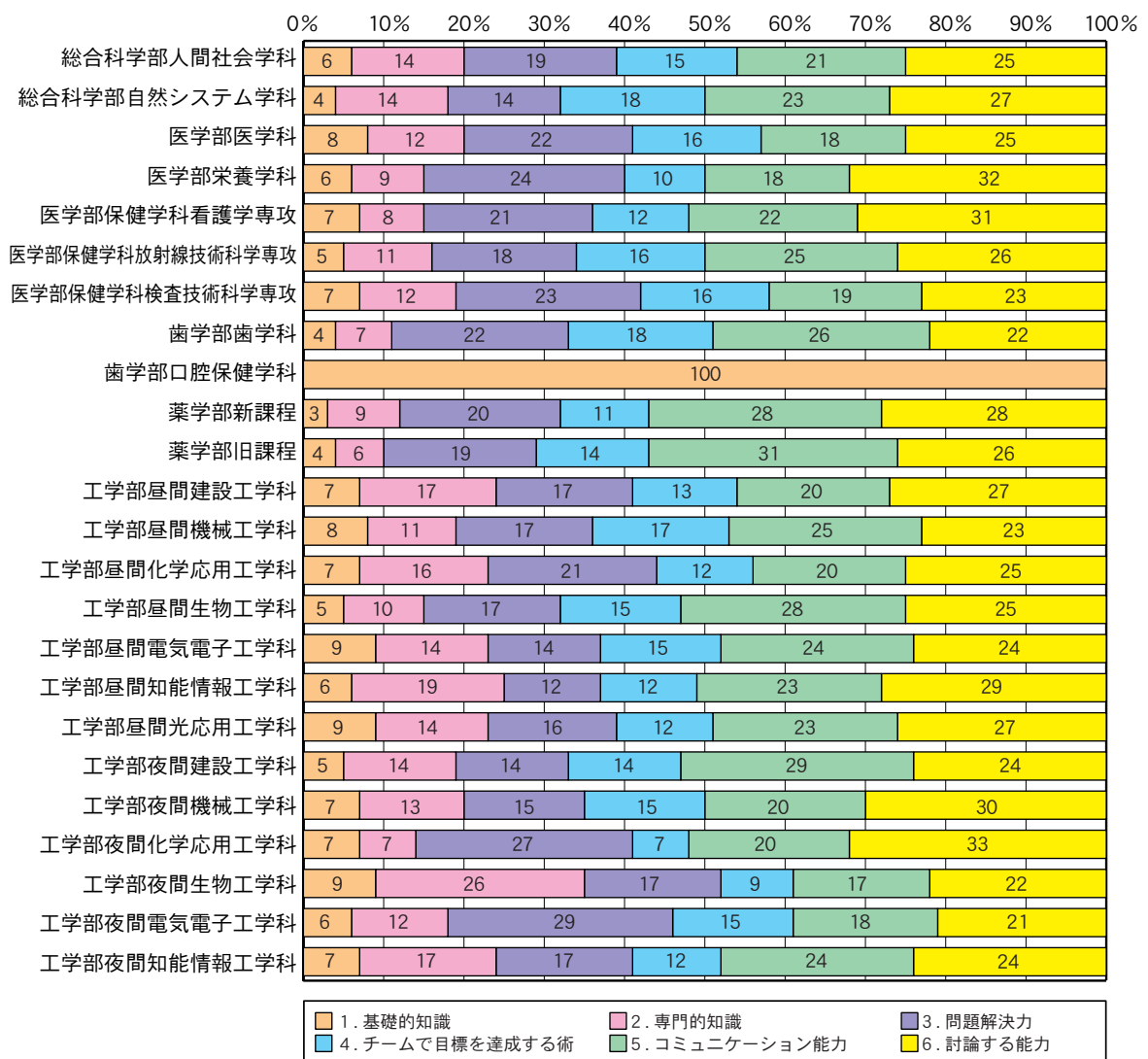
問10 これらの能力は現在の教育で獲得できると思いますか。



2-4 大学教育で獲得できない知識、能力

すべての学部学科において、獲得できない能力としてあげているのは、討論能力、ついでコミュニケーション能力であり、多くの学生がコミュニケーション能力に不安を持っていると考えられる。

問 11 問 10で「いいえ」と答えた人は獲得できない能力は以下のどれですか。(複数回答可)

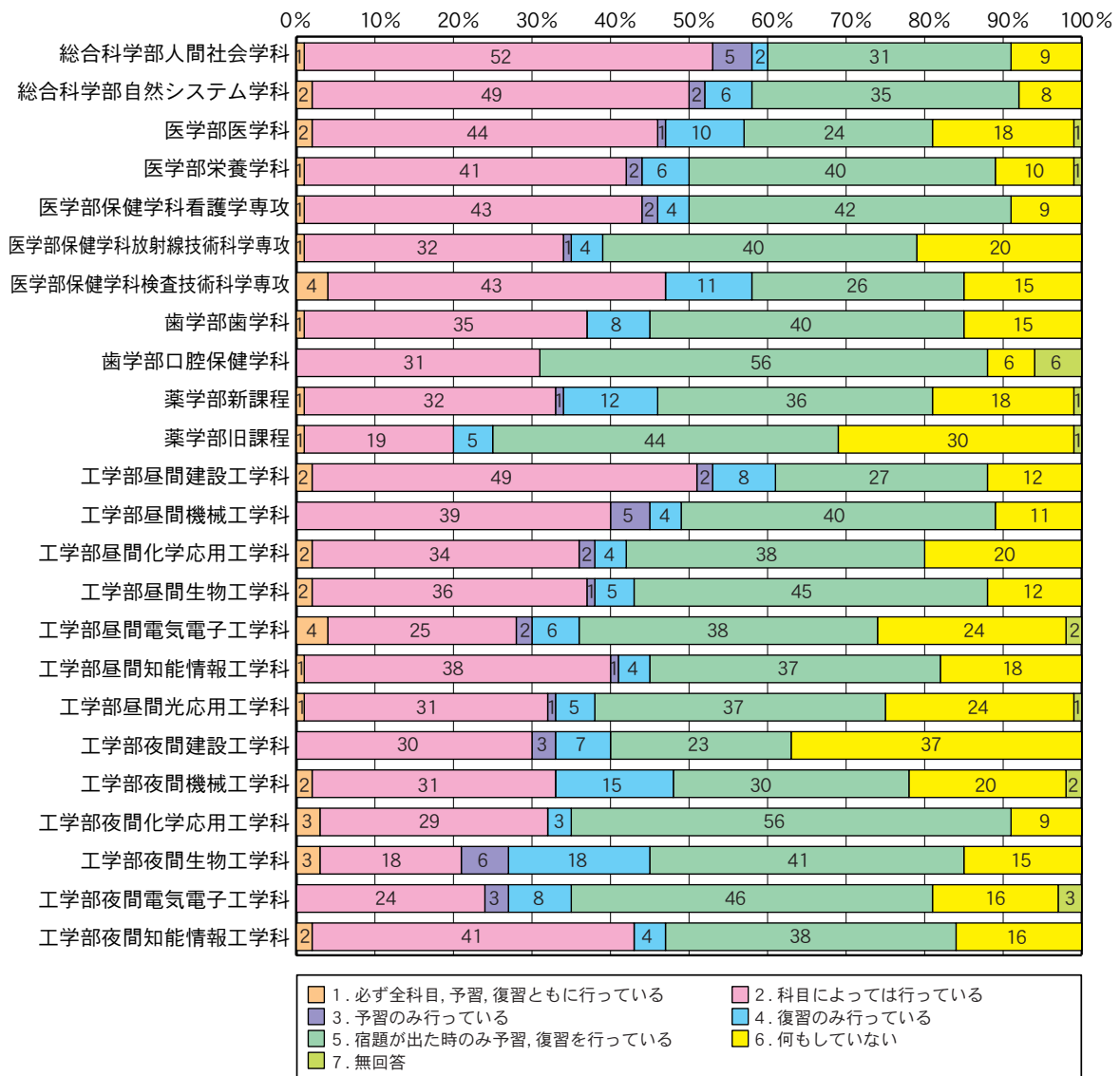


第3章 あなた自身について

3-1 予習・復習の実施状況

科目によっては予習・復習を行っているを選んだ学生が多く、教員の工夫で学生の自主的な学習を促進できる可能性を示唆している。何もしていない学生が6 - 37%おり、特に薬学部旧課程、工学部昼間電気電子工学科、工学部昼間光応用工学科、工学部夜間建設工学科では、何もしないと答えた学生の比率が高い。

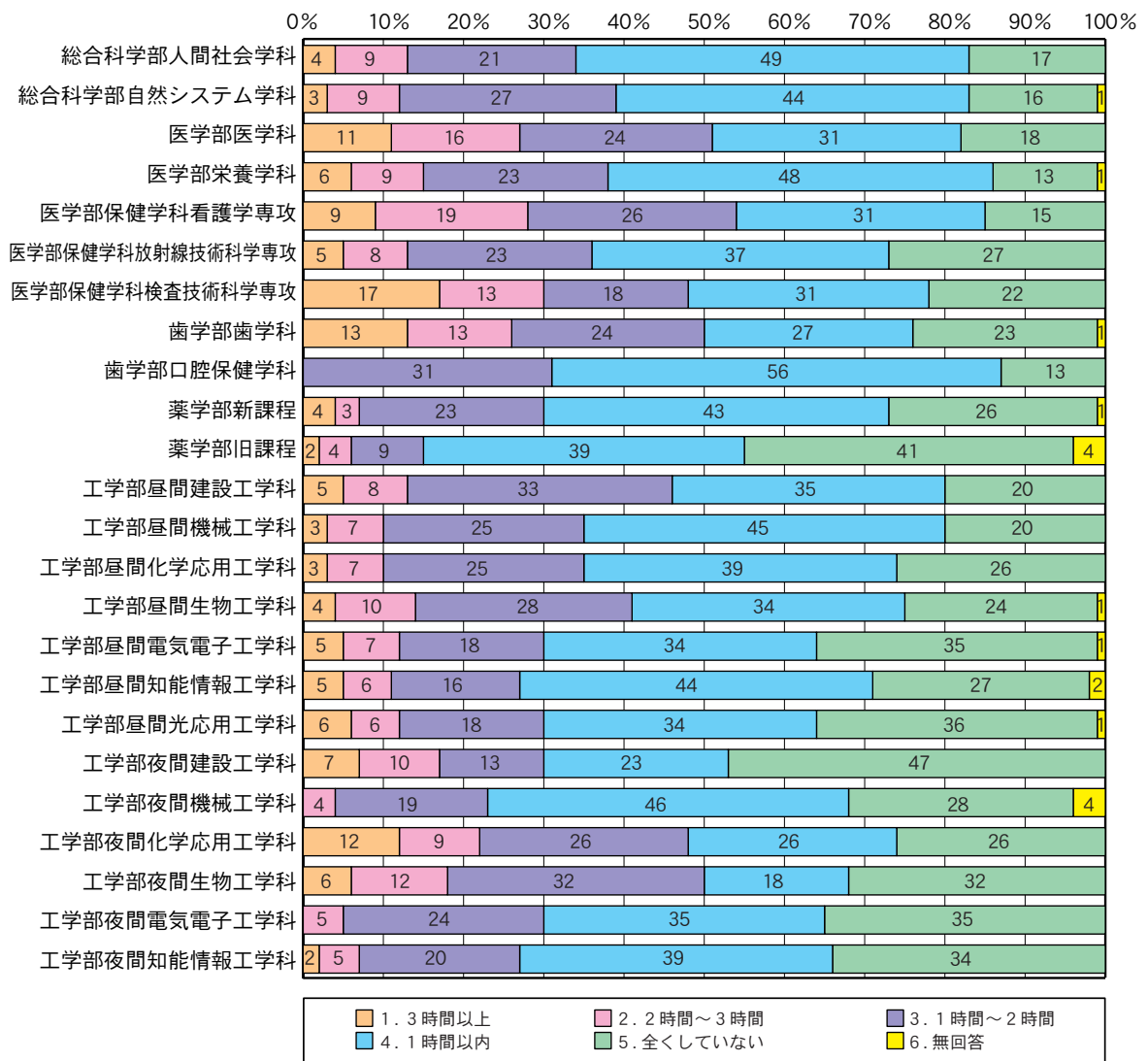
問 12 授業に対して毎回予習、復習を行っていますか。



3-2 予習・復習の時間

すべての学部において、予習・復習に使っている時間は1時間以内と答えた学生が最も多い。2時間以上学習している学生は、医学科27%、保健学科看護学専攻28%、保健学科検査技術科学専攻30%、歯学科26%が高い。大学生として必要な学習時間が確保されていない。

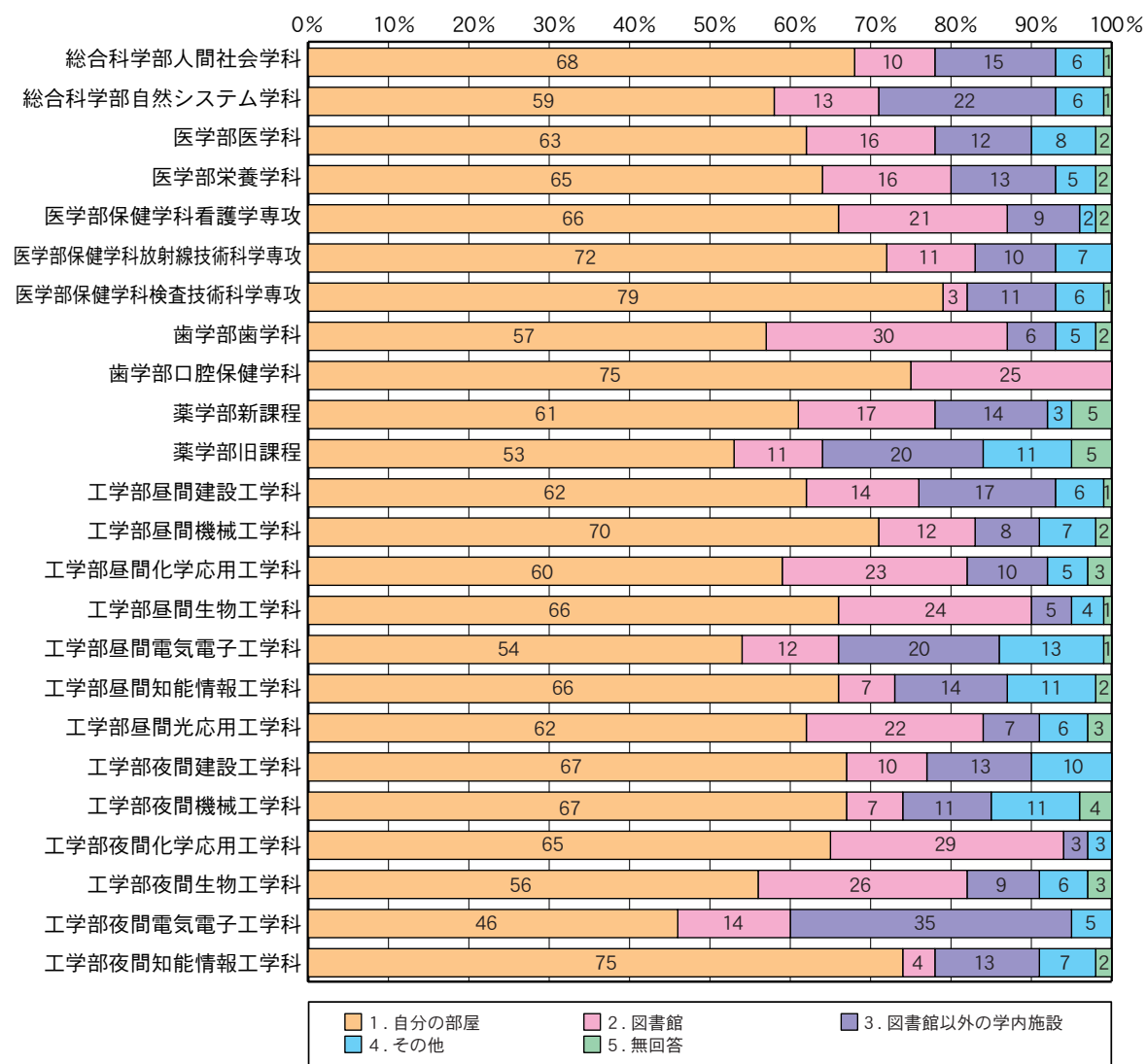
問13 1日平均するとどれくらい予習・復習を行っていますか。



3-3 予習・復習の場所

ほとんどの学生は自分の部屋で学習しているが、歯学部学生は図書館で勉強する学生も多い。

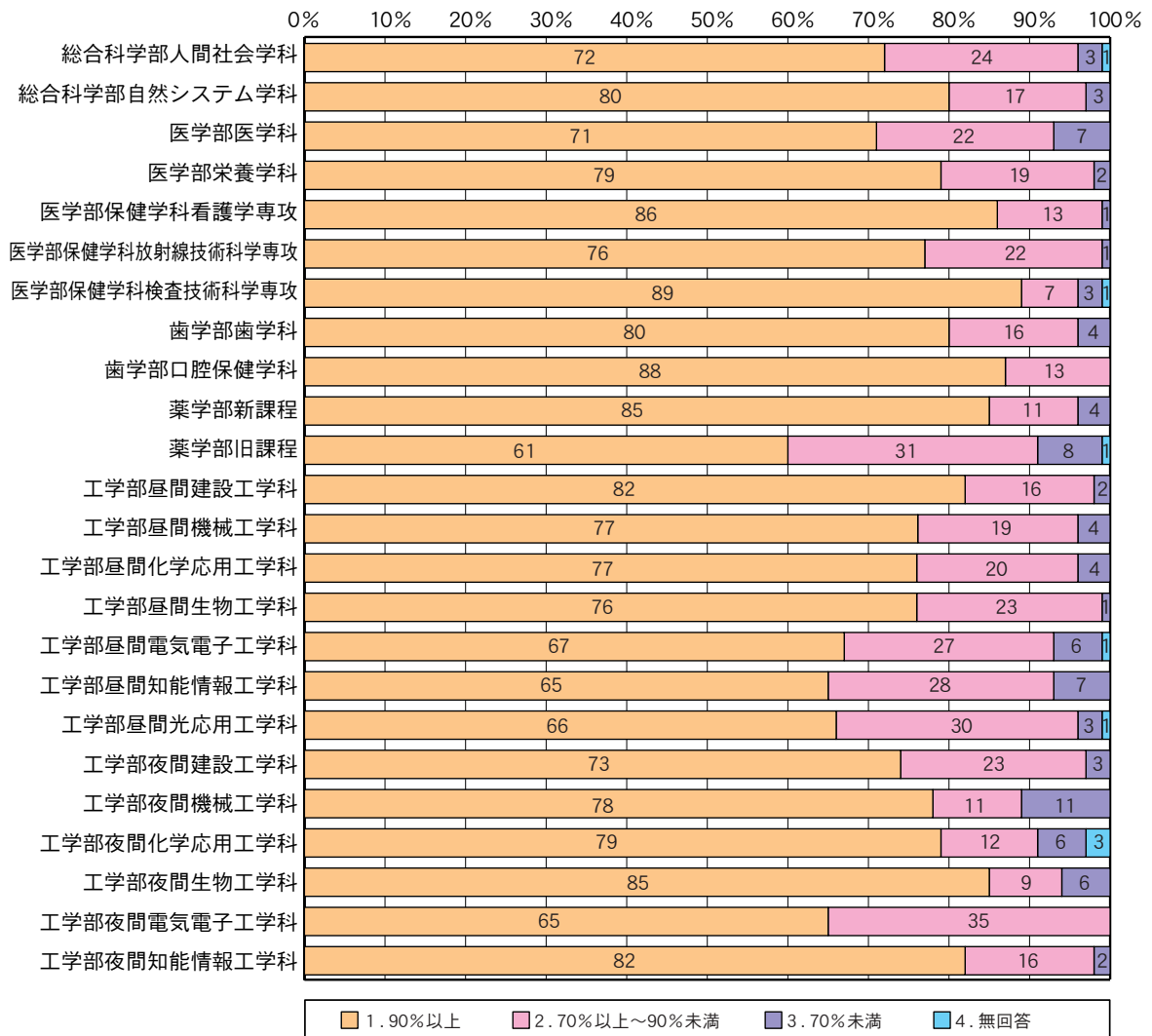
問 14 予習・復習は、主としてどこで行っていますか。



3-4 授業の出席率

90%以上の出席率の学生は、人間社会学科72%、自然システム学科80%、医学科71%、栄養学科79%、保健学科看護学専攻86%、保健学科放射線技術科学専攻76%、保健学科検査技術科学専攻89%、歯学科80%、口腔保健学科88%、薬学部新課程85%、薬学部旧課程61%、工学部は65-85%であった。薬学部旧課程、工学部昼間知能情報学科の学生の出席率が低い。

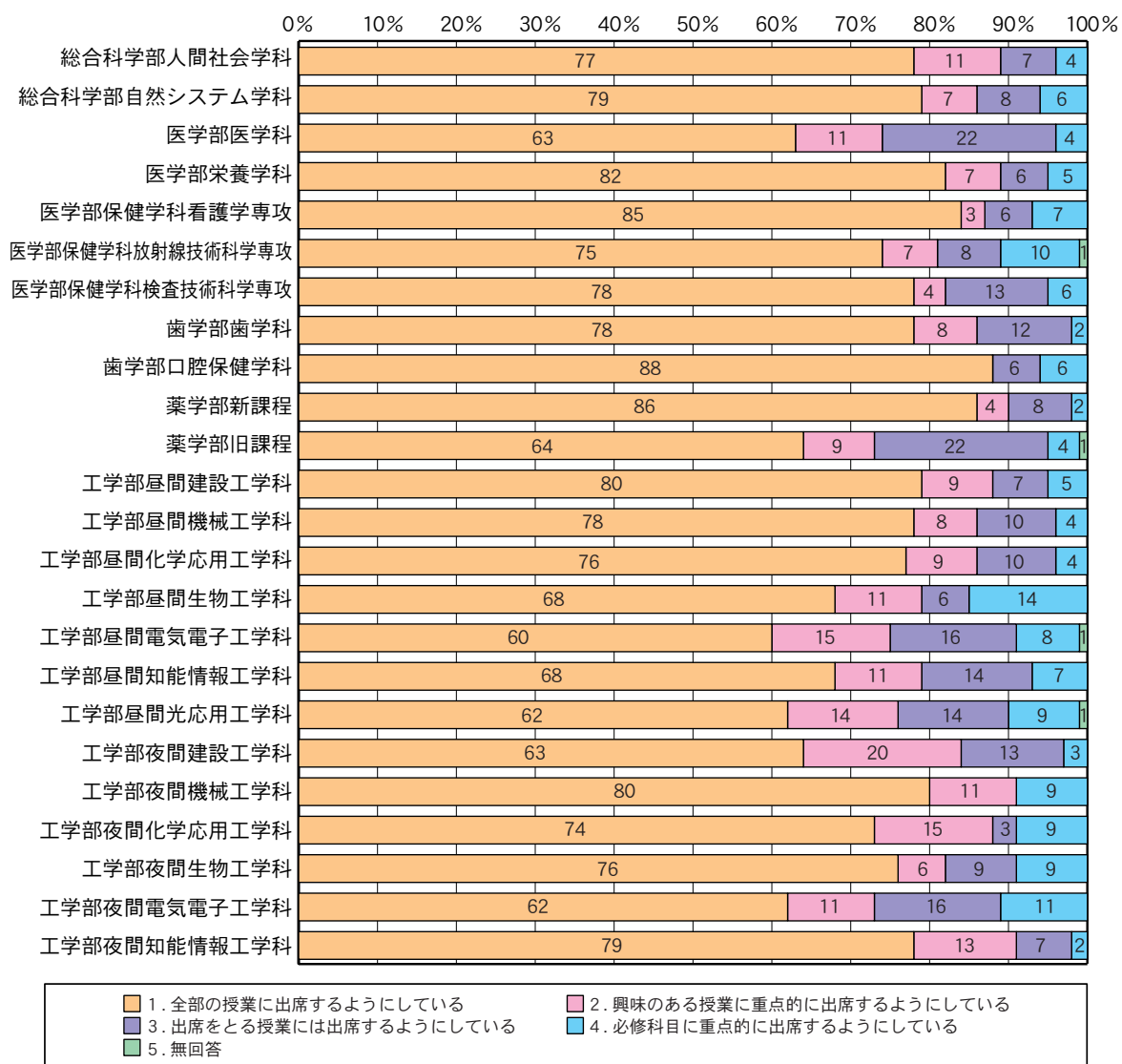
問 15 授業の出席率は平均でどのくらいですか。



3-5 授業に出席することへの考え

ほとんどの学生は、全部の授業に出席するようにしているが、出席をとる授業には出席するようにしている学生も10%前後いる。医学科、薬学部旧課程では、22%の学生が出席をとる科目には出席するようにしていると答えており、教員が出席をとることを徹底することにより、出席率の向上が期待される。

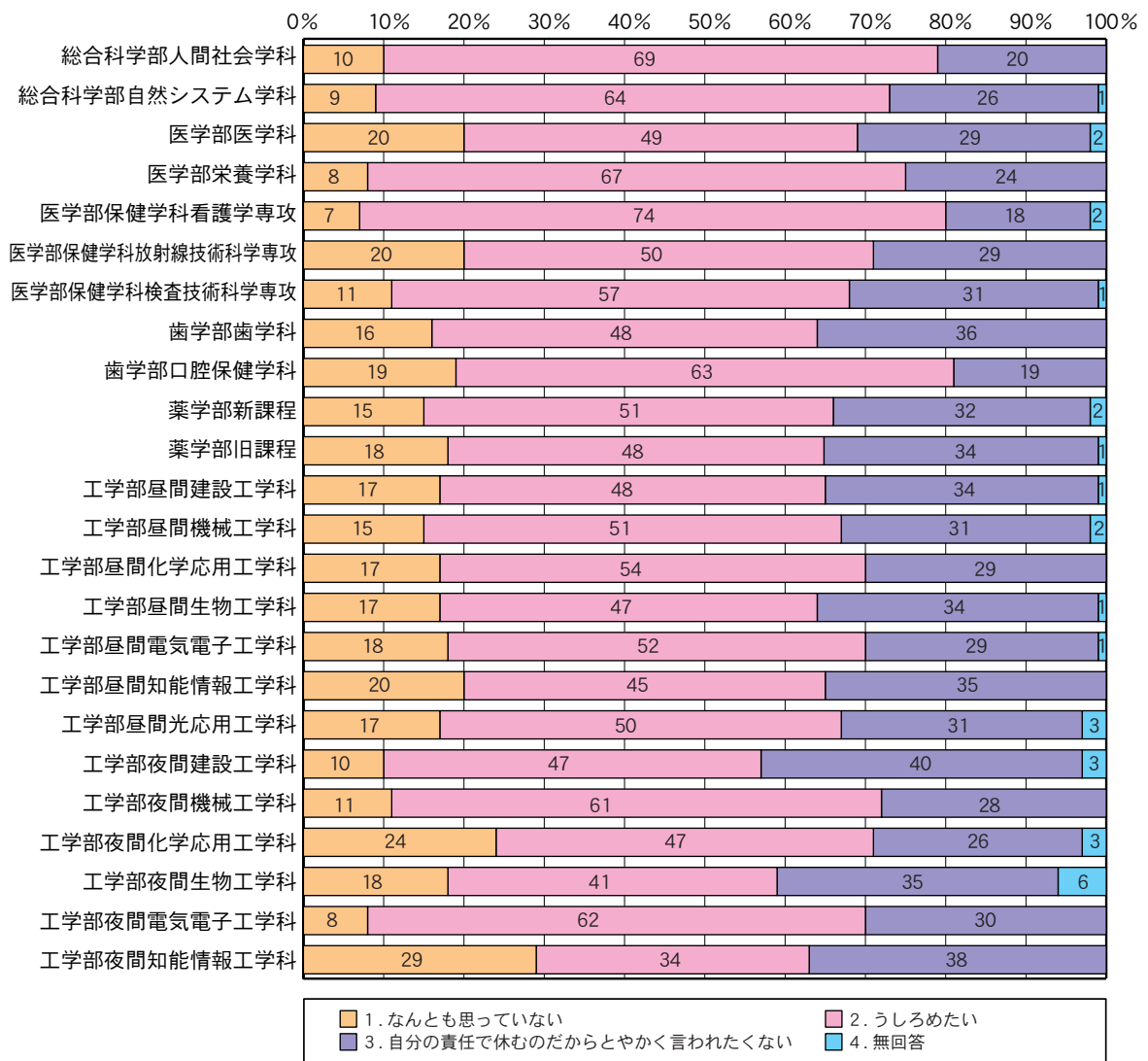
問 16 授業へ出席することについてどのように考えていますか。



3-6 授業を休むことに対する考え

授業を欠席することに対して何とも思っていない学生は、総合科学部、栄養学科、保健学科看護学専攻、工学部夜間建設工学科、工学部夜間電気電子工学科が7-10%であるが、他の学部学科では11-29%であった。

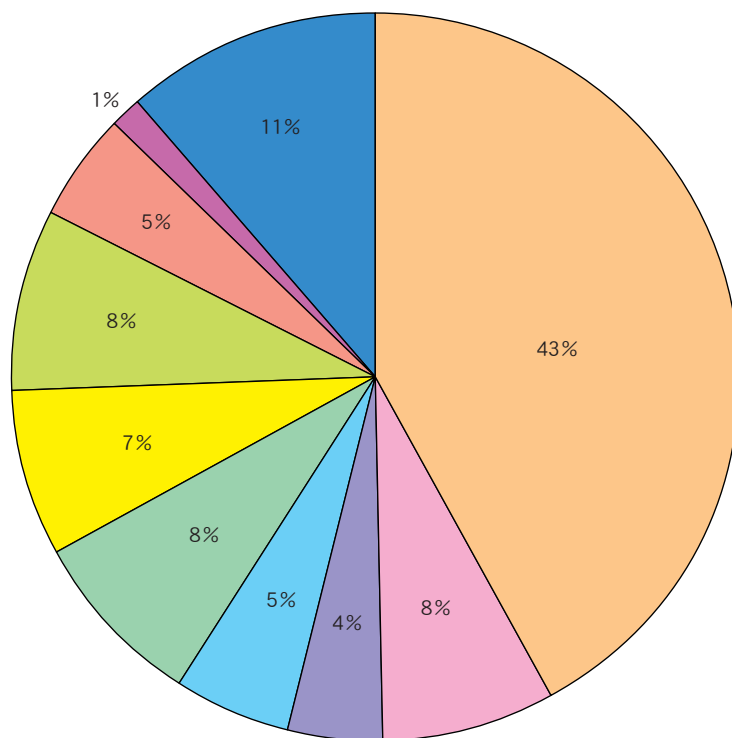
問 17 授業を休むことをどう思っていますか。



3-7 授業を休む場合の理由

授業を欠席する理由としては、朝寝坊が一番多いが、注目すべきは教員が出席をとらないから、または授業が面白くないからをあげた学生がかなりいることである。さらに大学全体で、1%の学生が授業が理解できないと答えている。これらの結果は、教員の努力で出席率の向上が可能であることを示している。

問 18 病気などのやむを得ない理由ではなく授業を休む場合の理由は何ですか。(複数回答可)

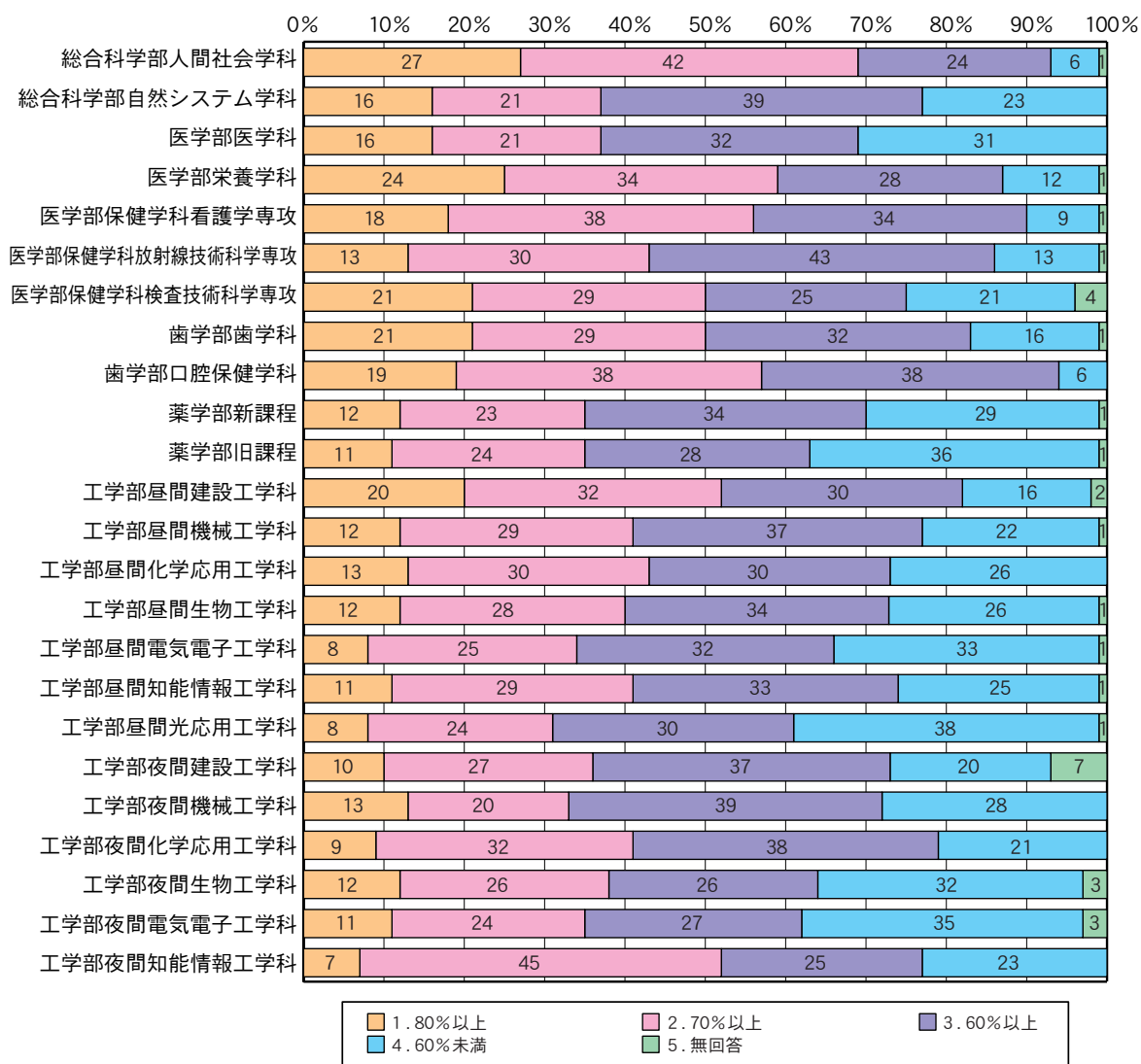


- | | | |
|------------------|----------------------|----------------|
| 1. 朝寝坊 | 2. サークル・クラブ活動 | 3. アルバイト |
| 4. 遊び | 5. 他科目のレポート作成 | 6. 他科目の試験勉強 |
| 7. 教員が出席をとらないから | 8. 出席しても遅刻すると欠席になるから | 9. 授業が理解できないから |
| 10. 授業がおもしろくないから | | |

3-8 授業内容を理解できる授業科目の割合

60-70%以上理解している学生が多い。60%未満の理解と答えた学生は、人間社会学科、栄養学科、保健学科看護学専攻、保健学科放射線技術科学専攻、歯学部では、6-16%の学生であるが、自然システム学科は23%、医学科は31%、保健学科検査技術科学専攻は21%、薬学部新課程は29%、薬学部旧課程は36%、工学部は16-38%であり、理解度が低い傾向にある。工学部では、全体的に70%以上理解の学生に比べ、60%以上理解の学生の比率が高い。学生の理解度を向上させるためには、宿題を課す等自主学习を促すための方策と授業改善が必要と思われる。

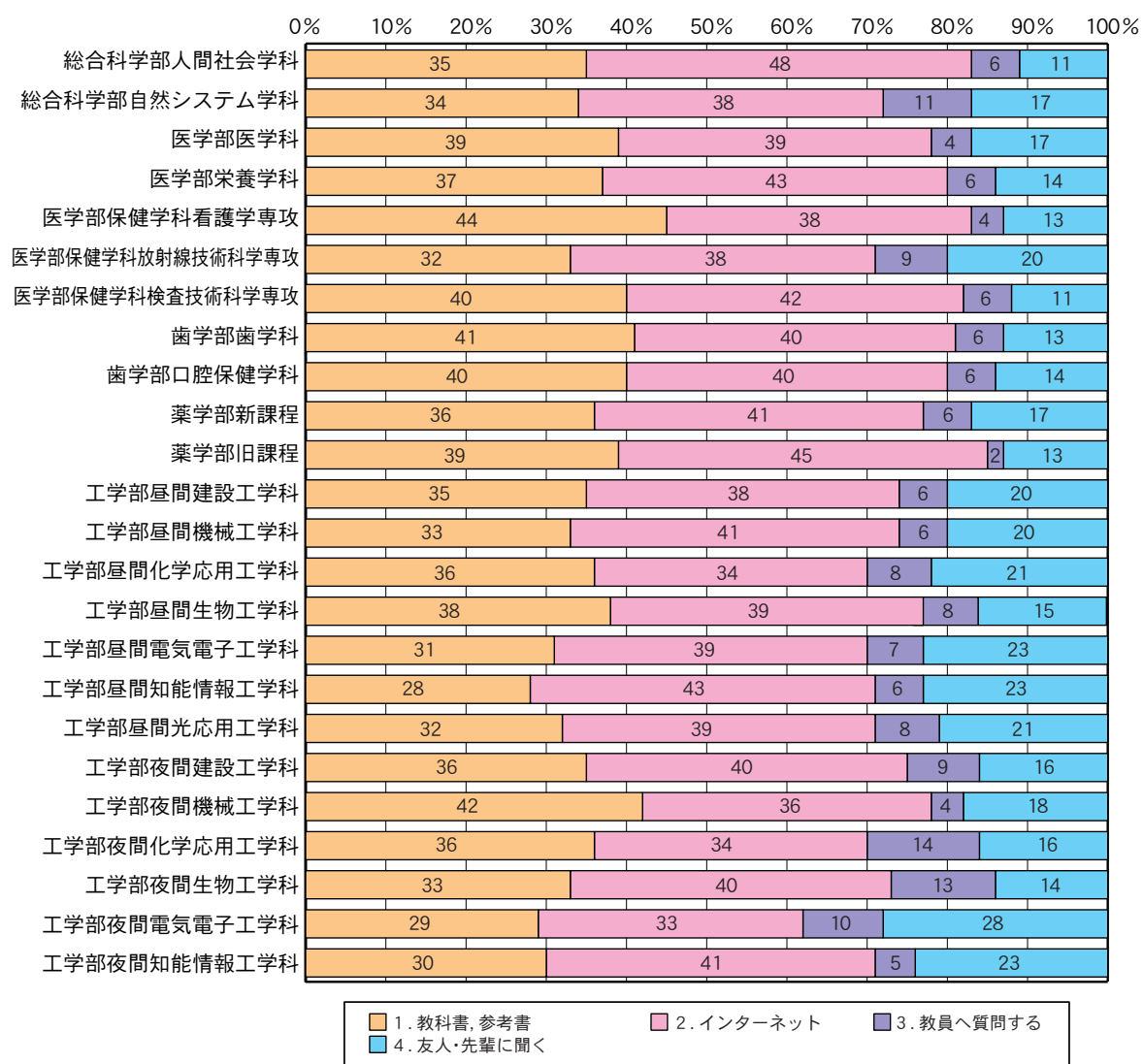
問 19 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。



3-9 レポートや宿題をする際の情報源

全ての学部学科において、インターネットと教科書、参考書で調べると答えた学生がほとんどである。教員に質問すると答えた学生は2-14%で非常に少ない。この結果を、学生が自らの力で学習していると考えるか、オフィスアワーを活用させる教員の努力が不足していると考えるか、判断することはできない。学生が調べた結果が教員の要求度を満足しているか、の確認と指導が重要である。

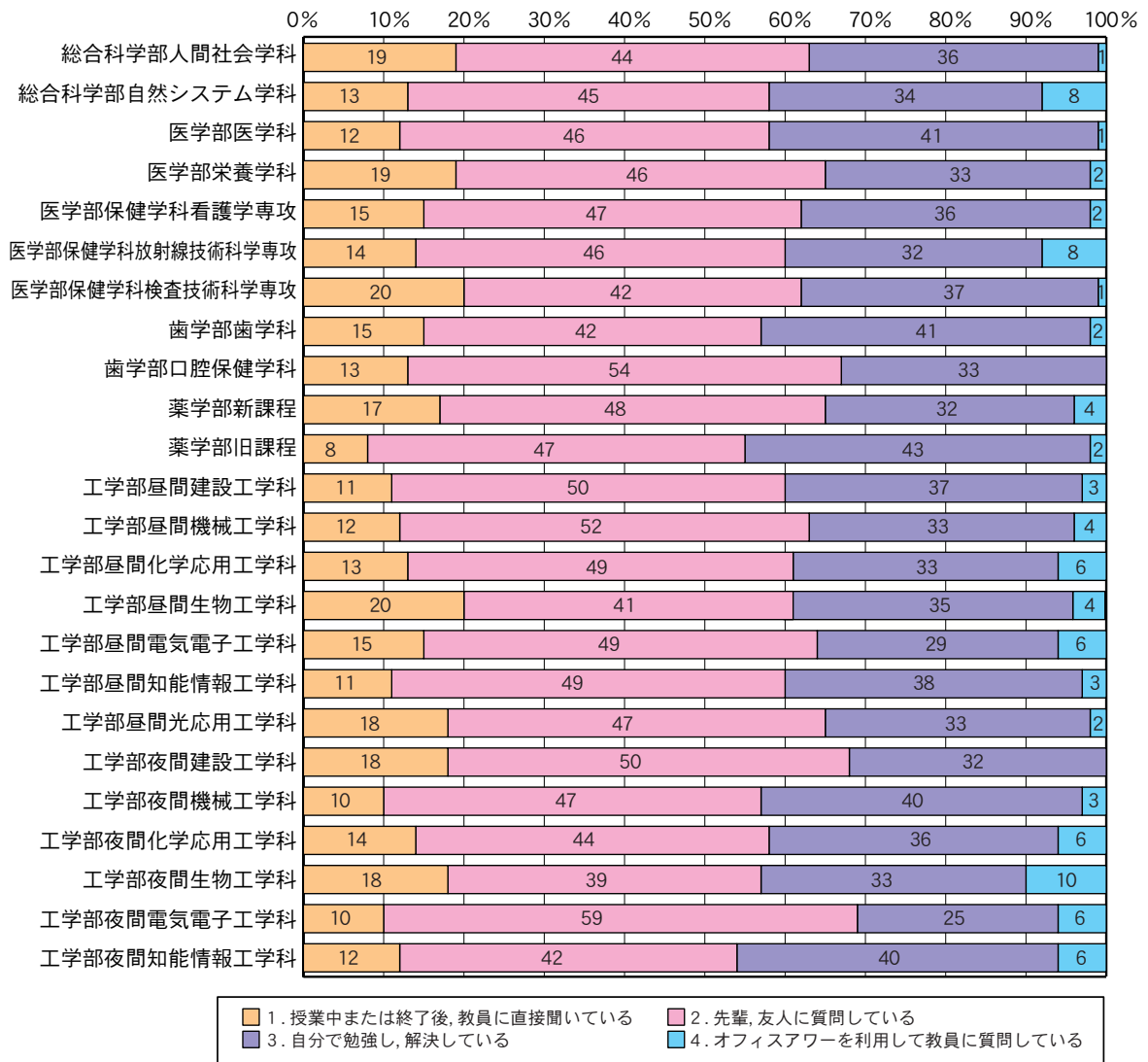
問20 レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)



3-10 授業でわからないところの対処方法

先輩・友人に聞く、または自分で勉強し、解決していると答えた学生がほとんどであるが、自分で学習する学生が多い。教員の予想以上に、学生は不明な点は、自分で勉強し解決している。

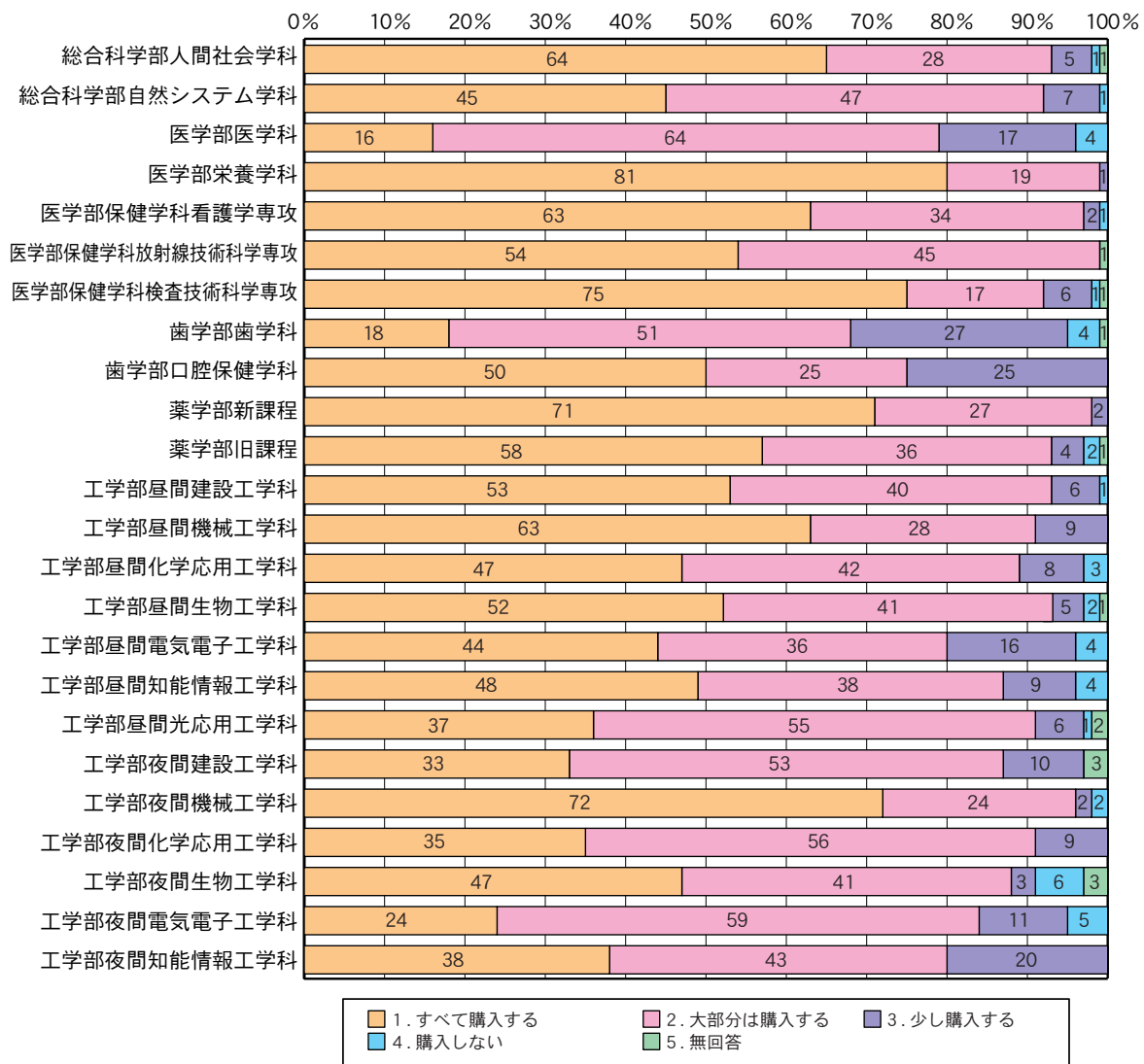
問 21 授業でわかりにくかったところは、どうしていますか。(複数回答可)



3-11 教科書の購入状況

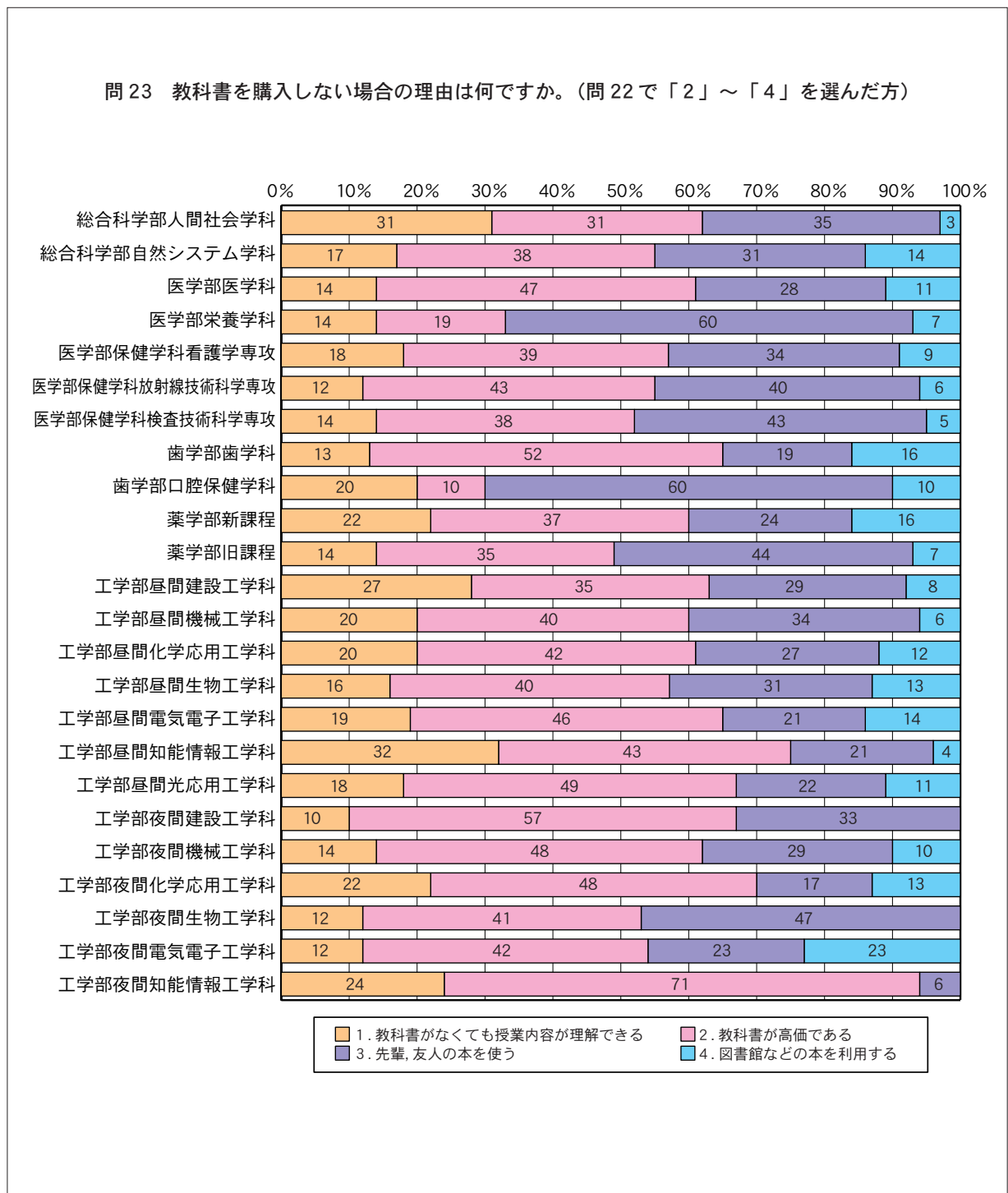
すべてまたは大部分購入すると答えた学生が大部分であるが、少しまたは購入しないと答えた学生が、10%前後存在する。栄養学科は1%で最低の値だが、歯学科は31%の学生がほとんどの教科書を持っていない。また、大部分は購入するが全ては購入しない学生と、すべて購入する学生の比率は、総合科学部で1：1、医学科で4：1、保健学科放射線技術科学専攻で1：1、歯学科で3：1、工学部では学科間で差はあるが平均して、0.8：1であった。

問 22 指定された教科書は購入していますか。



3-12 教科書を購入しない理由

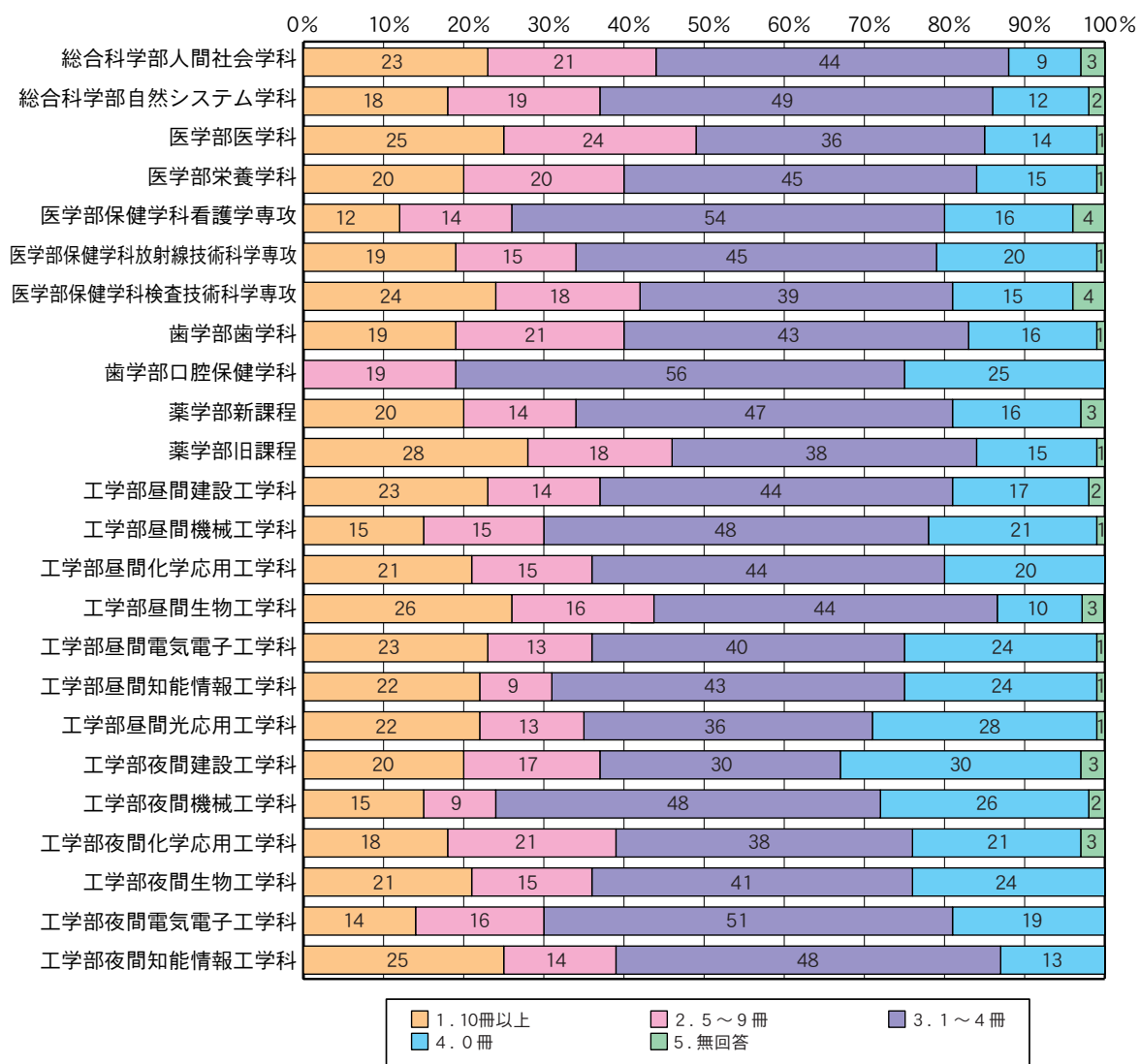
教科書を購入しない原因として1番多いのは教科書が高価であるという原因で、次に多いのは先輩・友人の本を使うであった。10-32%前後の学生は、教科書がなくても理解できるからと答えている。



3-13 年間単行本（専門外）読書冊数

一般的な読書に関する質問であるが、学部学科間であまり差は見られない。9-30%の学生は1年間全く読書していない。10冊以上読んでいる学生は、約20%である。学生が大学で身につけたい能力としてあげているコミュニケーション能力、討論する能力を得るためには、読書が必要であることを初年度に指導する工夫が必要である。

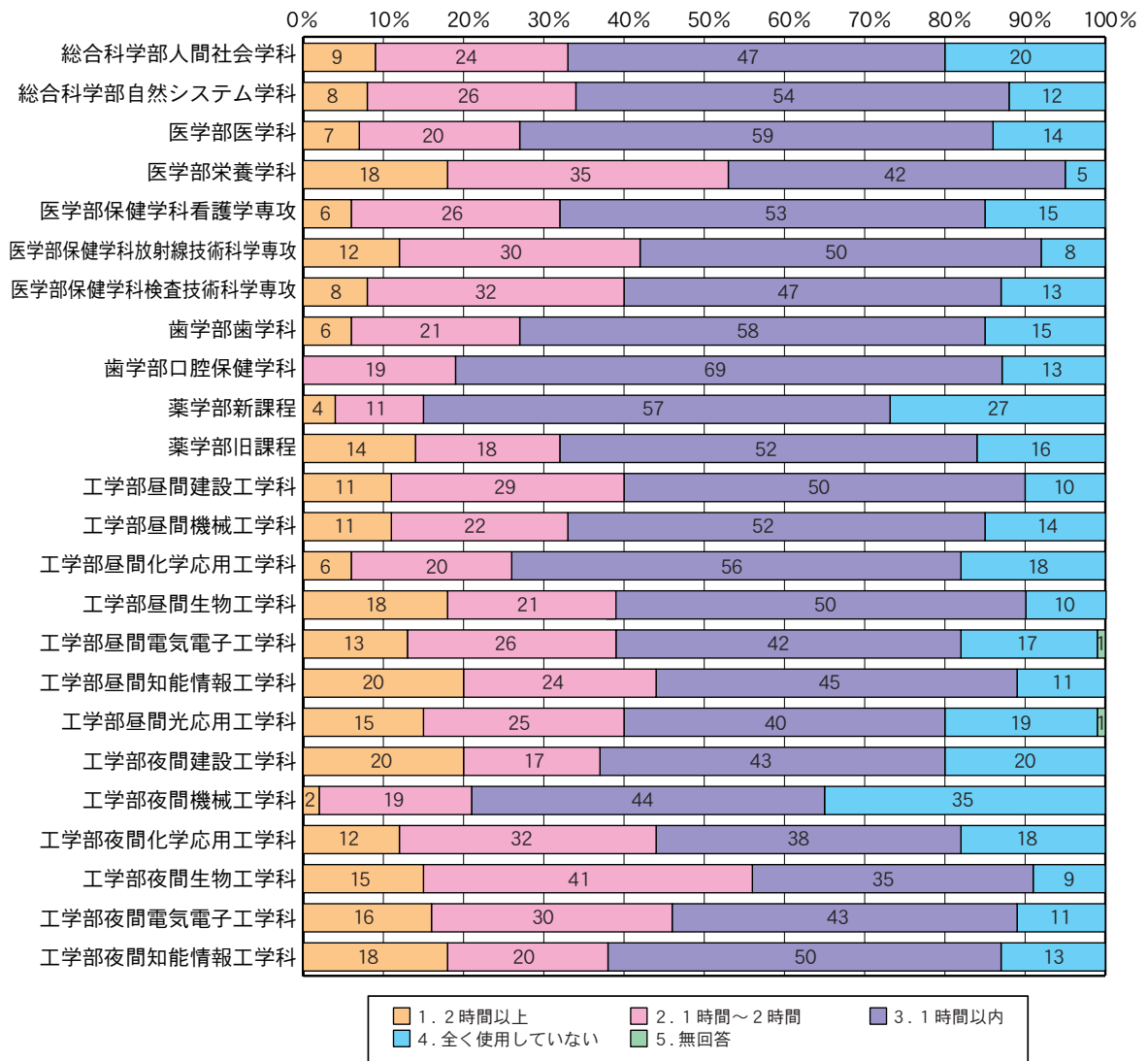
問 24 平均して1年間に何冊程度の単行本（専門外）を読んでいますか。



3-14 1日のインターネット利用時間

学習のためのインターネット使用時間は、1時間以内と答えた学生が最も多いが、工学部は他学部と比較べ、使用時間が長い傾向にある。

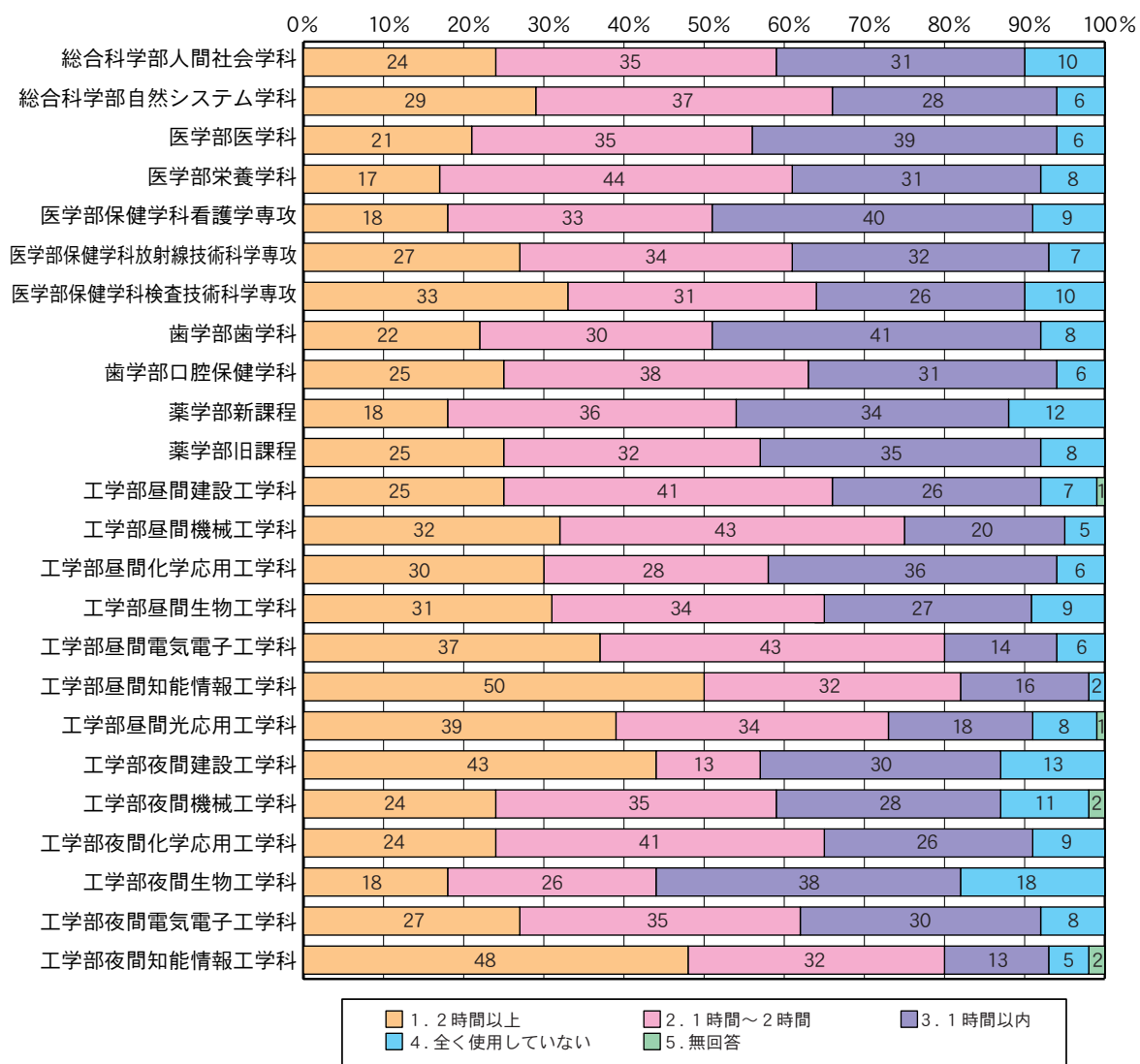
問 25 学習のためにインターネットを1日何時間くらい使用していますか。



3-15 学習以外での1日のインターネット利用時間

学習以外の目的のインターネット使用時間は、工学部以外では1-2時間が平均であるが、工学部では24-50%の学生が1日2時間以上使用し、学習時間が少ない原因のひとつと考えられる。

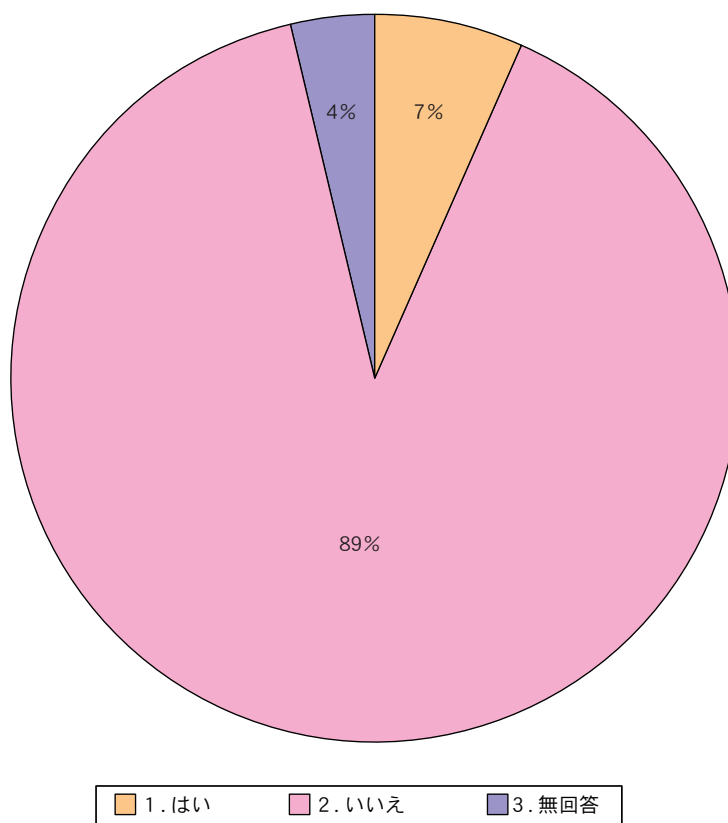
問26 学習以外の目的でインターネットは1日何時間ぐらい使用していますか。



3-16 シラバスの利用状況

シラバスの使用に関する問いであるが、ほとんどの学生は予習、復習のために毎週見ていないという結果であった。授業において、来週の講義の説明と予習する部分の指示を教員が行えばシラバスを確認する必要もなく、この質問からシラバスが全く利用されていないとは断定できない。教員がより丁寧な講義を行う程、シラバスへの依存度は低くなる。詳細な講義計画と講義毎に使用する教科書のページ数が明記されているシラバスを作成し、教員がシラバスを見て予習することを指示すれば、その利用率は高くなるはずである。

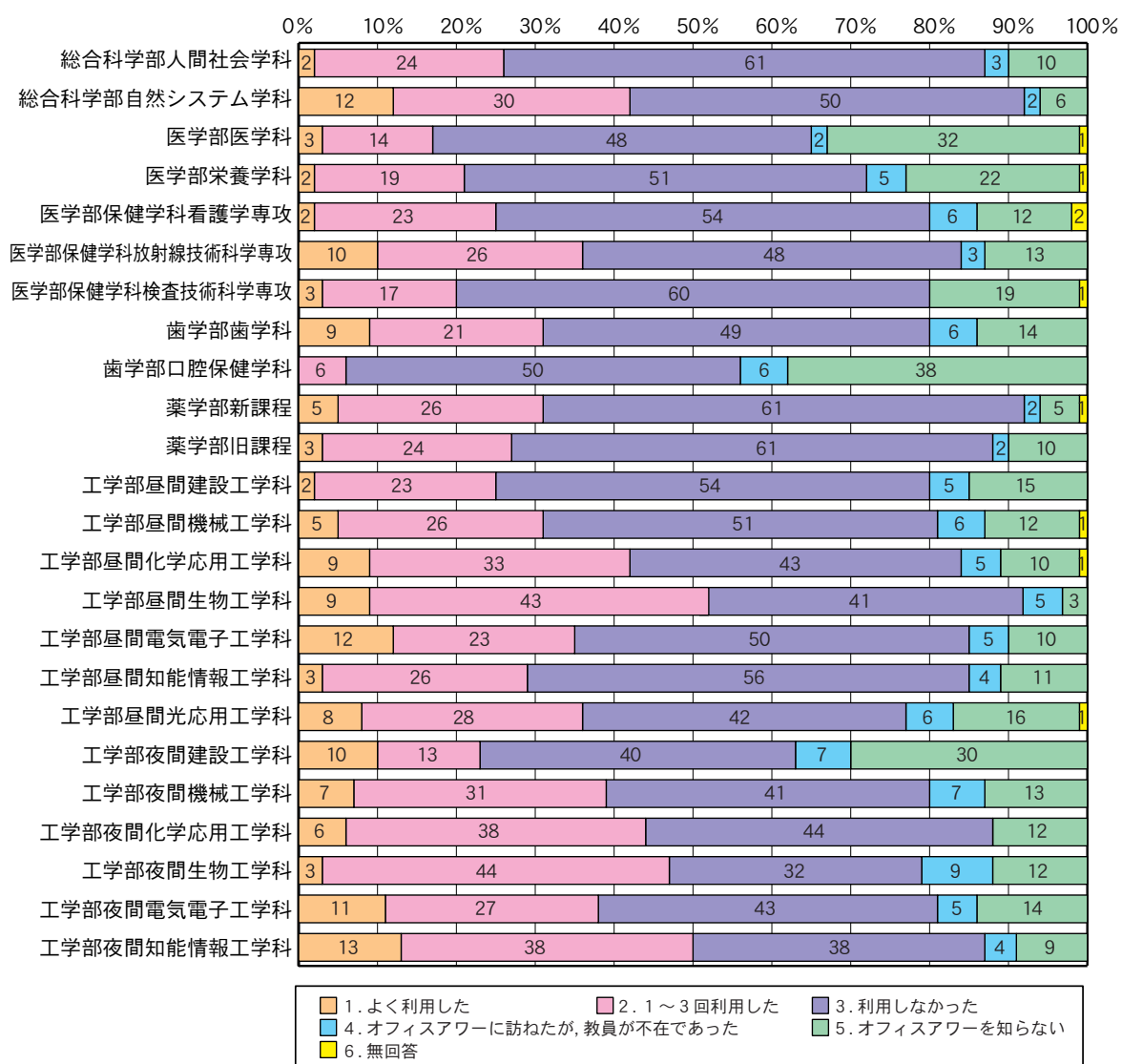
問 27 シラバスは毎週確認し、授業の予習・復習に役立っていますか。



3-17 オフィスアワーの利用状況

総合科学部、医学部、歯学部、薬学部では、オフィスアワーを利用していない学生の比率は、48 - 61%であった。工学部では、32 - 56%であった。医学部、歯学部では、オフィスアワーを知らない学生の比率が12 - 38% (医学科は32%、口腔保健学科は38%)で、総合科学部、工学部に比べ、高い傾向である。オリエンテーションや大学入門講座での周知徹底と、教員の積極的利用が必要と思われる。

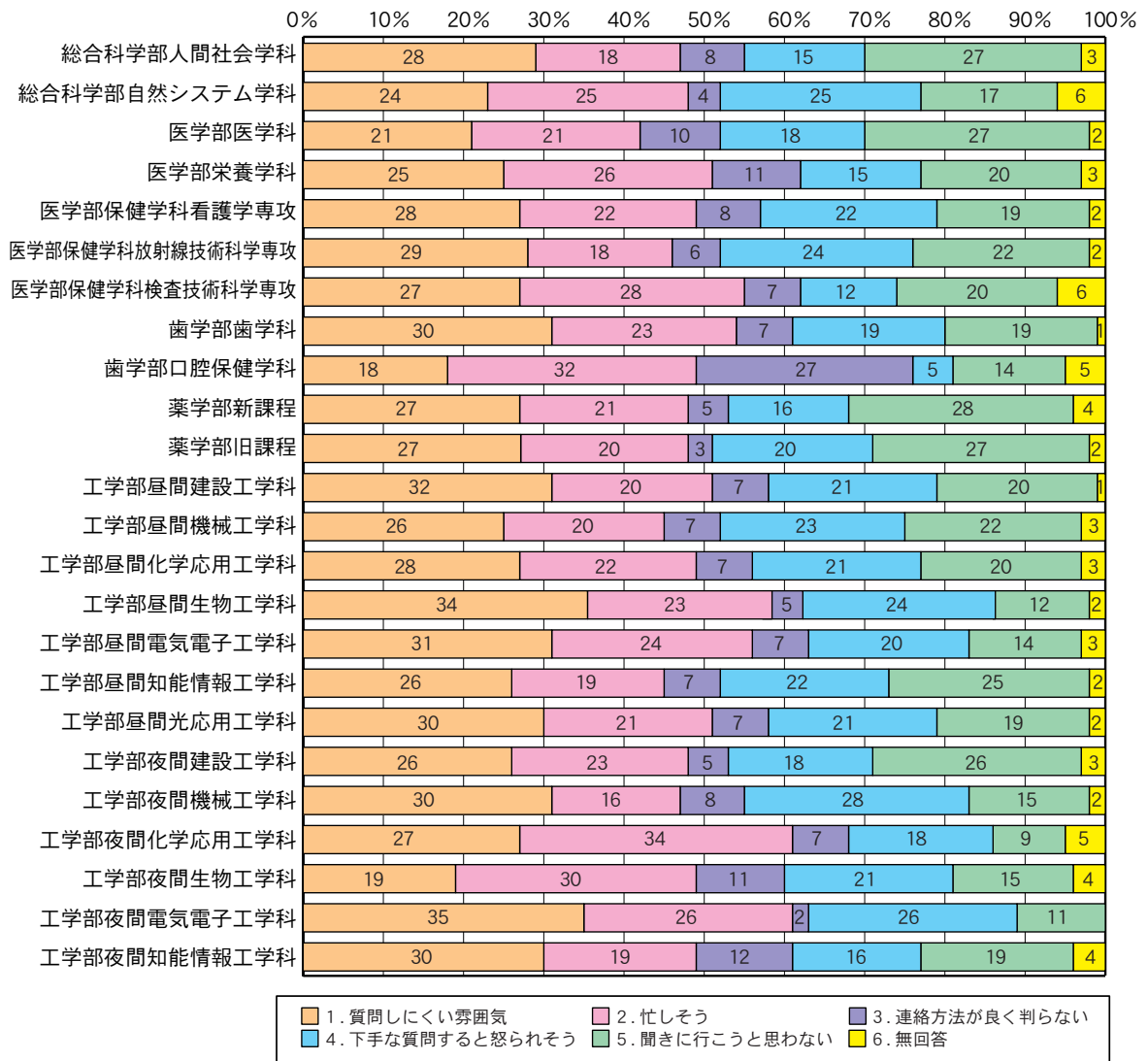
問 28 オフィスアワーはどれくらい利用しましたか。



3-18 教員に質問に行かない理由

聞きにいけないと思わないと答えた学生がすべての学部で多いが、質問しにくい雰囲気、教員が忙しい、下手な質問をすると怒られそうと答えた学生も多く、教員の努力でオフィスアワーの利用率はもっと高められる可能性がある。

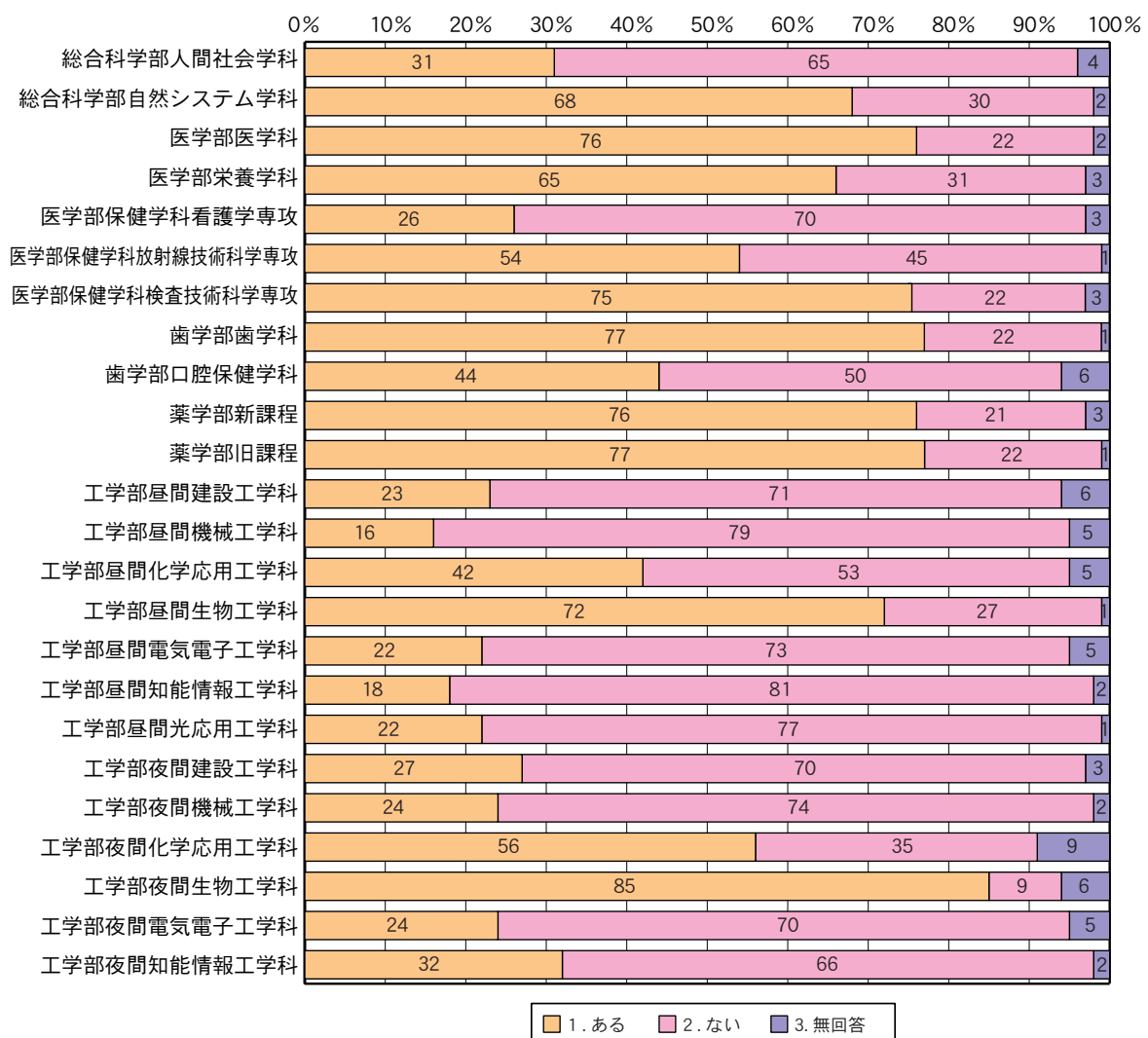
問 29 教員へ質問にいかない理由は何ですか。(複数回答可)



3-19 高校で未履修科目があるため、大学で理解困難な科目の有無

学部学科間で大きな差が見られ、困難さがなかったと答えた学生は、人間社会学科、保健学科看護学専攻、工学部（生物工学科を除く）では約30%であったが、自然システム学科、医学科、歯学科、薬学部、工学部生物工学科では、約70%の学生が困難な科目があったと答えている。理系の中で、ライフサイエンス系の学生が理解困難な科目が多いと答えており、物理の可能性が高い。

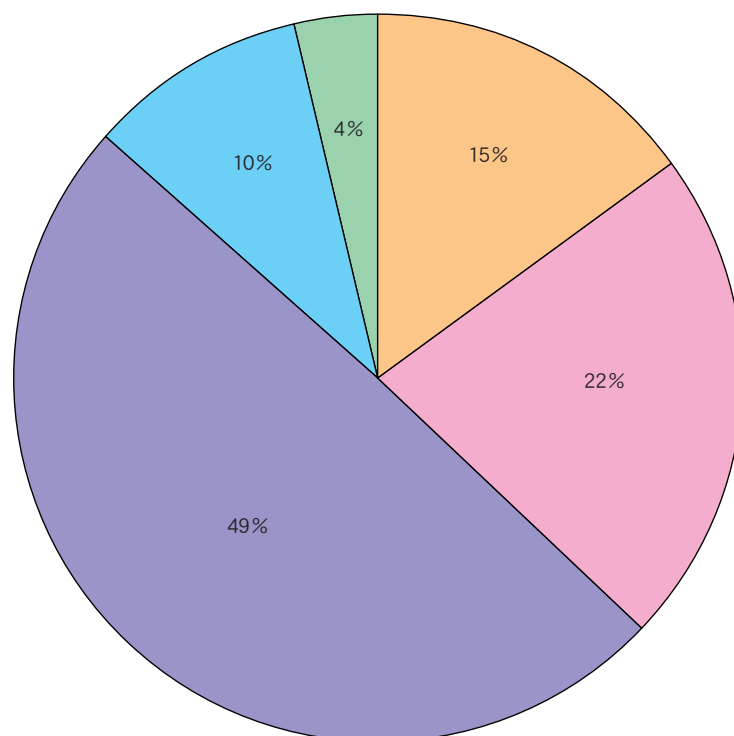
問30 高校で履修しなかった科目（物理、化学、生物）のために、
大学で理解するのが困難であった科目はありますか。



3-20 高校での未履修科目について、大学入学後の学習方法

問30で理解することが困難な科目があった学生が多い学部、学科においては半分以上の学生が自学自習している傾向がよみとれる。15%の学生は、高校の教科書、参考書を使い学習している。

問31 高校で履修していない物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。

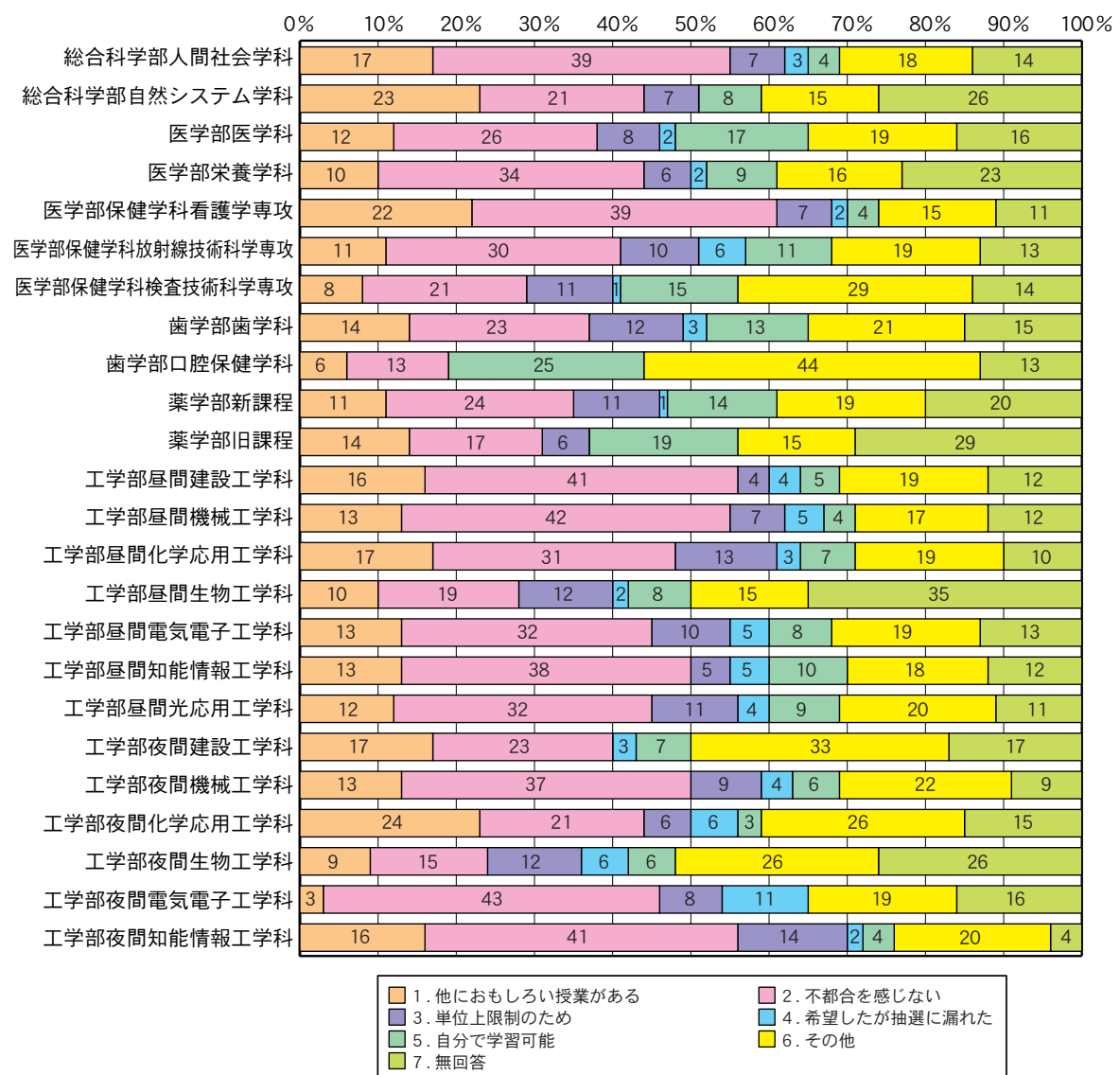


- 1. 自分で高校の教科書、参考書を使い、勉強した
- 2. 全学共通教育で開講されている自然科学入門やその他の科目で勉強した
- 3. 何もしていない
- 4. その他
- 5. 無回答

3-21 高校での未履修科目を大学で履修しない理由

高校で履修していない科目を大学で学習しない理由では、不都合を感じないという答えが一番多い。理解することは困難であるが、単位はなんとか取れていると思われる。物理の場合、初年次に演習を取り入れた授業を行うことが効果的と思われる。

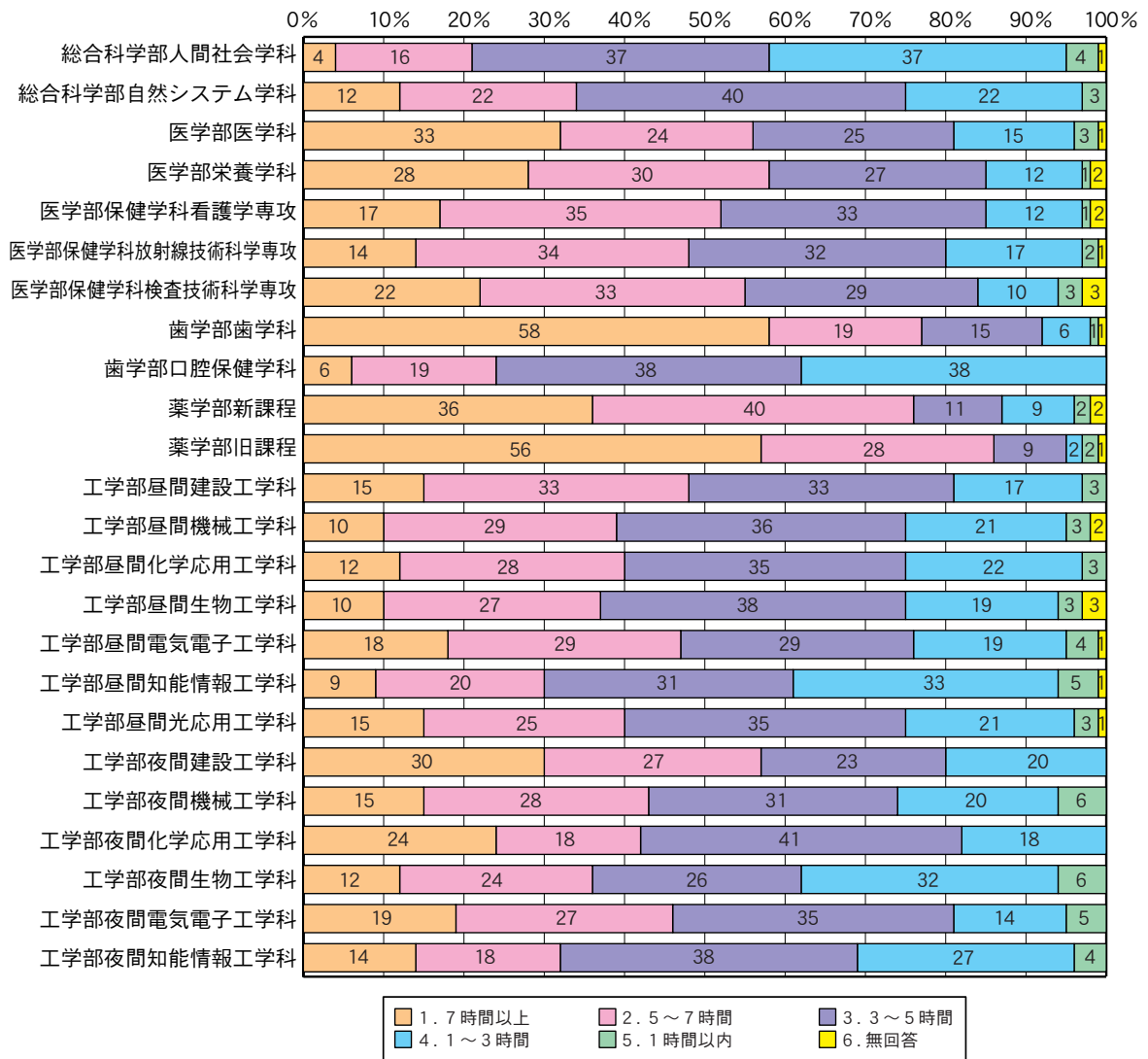
問 32 高校で履修していない科目を自然科学入門（物理、生物）で勉強していない場合、その理由は何ですか。



3-22 期末試験における1科目あたりの勉強時間数

医学部、歯学部、薬学部の学生は、明らかに総合科学部、工学部の学生に比べ、学習時間が長い。

問33 期末試験の試験勉強において、平均して1科目あたり、どれくらい勉強していますか。

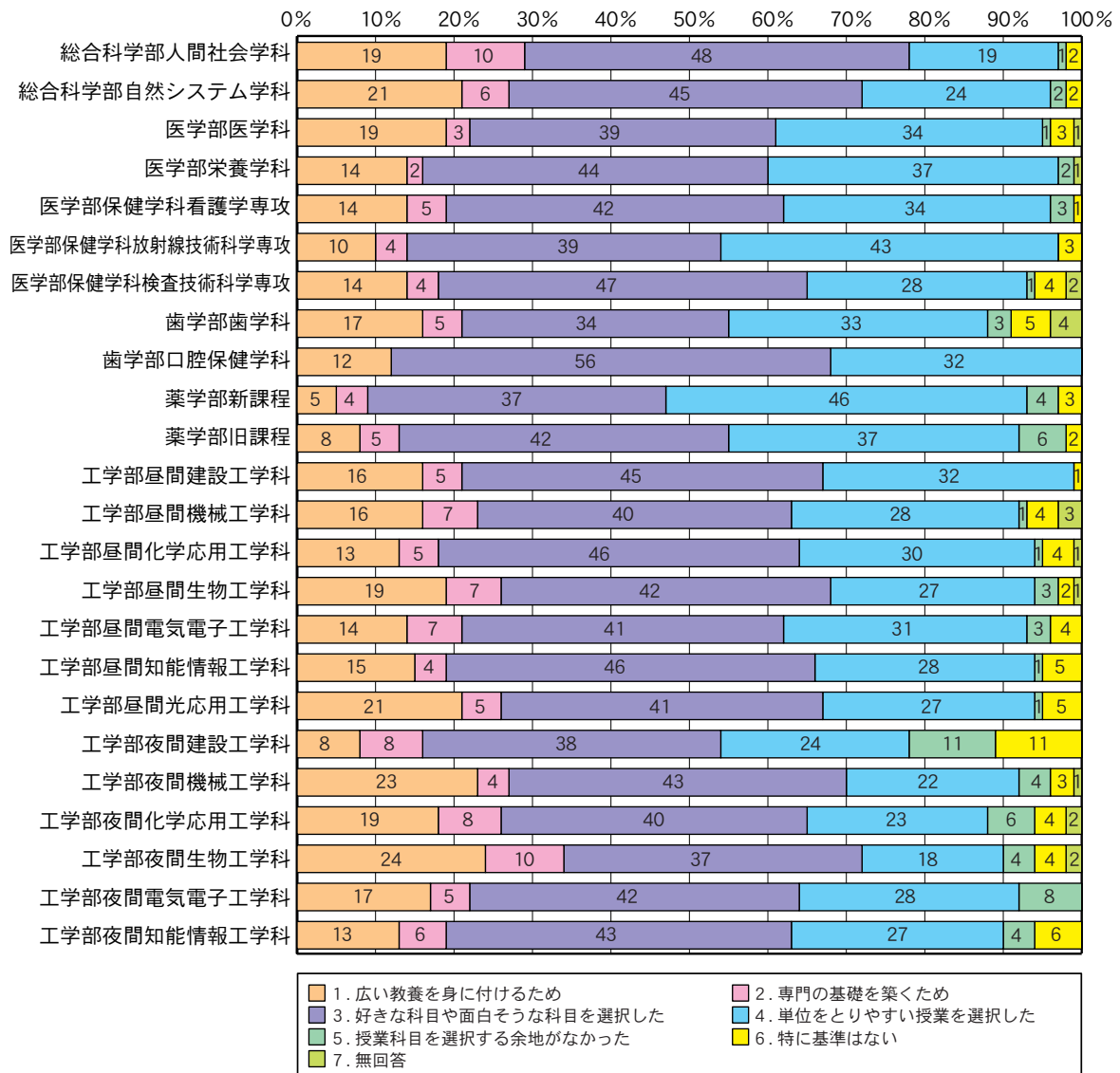


第4章 全学共通教育の授業について

4-1 科目の選択基準

好きな科目や面白そうな科目と単位を取りやすい科目と答えた学生が最も多いが、学部間で差が見られ、総合科学部、工学部は好きな科目や面白そうな科目が単位を取りやすい科目を上回っている。医学部、歯学部、薬学部では単位を取りやすい科目を選んだ学生が多い。

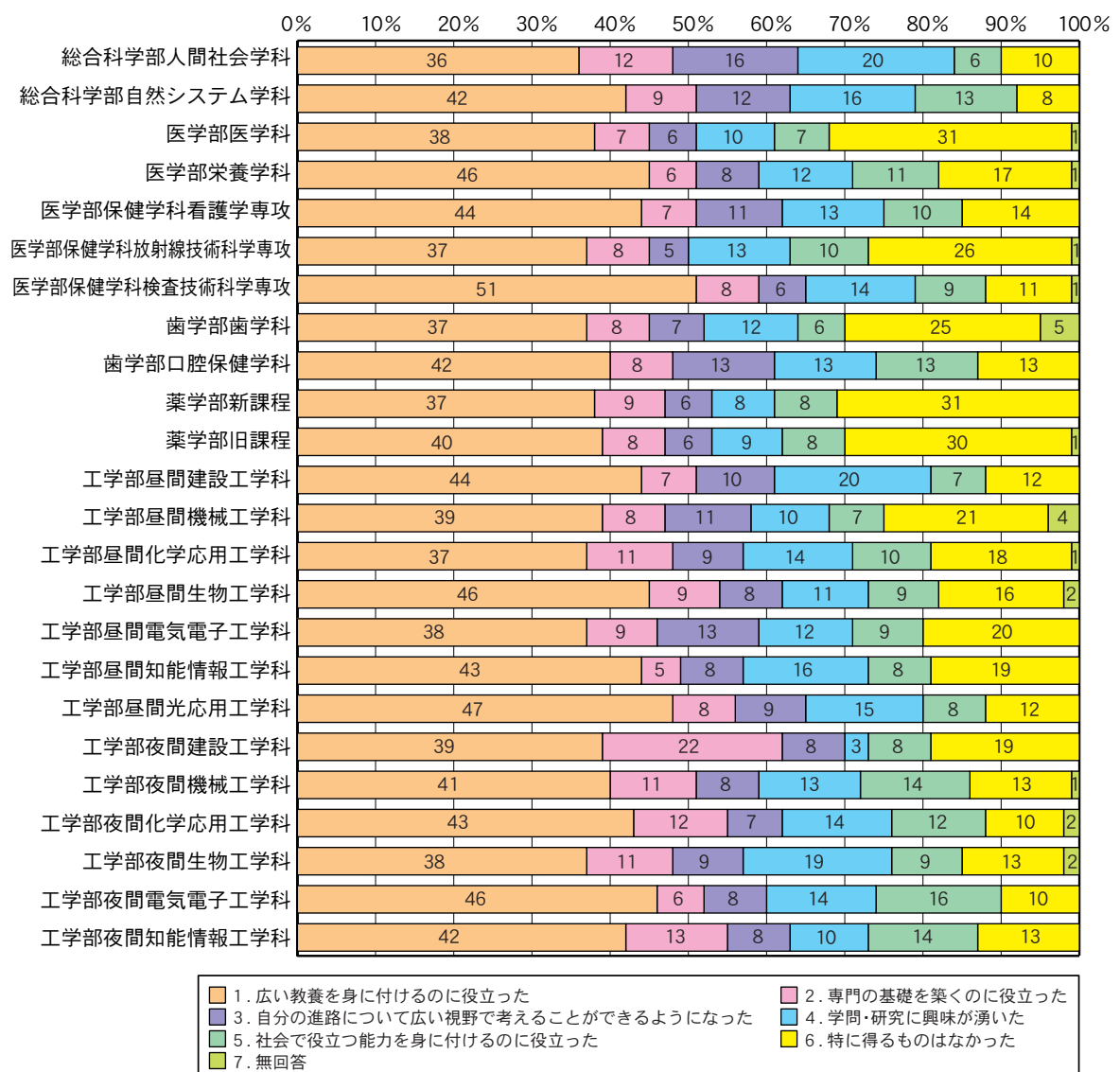
問34 全学共通教育科目の選択はどのような基準で行いましたか。(複数回答可)



4-2 授業を受けて学び得たこと

全体的には、広い教養を身につけるのに役立ったと答えた学生が多かったが、医学部、歯学部、薬学部では、特に得るものがなかったと答えた学生の比率が高い。人間力育成をめざした教育の工夫が必要である。

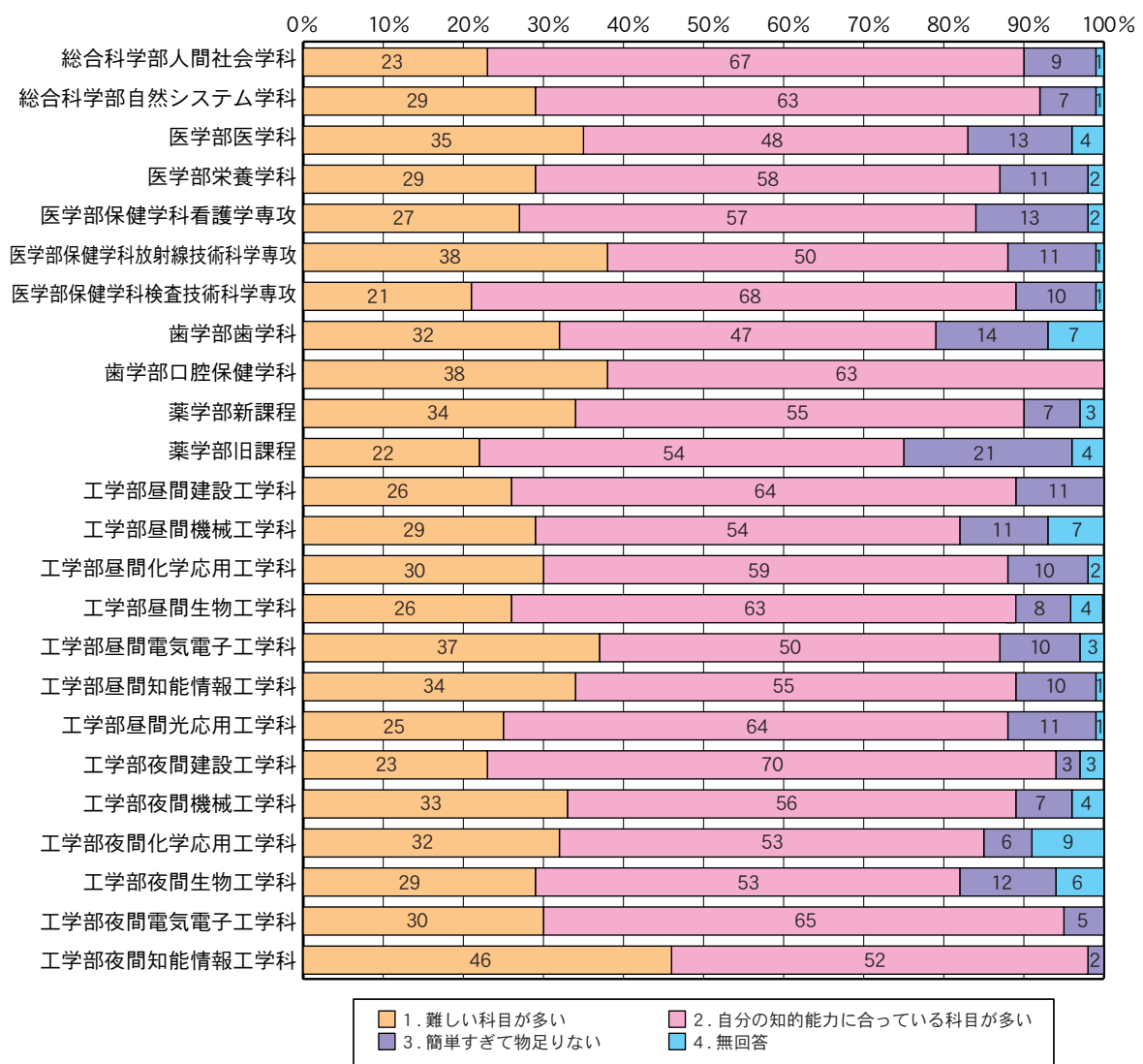
問 35 全学共通教育科目の授業を受けて何を学ぶことができましたか。(複数回答可)



4-3 教養科目群（教養科目）について

教養科目群（教養科目）については、自分の知的能力に合っている科目が多いと答えた学生が最も多く、講義の難度は適当であると考えられるが、約30%の学生は難しい科目が多いと答えていることを留意すべきである。

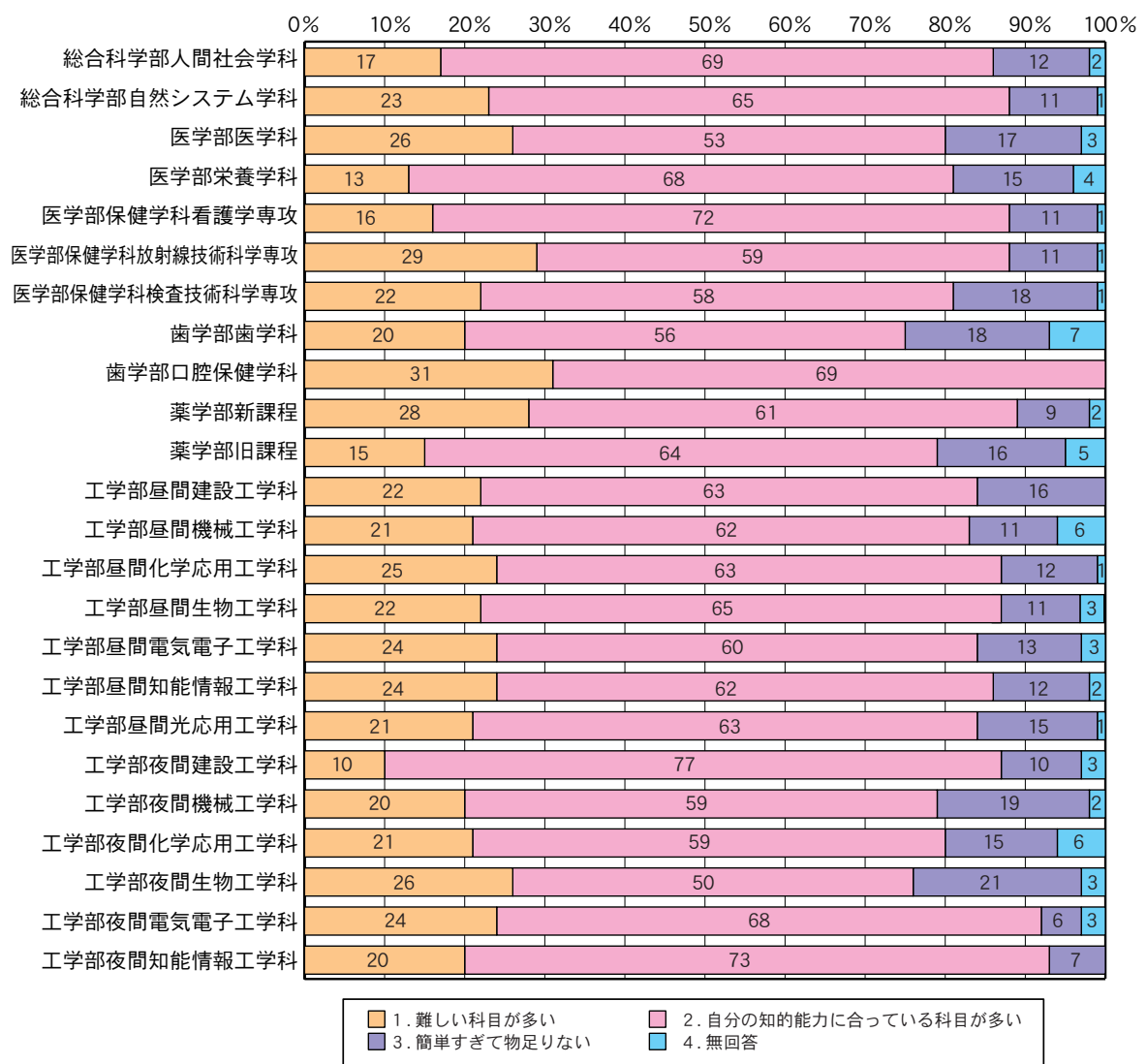
問 36 教養科目群（教養科目）について



4-4 基盤形成科目群（外国語科目・健康スポーツ科目）について

基盤形成科目群（外国語科目・健康スポーツ科目）は、教養科目群に較べると、難しい科目が多いと答えた学生の比率は少なく、その比率の学部間での差はみられない。

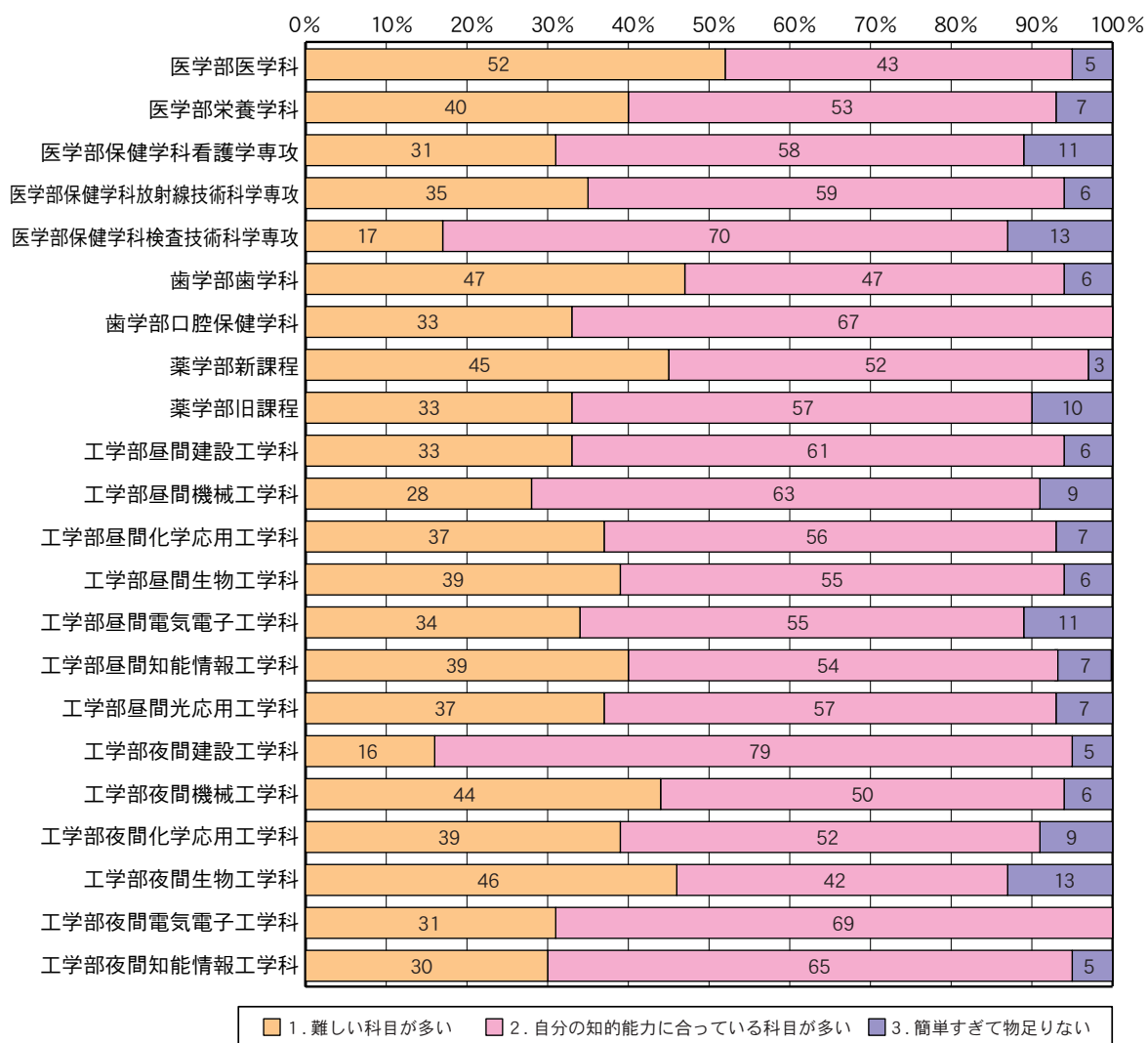
問 37 基盤形成科目群（外国語科目・健康スポーツ科目）について



4-5 基礎科目群（基礎教育科目）について

基礎科目群（基礎教育科目）において、難しい科目が多いと答えた学生の比率が高いのは、医学科と歯学科であった。

問 38 基礎科目群（基礎教育科目）について（履修している方のみお答えください。）

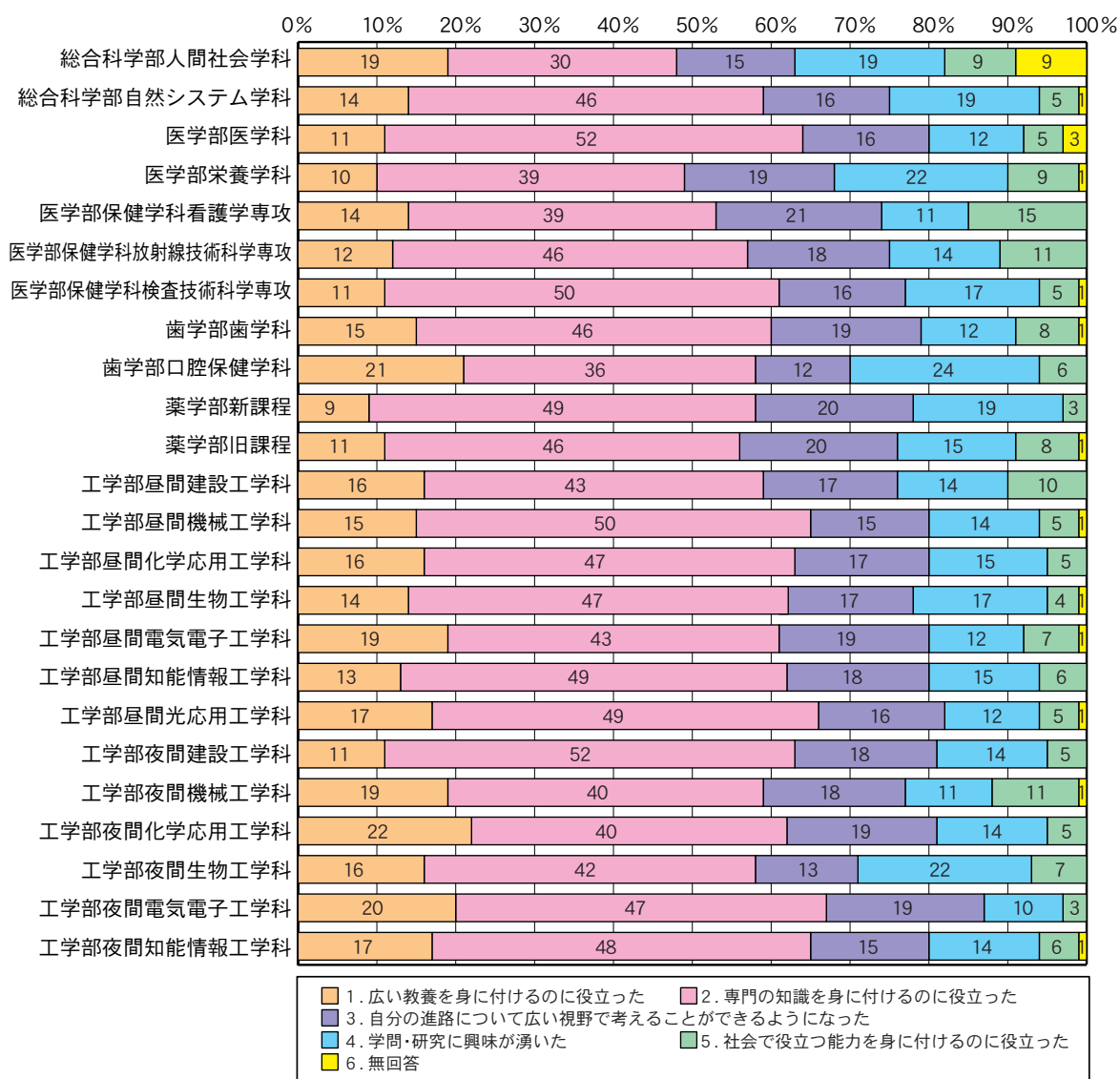


第5章 専門教育の授業について

5-1 授業を受けて学び得たこと

専門教育については、専門の知識を身に付けるのに役立ったと答えた学生が最も多く、専門教育がたいへんうまく行われていると考えられる。

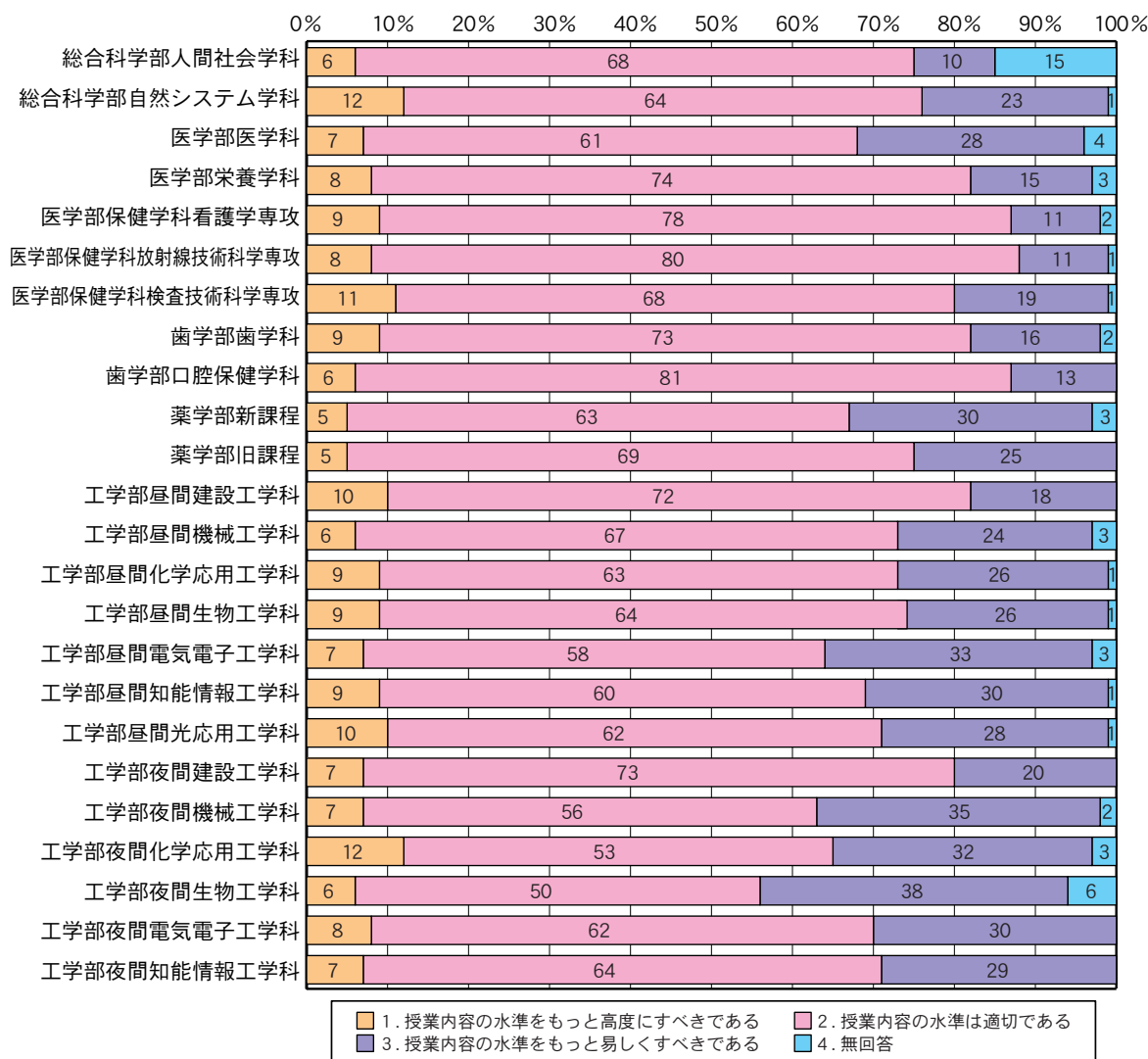
問39 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができたと思いますか。(複数回答可)



5-2 授業内容の難易度

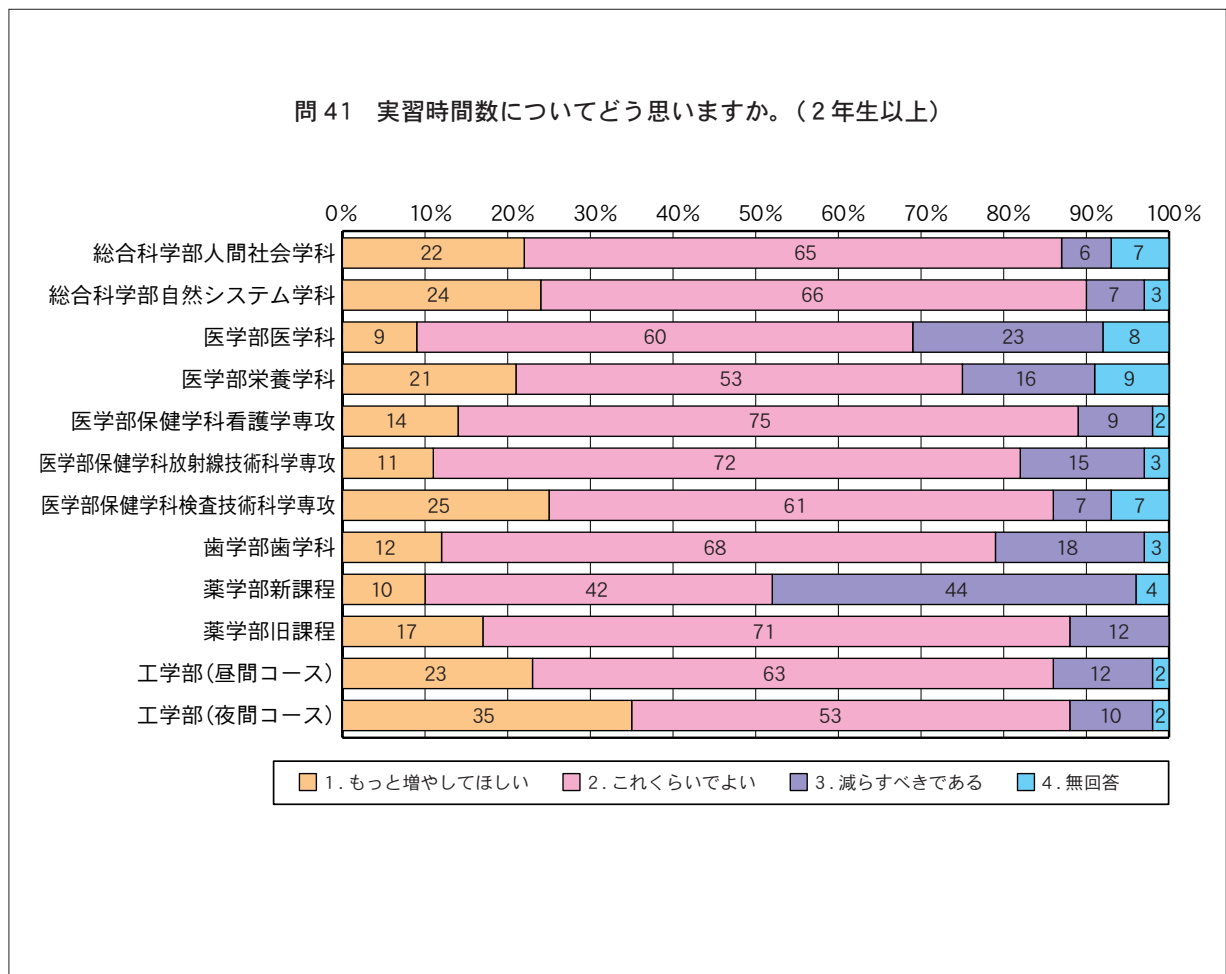
専門教育の難易度は適切と答えた学生が多いが、医学科、薬学部、工学部ではもっと易くすべきであると答えた学生の比率が30%前後見られ、授業改善、予習・復習の徹底が必要であろう。

問40 授業内容の難易度についてどう思いますか。



5-3 実習時間数に対する希望

全学部において、実習時間については現状に満足している学生が多いが、栄養学科、保健学科看護学専攻、保健学科検査技術科学専攻、薬学部旧課程、工学部ではもっと増やしてほしいと考えている学生が、減らすべきであると答えた学生より多い。

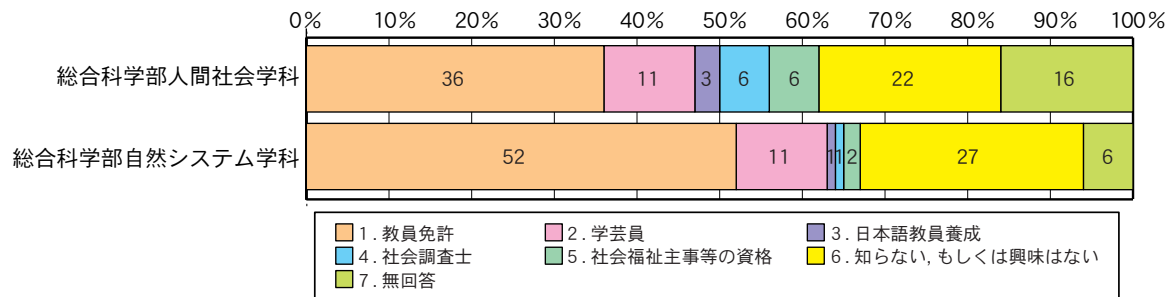


第6章 免許・資格について

6-1 取得できる免許・資格に興味のあるもの（総合科学部の学生のみ回答）

総合科学部では、教員免許に興味を持つ学生が最も多いが、次いで多いのは学芸員であった。

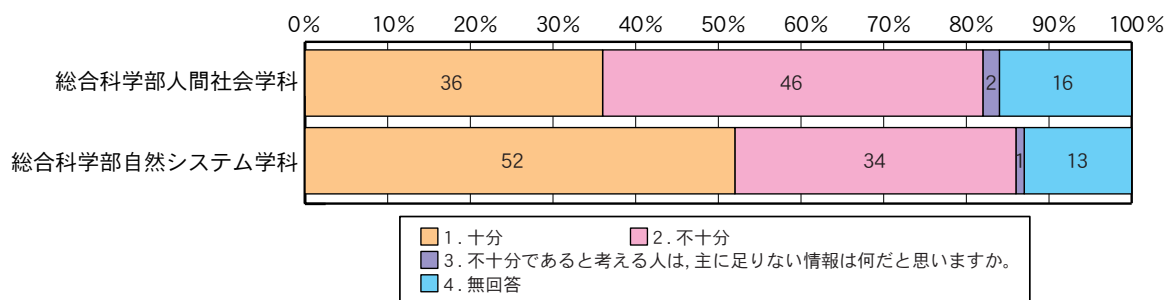
問 42 総合科学部では教員免許、学芸員、日本語教員養成、社会調査士、社会福祉主事等の資格（あるいは資格に準ずる教育内容）に対応した科目を開講しています。これらの資格のうち興味のあるものはありますか。



6-2 資格取得に関する情報提供（総合科学部の学生のみ回答）

資格取得に関する情報については、十分、不十分と答えた学生は、ほぼ同数であった。自由記述では、資格取得の情報が不十分、という意見が多かった。

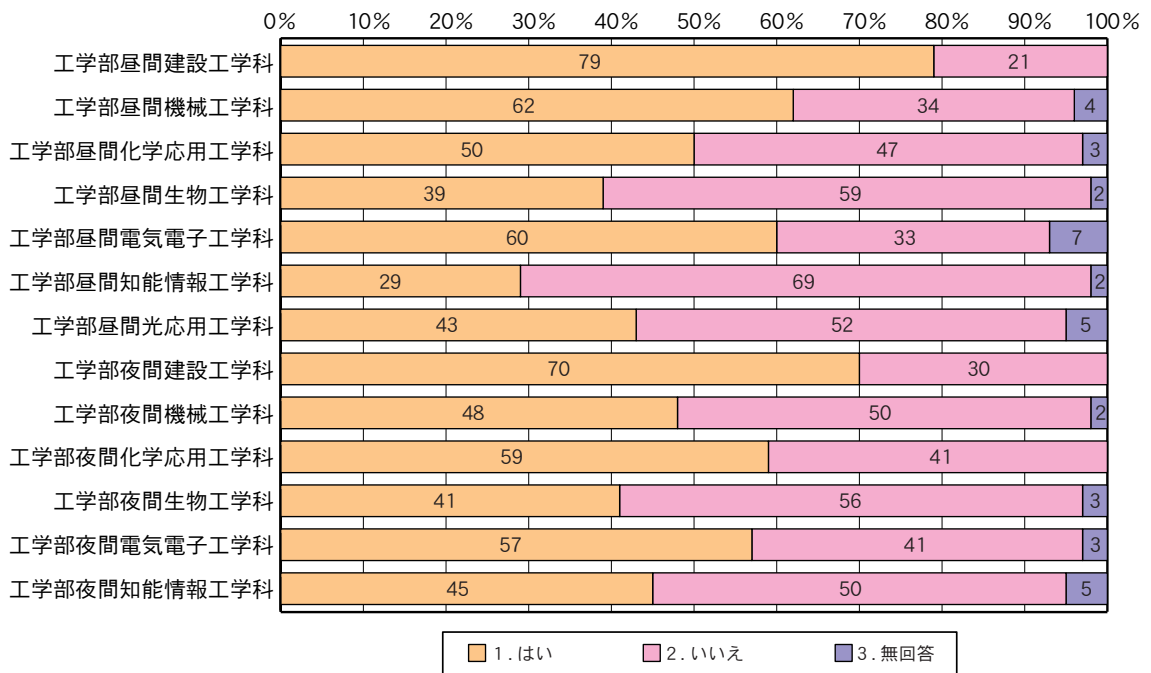
問 43 問 42 の質問で選んだ資格取得に関する情報は十分に提供されていますか。



6-3 取得できる免許を生かした就職希望（工学部の学生のみ回答）

「はい」と答えた学生と「いいえ」と答えた学生の比率は工学部全体では1：1であるが、建設工学科では大部分の学生が資格を生かした職業につきたいと考えている。

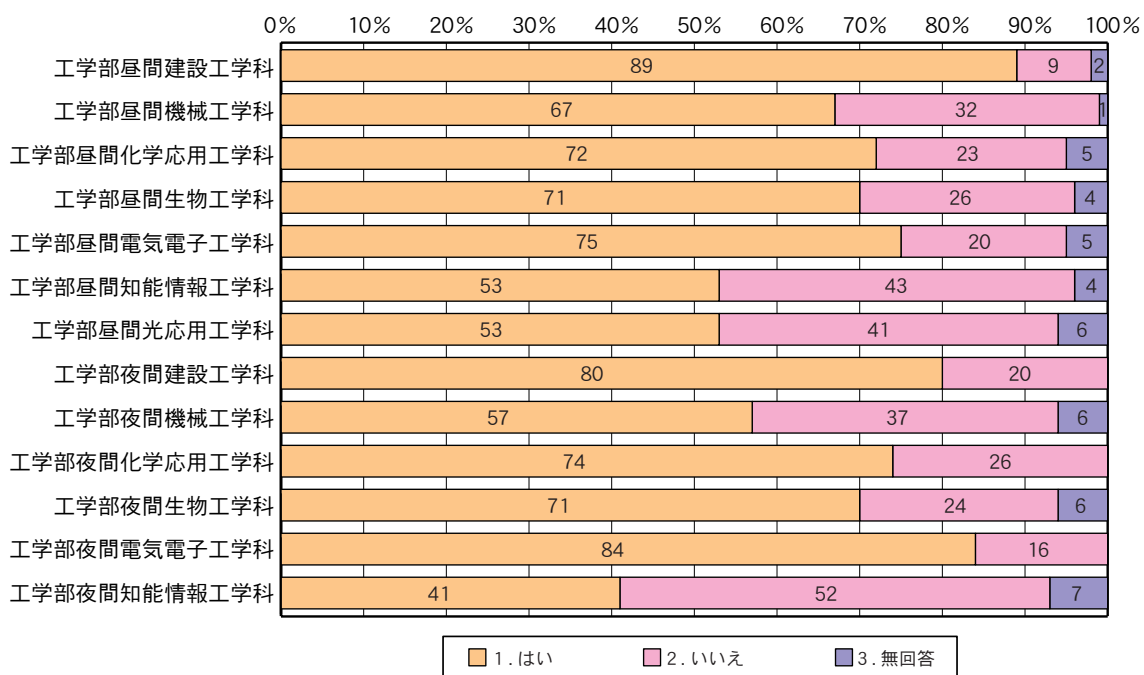
問 44 工学部では学科により技術士、建築士、測量士、甲種危険物取扱責任者、電気工事士、無線技士、高等学校教諭一種免許状（工業）の受験資格や免許が得られます。
将来このような免許を生かした職業につきたいと思いますか。



6-4 免許・資格の認知度（工学部の学生のみ回答）

大部分の学生は免許、受験資格について知っている。建設工学科（昼間コース）では89%の学生が免許、資格について知っているが、他の学科では41 - 84%の学生が知っている。

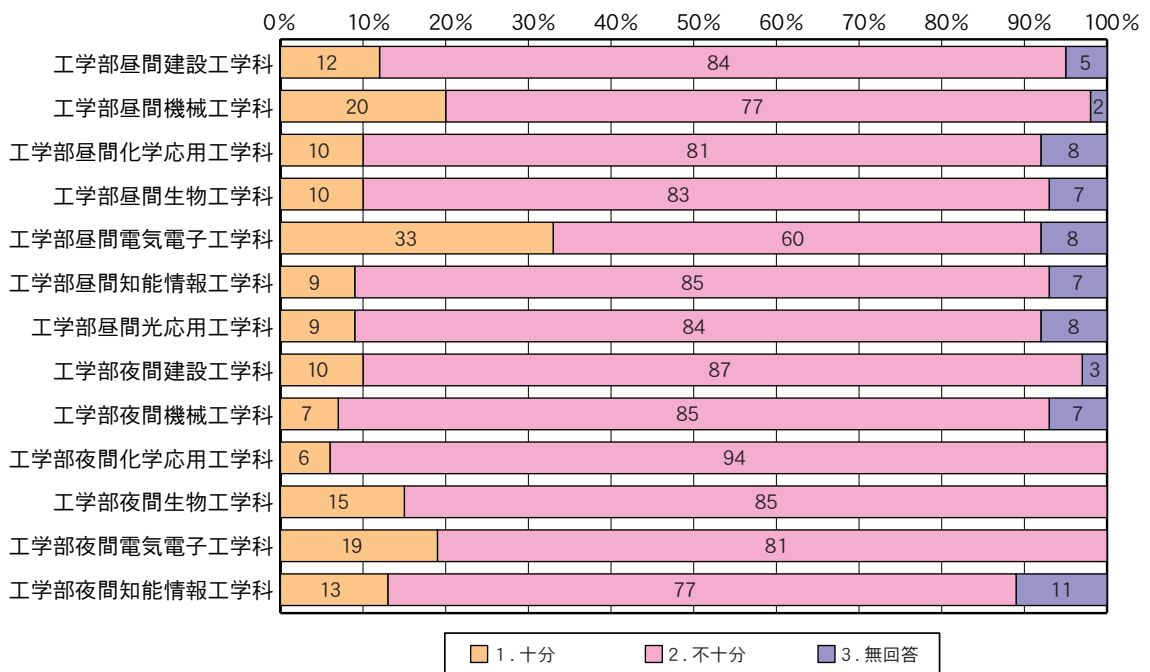
問 45 工学部では学科により技術士、建築士、測量士、甲種危険物取扱責任者、電気工事士、無線技士、高等学校教諭一種免許状（工業）の受験資格や免許が得られます。
このような免許または受験資格があることを知っていましたか。



6-5 免許・資格に関する情報提供（工学部の学生のみ回答）

免許、資格については知っているが、ほとんどの学生は学科からの情報は不十分と考えている。ホームページに情報を公開することが望ましい。

問 46 工学部では学科により技術士、建築士、測量士、甲種危険物取扱責任者、電気工事士、無線技士、高等学校教諭一種免許状（工業）の受験資格や免許が得られます。
このような免許に関する情報は十分に提供されていますか。

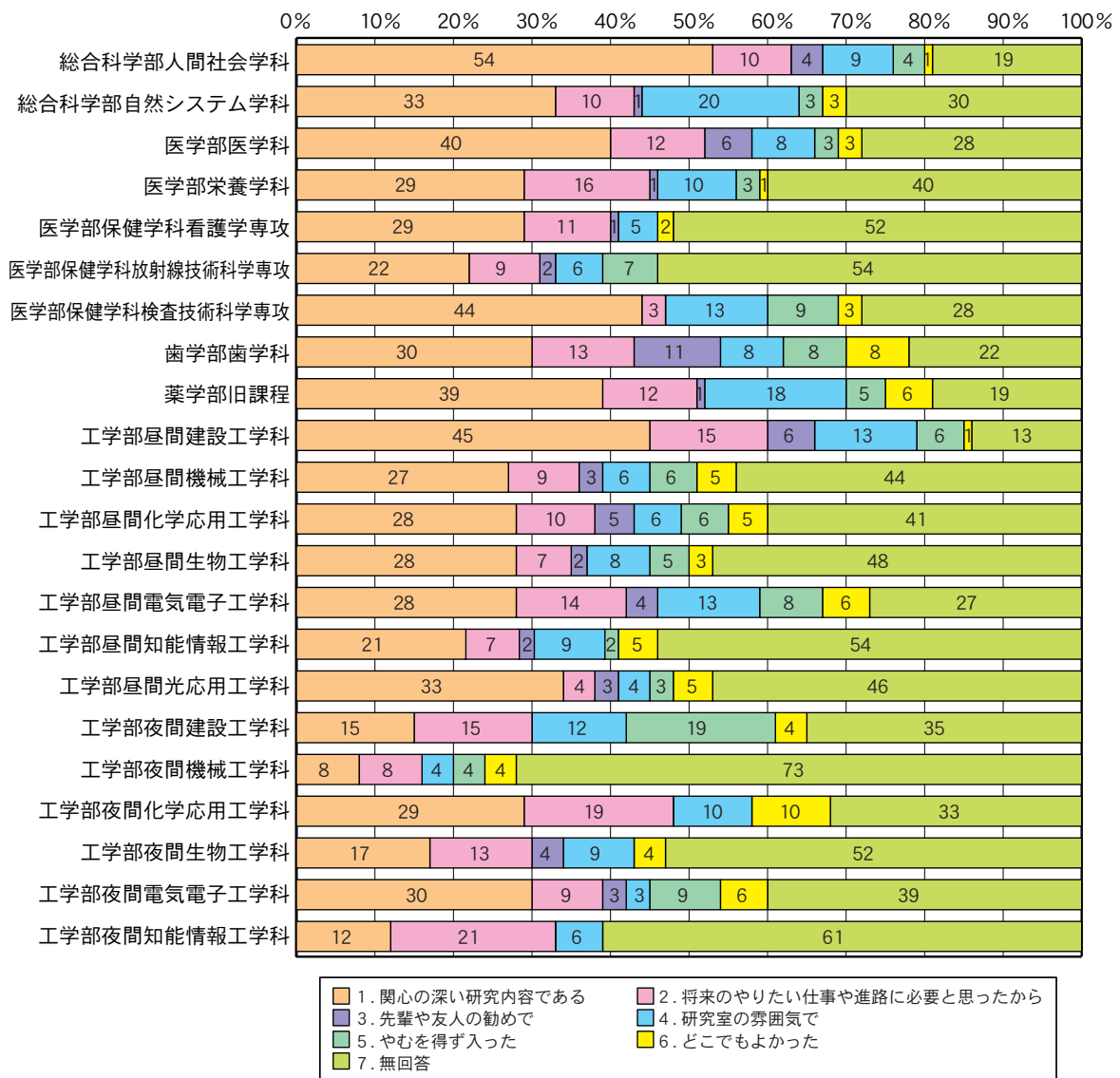


第7章 卒業研究、医学研究実習、研究基礎ゼミについて

7-1 研究室選考の基準

ほとんどの学生は、自分の興味、将来を考えて、研究室を選択している。しかし0-10%の学生は、どこでもよかったと答えている。

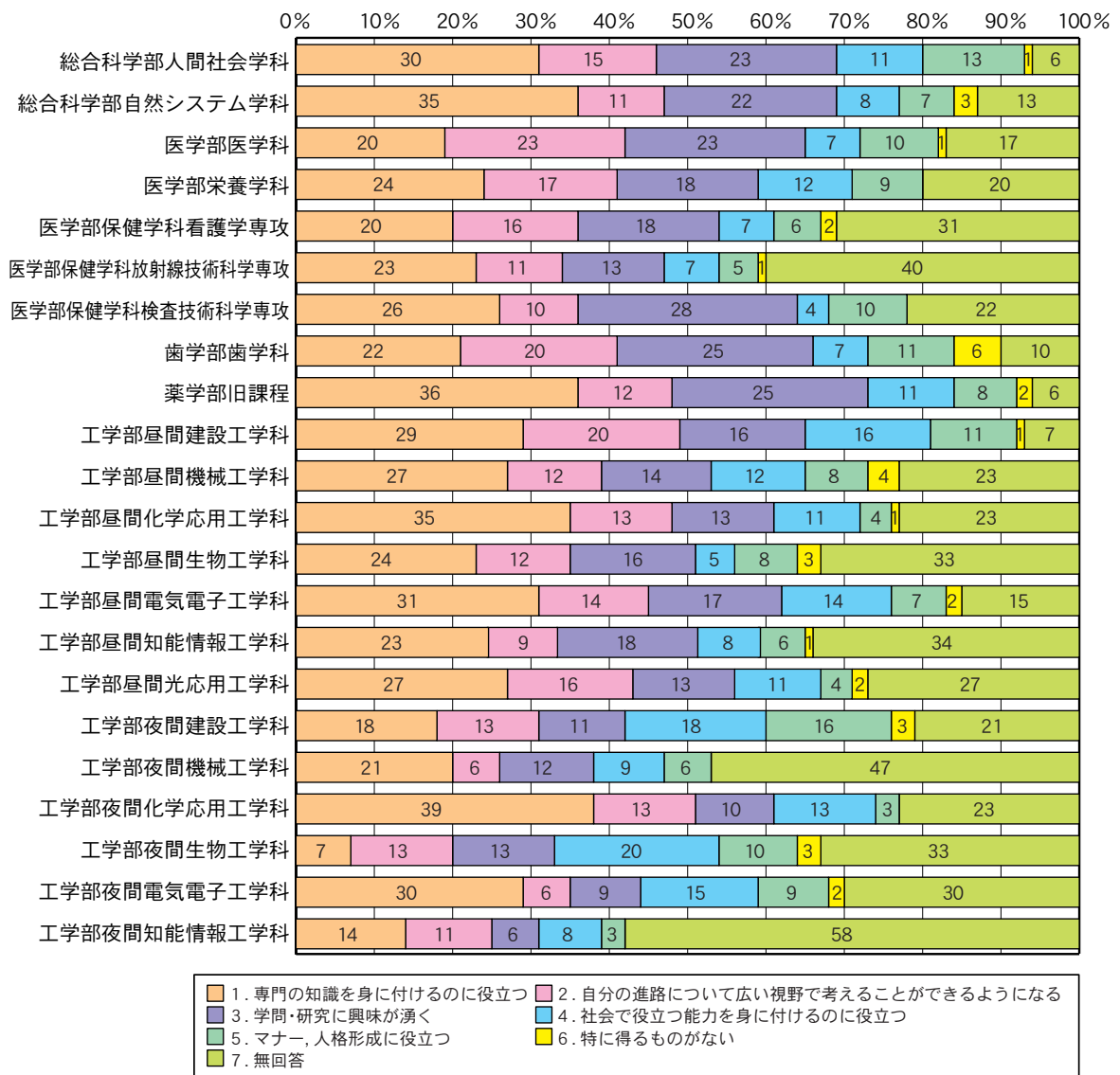
問47 卒業研究または医学科では医学研究実習、歯学科では研究基礎ゼミの研究室をどういう基準で決めましたか。



7-2 卒業研究、医学研究実習、研究基礎ゼミで学び得たこと

専門の知識を身に付けるのに役立つと答えた学生が最も多かった。次いで、学問・研究に興味を湧く、自分の進路について広い視野で考えることができるようになる」と答えた学生が多く、特に得るものはないと答えた学生は非常に少ない。研究室での学習は、学生の評価が高く、教育効果が高い。

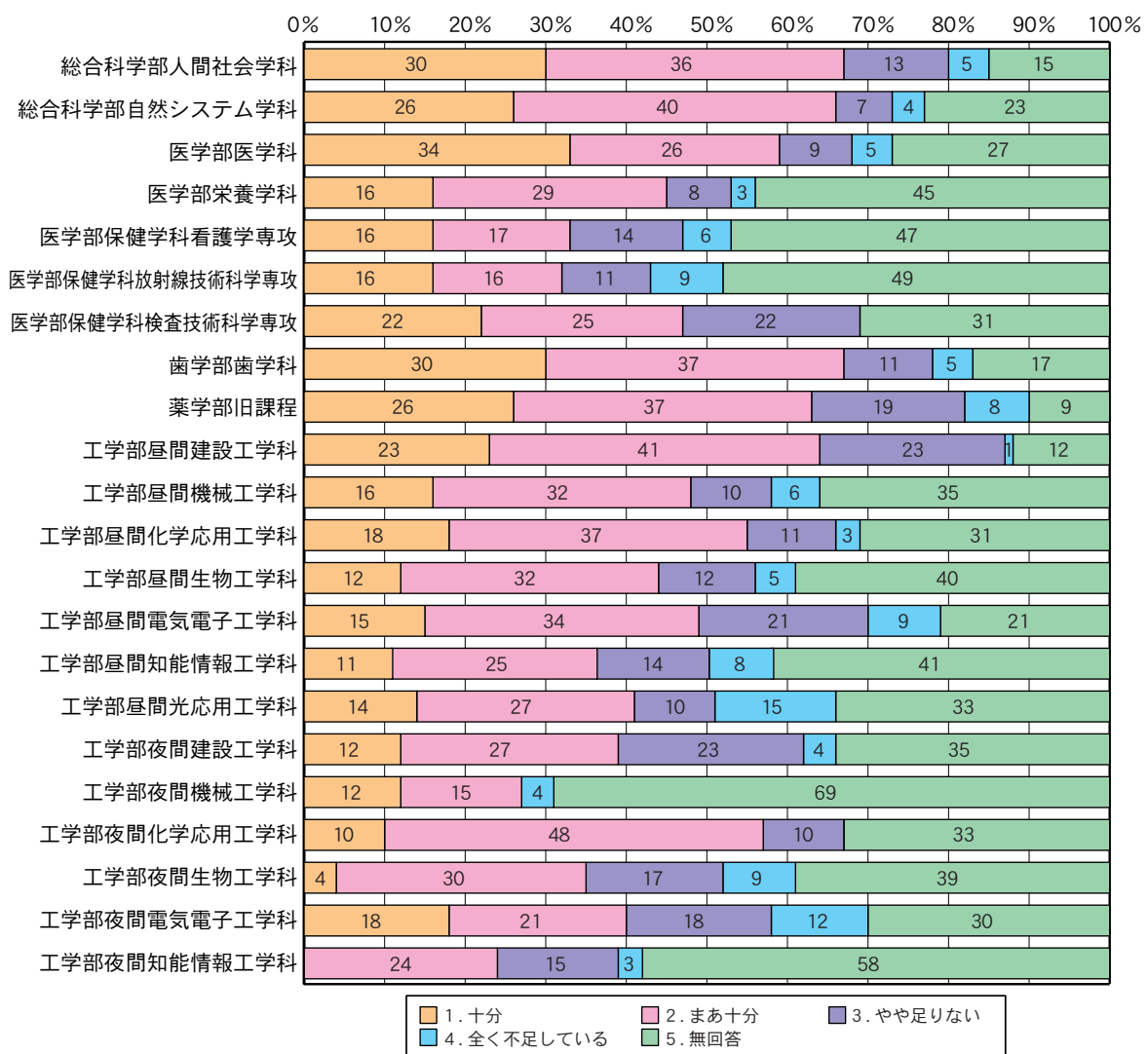
問 48 卒業研究、医学研究実習（医学科）、研究基礎ゼミ（歯学科）によって何を学ぶことができると思いますか。（複数回答可）



7-3 教員、TAによる研究指導時間の満足度

大部分の学生は、教員、TAの指導に満足している。しかし、全く不足していると答えた学生は10%前後いることに留意すべきである。

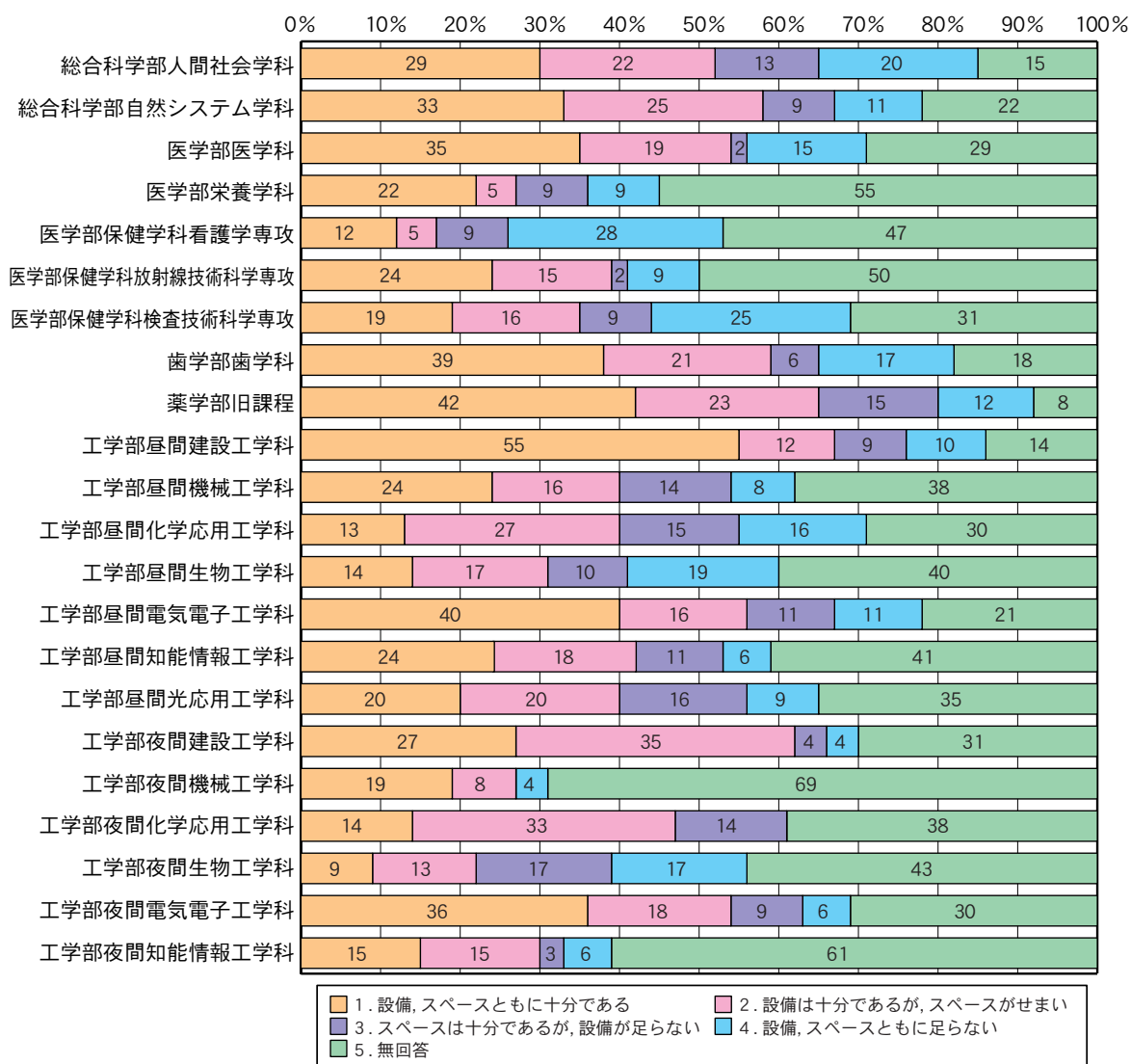
問 49 教員、TAの研究指導（データの相談、実験指導等）の時間は十分でしたか。



7-4 研究設備、スペースの満足度

研究設備、研究スペースがともに足りないと感じた学生の比率は、0-28%であるが、人間社会学科、保健学科看護学専攻、保健学科検査技術科学専攻、生物工学科（昼間コース）では、その比率が19-28%と高く、研究環境の整備が望まれる。

問 50 研究を進めるための設備、スペースは確保されていますか。

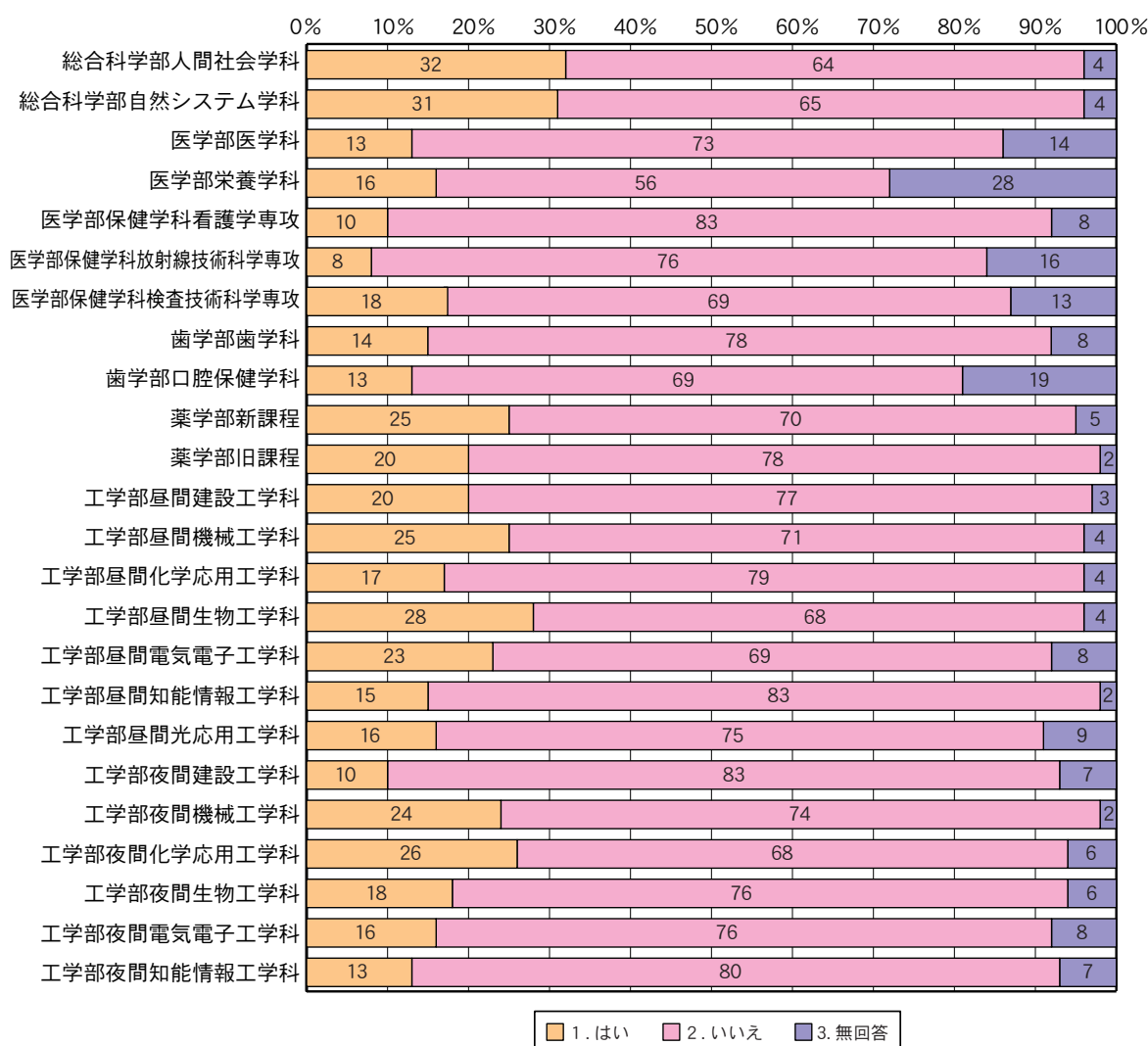


第8章 英語学習・教育について

8-1 英語学習の時間

80%前後の学生は、英語の定期的な学習は行っていない。総合科学部の学生が最も勉強している学生の比率が高く、人間社会学科が32%、自然システム学科が31%であった。

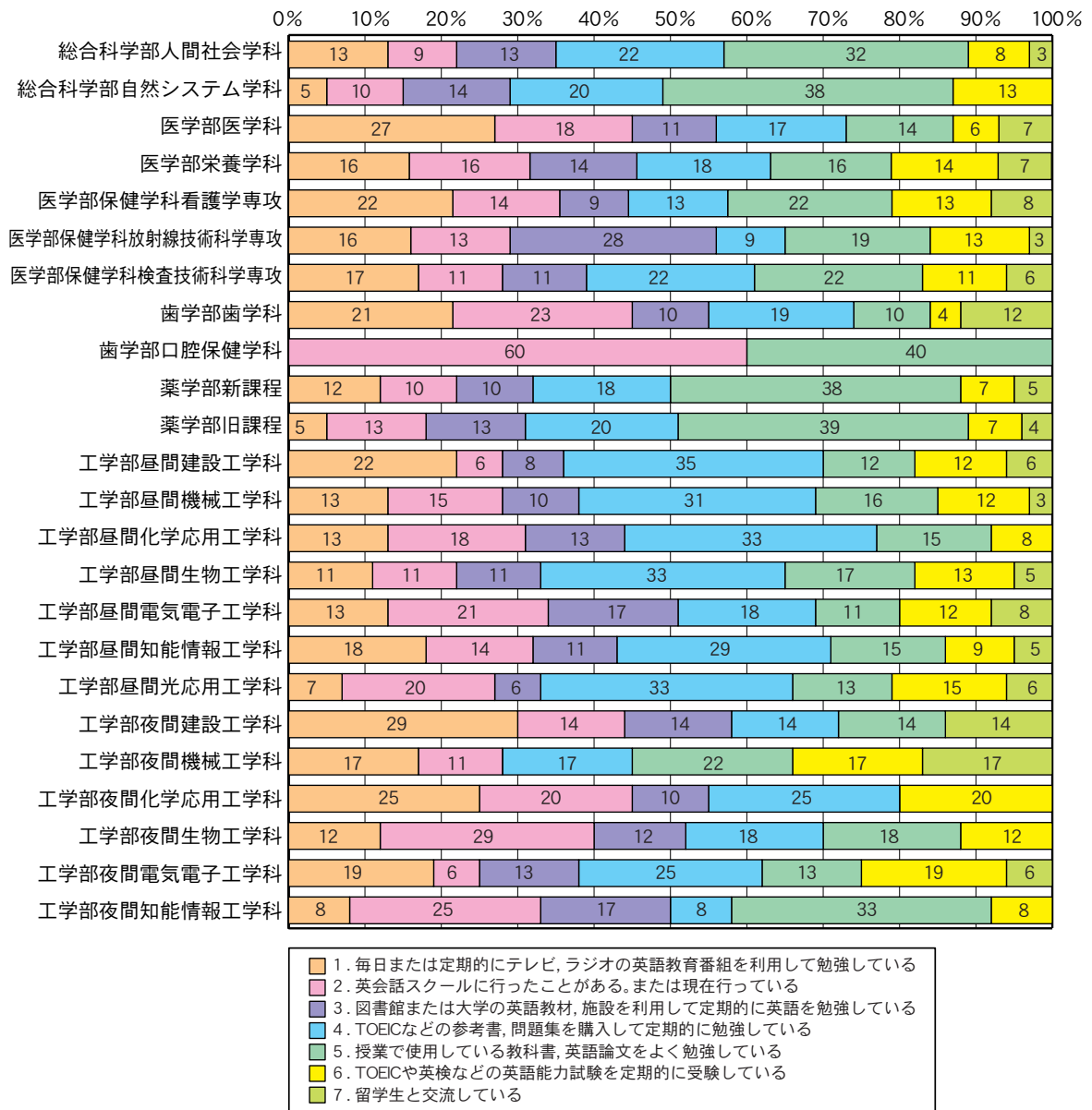
問 51 英語は毎日または定期的に勉強していますか。



8-2 英語の学習方法

英語学習の方法は多種多様であり、総合科学部、薬学部では、授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強していると答えた学生が多い。歯学部、工学部ではTOEICを英語学習に利用している学生が多い。英会話スクールを利用している学生は、大学全体で230名で、テレビやラジオの教育番組で学習している学生数とほぼ同数である。大学の英語教材、施設を利用している学生の総数は180名程度であり、学生への案内が不足していると思われる。

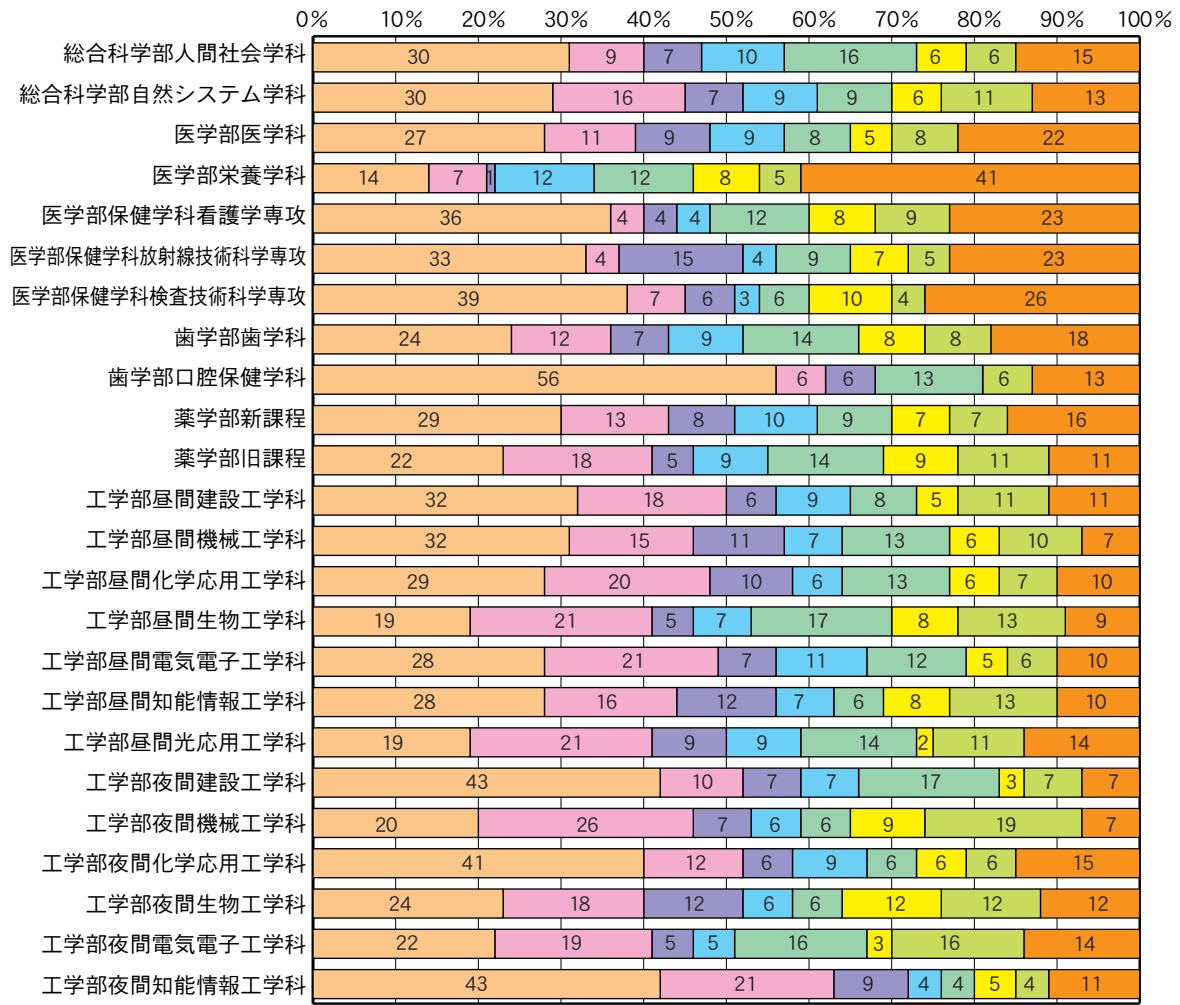
問52 問51で「はい」と答えた人は、質問に答えてください。どのように英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)



8-3 本学の英語教育への要望

英語の授業数を減らして欲しいと答えた学生は、全体の10%以下であり、大部分の学生は、英語力の重要性は認識していると考えられる。約25%の学生は専門英語教育の充実を希望している。

問 53 徳島大学における英語教育について



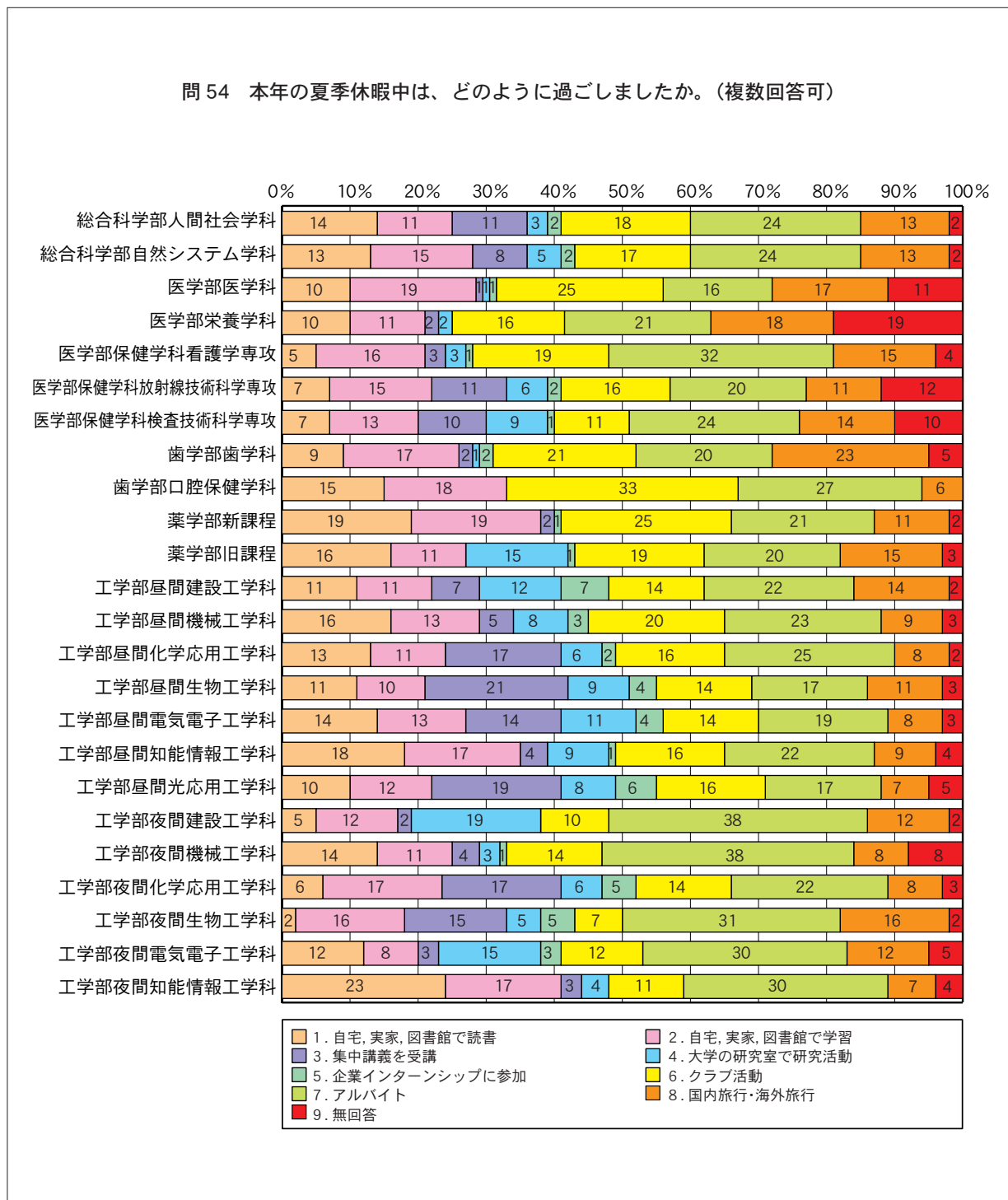
- 1. 全学共通教育, 専門教育で行われる英語教育で十分である
- 2. もっと授業数を増やしてほしい
- 3. もっと授業数を減らしてほしい
- 4. もっと少人数のクラスにしてほしい
- 5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
- 6. 専門英語の時間を増やしてほしい
- 7. 専門英語のライティング, 会話に重点を置いた授業を増やしてほしい
- 8. 無回答

第9章 夏季休暇の使い方について

9-1 夏季休暇の過ごし方

休暇の過ごし方としては、アルバイト、旅行、クラブ活動が多い。医学科、歯学部ではクラブ活動を選んだ学生数がアルバイトを選んだ学生数を上回り、薬学部はほぼ同数である。アルバイトを選択した比率が高いのは総合科学部、保健学科看護学専攻、工学部であった。

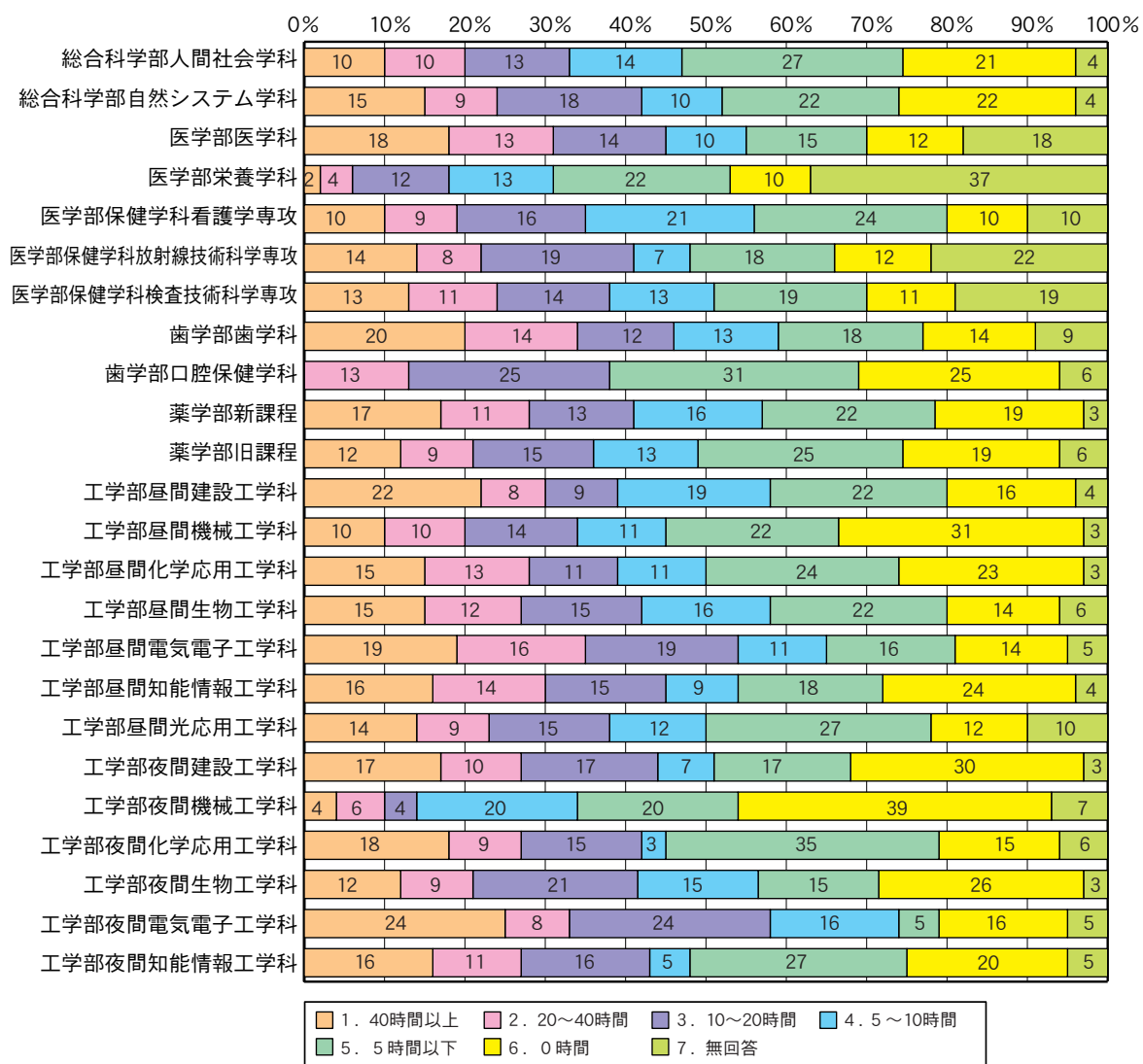
問 54 本年の夏季休暇中は、どのように過ごしましたか。(複数回答可)



9-2 夏季休暇中の自主学習時間

医学科、歯学科、薬学部では、他学科に比べ、夏季休暇中の学習時間が長いが、9月の試験に備えての試験勉強の影響かもしれない。卒業研究が必修の学部では、4年生の学習時間が最も長い。

問 55 本年の夏季休暇中に、集中講義およびそれに関連した学習（レポート作成）以外に、学習に使った時間は合計どれくらいですか。

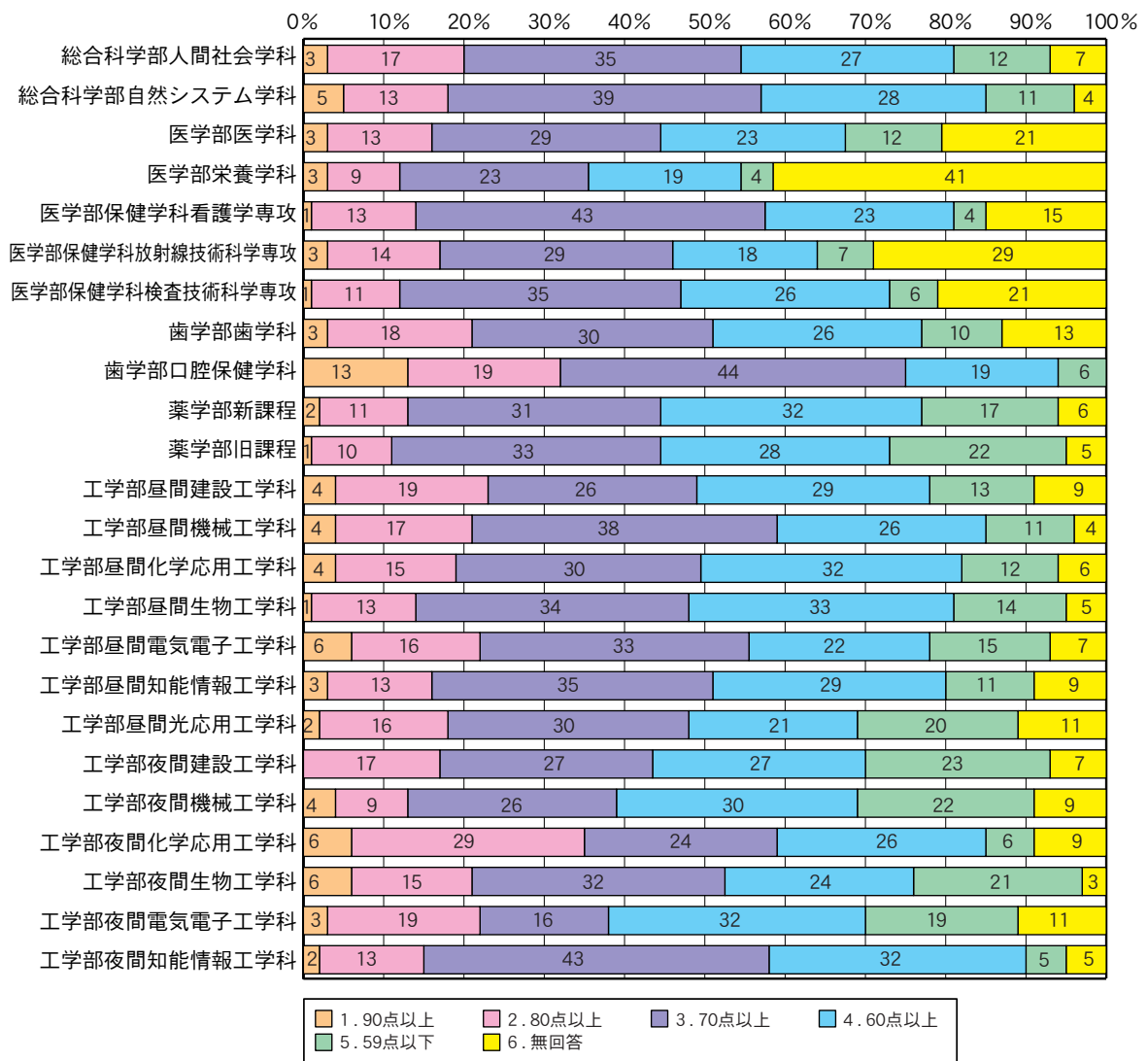


第10章 大学に関する評価

10-1 大学教育全体の満足度

大部分の学生は、60点以上の評価をしており、本学の教育に学生は満足していると考えられる。しかし、60-70点が最も多く、さらに教育改革を進める必要がある。

問56 大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。



第11章 学部等の現状と課題

11-1 総合科学部

総合科学部における教育と学習の特徴に関し、学生の将来の希望とその実現可能性、予習・復習や読書について、さらに英語学習についての3点を中心に述べる。

総合科学部学生が抱く将来像は多様である。将来像の多様さゆえか、その実現可能性には悲観的な見解が多い。ことに人間社会学科では問6を見ると半数以上の回答が、「現在受けている教育では将来の希望は実現できない」と考えている。問42と問43では総合科学部で提供する資格科目について認知度を尋ねたが、比較的情報が足りていると判断された教育職員免許資格以外は、認知度も低く情報も不十分と判断されている。総合科学部の教育目的が、諸問題の全体像を把握するための広範かつ総合的な配りを養成することであり、将来像の多様さは総合科学部のメリットであるとしても、学士教育に続くライフステージへの道筋をより明示的に示す必要はあるだろう。

予習・復習の実施状況を問う問12で、総合科学部は「何もしていない」とする学生の割合が、大学全体で最も少ないことは特筆して良いだろう。9割以上の学生は程度の差はあれ予習・復習の習慣を持っている。だが、大学全体の傾向でもあるが、「科目によっては行っている」や「宿題がでたとき」の選択肢を選んだものは多く、また問13で問う予習・復習の時間も、半数以上が「1時間以下」である。問33で尋ねる期末の試験勉強の時間も多くはない。自主学习を当然と考える教員と、宿題がないと自学しない学生には意識のずれがあると言えよう。課題を提示して成果を検証するPDCA (Plan - Do - Check - Action) サイクルはここでも必要だろう。

問24で問う年間単行本(専門外)読書冊数については、総合科学部は相対的に多い。ただ、携帯電話の画面に見入る学生の姿は目についても緑陰で読書する姿を見かけることは少ないので予想できた結果ではあるが、年間の読書冊数は多いとは言えない。問20や問25、問26の回答によると、学習目的であれ、学習目的以外であれ、8割以上がインターネットを毎日利用し、主な情報源はインターネットに移行しているのだから、読書に割ける時間は多くを見込めないだろう。

英語学習を続けている学生の割合も、総合科学部は比較的高い。ただ、大学全体の傾向ではあるが、学年が進行するにつれて英語学習を毎日行っている学生の割合は減少する。最も多い人間社会学科でも、1年次ではほぼ5割が英語学習を毎日行っているのに、2年次ではおよそ3割、3年次では2割、4年次では1割と減少して行く。また、学習の方法は主に、教科書やTOEIC対策であり、自立的な学習には到達していないし、問53では「現在行われている英語教育で十分である」とする回答が最多であり、残念ながら士気はそれほど高くない。学年が進むにつれて専門科目等に割く時間が増加し英語学習の時間が相対的に減少せざるを得ない事情もあるかもしれない。しかし問9では、獲得すべき知識能力に「コミュニケーション能力」を選んでいる学生が多いのであるから、さらに意欲を高めるよう啓発と学習の機会と手段を提供する努力が必要であろう。

問56の総合評価では、8割の学生が大学教育に及第点を与えている。ただ、最頻値は70点台であり、「優」評価ではない。学習意欲を高めると同時に、早めに将来像について考えさせ、将来像への道筋を意識するよう援助するなど「良」評価を「優」評価に上げる余地があるだろう。

11-2 医学部医学科

理由は様々であると思われるが、3-6年次学生の半数以上が今回のアンケート調査に応じていない。

医学科の場合、学生の94%が医師として働きたいという目標が定まっているので、教育に対する満足度は比較的高い。大学教育は将来のための基礎作り・資格取得のために必要であると感じているので授業には積極的に出席しているとしている。学生の67%が現在の学習態度でよいとしていて、他の医療系学生同様高く評価している。そして、学生の49%が1日あたりの自己学習時間は1時間以内と短い(試験期間を除く)。講義でわからなかったことは忙しい教員に聞くよりも友人に聞くか、教科書・インターネットを利用して自分で勉強して解決している。授業概要(シラバス)は他学部の学生同様ほとんど利用していない。全学共通教育の物理・化学・生物については理解できなくても約半数は何もしないで済ませている。全学共通教育については他学部学生に比べて積極性および満足度がやや低い傾向がある。将来、大学で教育・研究に従事したいと思っている学生は4%に過ぎないが、約半数が医学研究実習の意義を認識している。

そこで、以下のような改善策が考えられる。1)積極的に予習を含む自己学習を推進するにはシラバスのあり方を検討し直す必要がある。たとえば、時間割と連動させるなどの工夫が必要である。2)教科書・参考書をじっくり読んで知識・情報を得る必要性を理解させる必要がある。3)自己学習時間を長くするように指導する必要がある。4)全学共通教育、専門教育とも更なる教育の質の改善が必要である。

11-3 医学部栄養学科

医学部栄養学科は管理栄養士養成課程としてのカリキュラムを編成しており、学科学生も将来の就職のために管理栄養士資格を意識するものが多い。一方、本学科は創立当初からわが国の栄養学研究をリードする研究者養成を期待されており、そのための基礎栄養学に関する学科目も充実させてきた。最近では栄養教諭資格に必要なカリキュラムも加わった。したがって、本学科の学生にとって4年間のカリキュラムにおける学習量はかなりの負担となっている。その点を考慮すると、本アンケートに示された本学科学生の学習実態は全体としては良好であると判断できる。ただし、個々の点については学生ならびに教員側の努力による改善が必要な点が以下のとおりみられた。FD等の取り組みを強化することにより、これらの改善に努める必要がある。

- 1) 大学で獲得すべき能力としてコミュニケーション能力や討論能力を挙げているにもかかわらず、これらの能力は現在の教育では獲得できないと学生は判断しているようである。討論の場をもった講義や実習をさらに増やす必要がある。
- 2) 授業内容の理解度は概ね良好であるが、理解できなかった事項について教員の努力が不足していると思われる。オフィスアワーのシステムが十分に機能していないのも原因であるが、何らかの対策が必要である。
- 3) 高校で履修しなかったために理解困難である科目が多いようにみられる。共通教育履修においてきめ細かい指導が必要である。

英語教育に関心が高く、専門英語教育の充実を希望している学生が多い。カリキュラムを含めた充実が必要である。

11-4 医学部保健学科

保健学科学生の学習に関する現状と課題は次の通りである。

将来の進路について、80%以上の学生が専門職として医療施設等で活躍したいと希望し(問5)、約90%の多くの学生は各自の希望が実現できると考えている(問6)。このとき、将来の希望を実現するための学習態度が不十分であると3~5割の学生が自覚している(問7)。ただし、この割合は4年次にお

いて1～3割に減少し(問7)、将来の就職・進学を身近に意識して、臨床実習や卒業研究への取り組みに対する学習態度を見直していることが示唆される。将来像の明確化を意図した講演会等を入学時の大学入門講座において実施しているが、その後も目的意識を持続させて学習を行うよう適宜指導することが必要である。

学生の多くは、大学教育は将来の仕事のための基礎作りと考え(問8)、大学で取得すべき能力として、専門知識、基礎的知識、コミュニケーション能力を挙げている(問9)。これらの能力を現在の教育で取得できると考えている学生は約7割と、大学全体の平均6割前後と比べてやや高い傾向にある(問10)。一方、現在の教育では獲得できないと答えた学生は、その能力として、コミュニケーション能力、検討する能力、問題解決力などを挙げている(問11)。平成20年度から、コミュニケーション能力向上を含む人間力教育を目的とし、共通教育科目・専門基礎科目から臨床実習前の医療接遇能力試験へ至る系統的な教育プログラムを実施することとしており、効果を期待している。

予習・復習を「科目によっては行っている」「宿題が出たときに行っている」と答えた学生が多い(問12)。教員の工夫により自主的な学習を促進できる可能性がある。予習・復習を2時間以上行っている学生は、看護学専攻27%、放射線技術科学専攻13%、検査技術科学専攻30%であり(問13)、看護学専攻と検査技術科学専攻は大学全体と比べて比率が高いが、全体として、大学生としての必要な学習時間が確保されていない。

授業への出席率が90%以上の学生は、看護学専攻86%、放射線技術科学専攻76%、検査技術科学専攻89%であり(問15)、大学全体と比べてやや高い傾向にある。全部の授業に出席するようにしている学生がほとんどである(問16)。また、看護学専攻では、授業を欠席することを何とも思っていない学生の割合が全学で最も低い(問17)。授業への出席状況は概ね良好である。

授業内容を理解できる科目の割合が60%以上の学生は、看護学専攻90%、放射線技術科学専攻86%、検査技術科学専攻75%である(問19)。大学全体と比較して、看護学専攻と放射線技術科学専攻は高いが、検査技術科学専攻はやや低い傾向にある。平成18年度に専門教育科目のカリキュラムを見直すことで履修の過負担を解消させ、予習・復習に必要な時間の確保を図った。予習・復習の課題を提示するなど、自己学習を習慣づけるよう指導することが必要である。

専門教育の内容の難易度が適切と答えた学生が、看護学専攻と放射線技術科学専攻では約80%と全学的に高い傾向にあり、検査技術科学専攻では約70%である(問40)。授業内容の水準をもっと優しくすべきであると答えた看護学専攻と放射線技術科学専攻の学生はともに11%と低い(問40)。難易度に関して言えば授業改善の必要は無いと考えられる。

実験・実習時間について、現状で適切と思っている学生は61～75%と回答項目のなかで最も多いが、検査技術科学専攻では25%の学生がもっと増やして欲しいと答えており、他専攻より高い比率である(問41)。検査技術科学専攻の学生は、実験・実習の体験を通じた理解の必要性を感じていることがうかがえる。

卒業研究配属の選定基準に関し、「関心の深い研究内容である」「将来の仕事や進路に必要と思った」を理由に挙げた学生が各専攻60%以上であり、自分の興味や将来の希望に繋がる配属が概ね実現できているとみられる(問47)。一方、やむを得ず入ったと回答した学生は、看護学専攻は0名であるが、放射線技術科学専攻と検査技術科学専攻においてはそれぞれ6名と2名である(問47)。どの研究室においても魅力的かつ達成感のある研究課題を学生に与えられるよう検討が必要である。

卒業研究は、専門知識の取得に役立つ、または学問・研究に興味を湧くと答えた学生が多く、特に得るものがない、と答えた学生は各専攻で0～3%と非常に少ない(問48)。学生の評価は高いと考えられる。また、多くの学生は研究指導の時間数に満足している(問49)。

研究設備または研究スペースが不足していると答えた学生は、回答した学生のうち71～79%あり、

保健学科への改組および大学院博士前期・後期課程の新設に伴い従来から問題が指摘されてきた研究環境整備の必要性が学生からも強く要望されていることがわかる(問50)。平成21年度からは、学内施設の改修工事により保健学科学学生が研究に利用できるスペースが増加するため、問題の一部は解消するものと期待している。平成20年度における対応が急務である。

大学教育全体の満足度として、60点以上、70点以上と答えた学生は、それぞれ、看護学専攻96%、68%、放射線技術科学専攻90%、64%、検査技術科学専攻93%、60%であり、学生は教育に概ね満足していると考えられる(問56)が、上述の個別の問題を解決させるなど、更なる教育改革が必要である。

11-5 歯学部

今回の学生の学習に関する実態調査から、3点の問題点が明らかとなった。

(1) 授業への出席について

「授業の出席率について」の問い(問15)に、歯学科および口腔保健学科(1年次のみ)では平均90%以上の出席率が、それぞれ80%および88%、70%以上—90%未満が16%および13%、70%未満が4%と0%であった。「授業に出席することについてどのように考えているか」の問い(問16)については、全部の授業に出席が78%と88%、出席をとる授業に出席が12%と6%であった。一方、「授業を休む理由」(問17)について、うしろめたいが48%と63%を占めるが、なんとも思っていないが16%と19%、自分の責任で休むのだからとやかく言われたくないが、36%と19%で、2つを併せると52%と38%にも達する。問18で示すように授業を休む場合の理由(病気を除く)の43%(全学部を対象)が朝寝坊である。本年度歯学科および口腔保健学科の欠席届における理由(病気を含む)は、それぞれ病気が46%と73%、朝寝坊が31%と18%、忌引きなどが8%と0%、その他が15%と9%であった。

学生はすべての授業に出席することが当然であるが、出席率が良くないことの原因として、以下のことが推察される。歯学科に入学する多くの学生は「歯科医師になる」というモチベーションが低いのではないか。このため、入学試験に合格すると安心して勉強しなくなる、試験があるから仕方なく勉強する、出席をとる講義だから出席するという学生が多い。自ら望んで授業料を払って通う学生を対象とした大学教育で、本来、出欠はとる必要はないはずである。将来的には、歯科医師になる意欲を持つ母集団から適性を鑑みた選抜の必要性を感じるとともに、現時点では、入学者あるいは在学者に対して医療人としての意識付けを計る必要があると思われる。

(2) 高校で履修しなかった科目(物理・化学・生物)について

「高校で履修しなかった科目(物理・化学・生物)のため、大学で理解するのが困難であった科目はあるか」の問い(問30)に、77%があると答えている。化学はほとんどの学生が履修していることから、物理・生物のうち、特に物理を履修していないものが該当すると考えられる。また、「高校で履修していない科目を自然科学入門(物理・生物)で勉強していない場合、その理由は何ですか」の問い(問32)に、23%が不都合を感じないためと答えている。高校での物理未履修者に対して、入学時の全学共通教育の履修指導において、自然科学入門(物理)の履修を強く勧めているにも関わらず、履修していない理由として、歯学科では単位が認められないこと、このため履修しても壁にぶつかるかと脱落しているものと考えられる。物理未履修者でも基礎物理学の合格点を得ていることには、基礎物理学担当教員の大変な努力の賜である。この負担を軽減するためにも、高校での物理未履修者は自然科学入門(物理)履修を必修とすることが望まれる。

(3) 授業内容の質問について

「授業でわかりにくかったところは、どうしているか」の問い(問21)に、歯学科と口腔保健学

科では、授業中または終了後、教員に直接聞いているがそれぞれ15%と13%、オフィスアワーを利用して教員に質問しているが、それぞれ20%と0%と少ない。教員に対しての積極的な質問が少ないのは残念である。より質問しやすい雰囲気作りが必要と思われる。

11-6 薬学部

薬学部では平成18年度より新教育課程がスタートし、従来と教育制度・内容等が異なるため、本アンケートでは新教育課程の1、2年生と、旧教育課程の3、4年生の学年別に分けて、調査結果を分析した。なお、今回の調査回収率は1、2年生88%、3、4年生85%であった。

将来の希望として、薬剤師を志望する者が56%、企業を志望する者が29%であり、学年による差は見られなかった。大学教育については「将来の仕事のため」、「資格取得のため」が合わせて41%と最も高く、将来への目的を持って入学していることが伺える。現在受けている教育で将来の希望が「実現できる」が80%と教育内容については満足しているのに対して、現在の学習態度では希望を「叶えられない」が51%と高く、特に1、2年生で57%と高い傾向にあった。この背景には3年次での学科分けを控えて、今後に不安を持っていることが一因と思われる。大学で獲得すべき知識・能力として挙げた項目については特に学年による差は見られなかったが、現在の教育で「獲得できる」が3、4年生48%に対し、1、2年生では64%と高く、新教育課程の効果と言える。

授業出席率は「90%以上」が72%（1、2年生85%）と高いが、授業内容を理解できる科目の割合が「60%未満」が33%と最も多い。授業に出席はするが授業についていけないのは、予習・復習を殆どしていない（1日平均時間が「1時間以内」42%、「全くしない」35%）ことと関係があると思われる。また、高校で履修しなかった理系科目のために理解するのが困難であった科目が「ある」80%が示すように、高校での関連理系科目の未履修も一因と考えられる。しかし、その対応として「自然科学入門等で未履修科目を勉強している」が29%と、「何もしない」32%より低いことから、今後、自然科学入門の履修指導が必要であろう。さらに、オフィスアワーの利用が29%と低く、一層の活用が望まれる。そのためには、学生が利用しない理由として「質問しにくい雰囲気」、「下手な質問すると怒られそう」が各28%あることから、教員も学生が利用しやすい環境作りに努力する必要がある。

年間の単行本読書量が「1-4冊未満」が43%、「0冊」が16%と読書離れが進む一方で、学習以外でのインターネット利用が「1日2時間以上」21%であった。なお、学習目的でのインターネット利用は「1日2時間以上」が3、4年生では14%、1、2年生では4%、一方「全く使用しない」は3、4年生16%、1、2年生27%で、専門教育に進むに従い学習目的でのインターネット利用が増える傾向が認められる。

全学共通教育の科目選択基準として最も多いのが、3、4年生では「興味」42%であったのに対して、1、2年生では「単位の取りやすさ」46%であった。1、2年生では学科分けの不安からか、良い成績を取ることを目的とする傾向がみられた。また、「広い教養を身につけるのに役立った」が39%あった一方で、「特に得るものは無かった」が30.3%と、理由は明らかではないが他学部比べて多かった。

専門教育では、授業内容の難易度については「適切」が67%と高かったが、「易しくすべき」が28%あり、理解できない科目が多い理由のひとつと考えられる。教員は予習・復習を促す工夫など授業の進め方を再検討する必要があるだろう。実習時間については、1、2年生で「減らすべき」が44%（3、4年生12%）と高い。これは新課程での過密スケジュールが原因と思われ、すでに対応を検討している。卒業研究については、指導時間は「十分」、「まあ十分」を含め約69%、設備、スペースに「満足」がそれぞれ71%、62%であり、全体的に概ね満足している。英語教育は現状で「十分」が最も多く、特に1、2年生では29%と高く、早期からの少人数教育導入などの教育改善の効果が現れている。

大学教育全体の満足度が「59点以下」が3、4年生で22%、1、2年生で17%と、どちらの学年でも大学全体の14%より多いのが気になる。今回の調査結果からは原因となる問題がはっきりしないが、学生の教育に対するニーズへの極め細かな対応が今後も課題であると言える。

11-7 工学部

(1) 将来について

工学部の学生の大部分は、企業に就職することを望んでいるが、希望する企業、職種に就職できるかについては不安を覚えている。また、将来の夢を実現するためには、より真面目に学習に取り組む必要性は自覚しているものの、それが学習活動に反映されていない。工学部卒業生の就職は、特に景気の影響を受けやすいが、産業立国、もの作り大国日本を支える期待される人材であり、自信を持って学習に励むよう、教育指導することが大事と思われる。工学部では、実務者による講義、インターンシップなど企業での体験学習の推進等を行っているが、さらに技術者以外にも工学の知識を生かした活躍の場があることも含めて、技術者・高度職業人としての意識を高める教育に力を入れていきたい。また、コミュニケーション能力、討論力等人間力の育成に有効なプロジェクト演習、学年を超えたグループ学習など新しいカリキュラムの導入が必要と思われる。

(2) 学習状況

大部分の学生は出席率はよいが、自主学習の時間が不足し、講義の理解度が低い理由になっている。特筆すべきことに、学習目的以外のインターネット使用時間が2時間を超える学生がかなり多い。インターネットの使用は、工学部学生の学習時間の不足、読書不足の原因のひとつと思われる。アンケートをとるとシラバスの利用率が依然低いが、履修登録する際は参考になっているはずである。工学部では来年度のシラバスには、学生がより理解しやすいよう、改訂作業を行った。オフィスアワーは、よりオープンな受け入れを行うことで、その利用率をあげることは可能と思われる。高校で履修していない科目（物理、生物）、また履修しても専門科目を理解できるための学力が不十分な学生のため、1年生で受講する導入科目において、少人数クラスにする、演習を取り入れる、uラーニングの利用を行っているが、アンケートの結果は、まだこれらの取り組みが十分でないことを示している。入学後に学力試験を行い、学生の学力に応じた指導を徹底する必要がある。全学共通科目については、問題はないと考えられるが、読書量が少なく、社会人としての一般教養をもっと身に付ける必要がある。一般教養の不足は、自分の能力を活かせる職業選択の幅を狭めることに気づいていない。免許、受験資格については、説明が不十分であり、ホームページを使って情報を公開することが望ましい。

卒業研究は、専門知識を活用した課題発見力・解決力やコミュニケーション力の育成など工学部教育の集大成である。1-3年までの受動的な学習とは異なり、自主的な取り組みが要求されるが、学生は卒業研究を高く評価している。工学部の中で、生物工学科において卒業研究のための研究設備、研究スペースについて不満を持っている学生の比率が高い。研究環境の整備が必要である。

(3) 英語学習

学生の多くは専門英語の講義を希望し、英語能力の重要性は理解していると思われるが、毎日勉強する地道な努力はあまり行われていない。マニュアル世代の学生は、講義を受ければ自然と求める英語力が身に付くと誤解しているが、これまでの英語論文を多く読んでいけば、おのずと英語力が身に付くといった指導法では学生はついてこない。専門技術英語の書き方、読み方、英語によるプレゼンテーションの基本については、講義でしっかり指導し、最低限の能力を育成する必要がある。専門技術英語についても、専門知識を持ったネイティブスピーカーを教員として雇用すること

が望ましいと思われる。

(4) 総括

理系の中でも、免許・資格が取得できる医歯薬系に比べ、就職状況が景気に左右されやすい工学部は人気は低下傾向である。工学部では、日本技術者認定機構 (JABEE) によって教員の質、教育内容、教育改善システム等審査され、JABEE 認定の国際レベルの工学技術者教育が行われている。しかし、その教育効果をあげるためには、地球温暖化、環境汚染、エネルギー危機などの地球規模の大問題を打開するのは工学技術者であることを認識させ、工学部で学ぶことに自信と熱意を持たせることが絶対条件である。初年次の導入教育が極めて重要である。また学生の立場から考えると、先端技術の進歩は著しく、年々専門教育で要求される知識量が激増している。教員が学生時代に習った内容に新しい内容を加算するのではなく、最新の知識を理解するためには基礎が大事であるが、不要なものは削減し教えるべき事柄を精選することが必要と思われる。また国家試験のない工学部では、期末試験の点数だけでなく、学習に対する熱意、授業への積極的参加度も考慮に入れた厳密な成績評価を行うことも重要と思われる。

11-8 全学共通教育

(1) 授業全般について

今回行われたアンケートでは、全学共通教育について、学生の履修基準は単位のとりやすさ、講義の面白さに偏っていることがわかった (問 34)。

その反面、講義から特に得るものがなかったと答える学生が全体の4分の1おり、その傾向は薬学部、歯学部、医学部などで顕著である (問 35)。

また、全学共通教育科目群の難易度についてであるが、教養科目群、基盤形成科目群、基礎科目群いずれの科目群においても全体で約6割の学生が「自分の知的能力に合っている」と答えているが、教養科目群で約3割、基盤形成科目群で約2割、基礎科目群で約4割の学生が「難しい科目が多い」と答えている。基礎科目群の難易度が高いと考えている学生の割合が一番多いのは歯学部であり、その人数は学部の約半数である (問 36、37、38)。

(2) 自然科学入門について

「高校で未履修科目があるため、大学で理解困難な科目 (物理、化学、生物) の有無」に関する質問の回答から、約半数の学科が「困難がある」学生を多く抱えていることが判明した。そのような学科においては、新入生オリエンテーションで「自然科学入門」(2008年度より「高大接続科目」と改称) の履修指導の強化が図られることが望ましい。

(3) 英語教育について

全学共通教育だけに関わるものではないが、本学における英語教育について、現在の全学共通教育科目、専門科目で行われる講義で十分であると考えている学生 (「全学共通教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」) は約3割であった (問 53)。具体的な不満について、授業数を減らしてほしいと望む学生と、増やしてほしいと望む学生との全体の比較では、後者の方が約1.8倍多い。

また、同じ問 (問 53) の別の回答を見ても、「少人数のクラスにしてほしい」、「ネイティブスピーカー教員による授業を増やしてほしい」、「専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」という意見は、(全体では) いずれも「もっと授業数を減らしてほしい」という意見を上回っており、現在の英語教育をさらに充実させ学生の多様なニーズに応えていく必要性を唆している。

(4) 自由回答

全学共通教育に関する自由意見としては、「第二外国語はいらない。英語も主題別のみでやってほしい。」「全学共通でもっと体育のような科目を増やしてほしい。」の意見が寄せられていたが、各1件のみであった。

11-9 FD (Faculty Development) の観点から

(1) 学生のコミュニケーション能力育成について

アンケートによると、学生は「専門知識」のほかに「コミュニケーション能力」「討論能力」を大学で獲得したいと考えている。さらに、現在の教育ではそれらを獲得するのは難しいと考えている学生が、一定程度存在する。また、多くの学生が「コミュニケーション能力」に不安を持っている。コミュニケーション能力を高めるために共創学習やヒューマンコミュニケーション科目が設定されているが、これらをどのように教えたらいいのか、どのように授業運営したらいいのかについて、教員は悩む可能性がある。このような科目の運営をリアルタイムに支援していくようなFDが必要である。

また、他学部と比べて医学部、歯学部、薬学部は、全学共通教育について「得るものがない」と回答している者が多い。これらの学部がそろっていることは徳島大学の特色である。これらの学部をかかえる徳島大学が提唱すべき「人間力」の中身は何かを教員が考える試み、さらには卒業生や現役学生も含めて考える試みがFD活動としてあってよいだろう。

(2) 学生の自学自習支援について

アンケートによると、学生は科目によっては予習・復習をしているし、分からないことを友人・先輩にきいたり、自分で解決したりしている。したがって学生には学習意欲はあると考えてもよい。しかし、ほとんどの学生が自分の部屋で学習しているし、オフィスアワー等で教員に質問している学生は少ない。したがって、ハード面の支援、さらにはオフィスアワーの改善が必要であろう。例えば、前者については、気軽に利用できる学習コーナーの設置、後者については、教員の部屋に入る必然性をつくって教員に徐々に慣れてもらうような工夫が必要である。これらは、「教育の質を向上させるための学生ワーキンググループ」などで学生の意見を十分聞く必要がある。

(3) シラバス活用について

アンケートによると、ほとんどの学生は毎週シラバスを見ない。しかし、公的なシラバスではなくても、授業の概要について示した文書やスライドがあり、教員がそれを示すことによって学生の理解が進み、授業が円滑に進んでいくのであればよいし、実際そうしている教員も多いであろう。それにはどのような形式が可能かということ、教員同士が相互研修できるFD活動を企画するのにも一案である。

(4) FDの在り方について

FDというと弱点を指摘しそれを補う試み、というイメージがあるかもしれないが、このアンケートで出てきた「研究室での学習」の高評価は誇りに思い、さらにのばしていくべきである。その理由を分析し、それらを共有化し他大学にも発信し、さらに講義形式の授業にも生かしていくような試みも必要である。

アンケートで学生の意見をきくことは重要であり、それを生かしてFD活動を組み立てなければならない。しかし一方で、学生側からのアンケート結果に左右されない部分、徳島大学の教育哲学を創っていくこともFD活動の中で大きな部分を占めると考えられる。これらのバランスを考えつつ、FD活動を計画していくことが重要であろう。

第12章 大学に対する自由意見

- ・ 成績優秀者に何かご褒美を・・・。コッソリと。(総合科学部 自然システム学科1年)
- ・ 教員の自己満足で授業が終わっている。(総合科学部 自然システム学科2年)
- ・ 単位はとったもののこれで資格がとれているかが不明である。(総合科学部 自然システム学科4年)
- ・ 出席も全部していて、予習・復習もして授業態度も真面目であったのに単位をもらえなかった人もいるので、成績を重視したコースの受け入れ・不許可はやめてほしい。意欲のある学生なら必ずとってくるような体制にして頂きたいです。(総合科学部 人間社会学科1年)
- ・ 第二外国語はいらない。英語も主題別のみでやってほしい。(総合科学部 人間社会学科2年)
- ・ もっと学習できる設備を整えてほしい。使える部屋が少ない。(医学部 保健学科看護学専攻4年)
- ・ 授業方法について改善策を考えたりしないのか。(医学部 保健学科 検査技術科学専攻2年)
- ・ 本当に必要なのか分からない授業が多い。医学部なのに、工学的な学習を行うことに興味がわかない。無駄な実習が多い。(医学部 保健学科放射線技術科学専攻2年)
- ・ カリキュラムがぎしぎしで、時間的余裕がない。オフィスアワーが設定されていてもいけない。健康診断の時間設定でさえ、講義・実習をサボらなければいけない。もう少し考慮してほしい。(歯学部 歯学科3年)
- ・ 図書館の本を増やしてほしい。(歯学部 歯学科3年)
- ・ 歯学部の校舎内にいつでも自習可能なパソコン完備の部屋を用意してほしい。2階の控室はいらない。誰が設置したのやら、金のムダ。敷地内禁煙の徹底。(歯学部 歯学科3年)
- ・ 図書館の時間外利用でも冷暖房を使用させて欲しい。(歯学部 歯学科3年)
- ・ 席の指定制度はやめて欲しい。欠席届の提出の義務づけも止めて欲しい。20才を過ぎているのだから、自己責任の問題である。他の人がそのためにしぼられるのは迷惑以外の何ものでもない。授業に出ないで、国試に落ちるのは、個人の問題。(歯学部 歯学科3年)
- ・ 控室が狭い。広くして下さい。(歯学部 歯学科5年)
- ・ 歯学部専用の自習スペースが多かったらもっと勉強すると思います。印刷が前のように制限されていなかったら学習しやすいです。パソコン室の横の紙コップ回収機が臭いので撤去してほしいです。(歯学部 歯学科5年)
- ・ プリンタの制限により勉強しにくくなってしまったので、印刷できる枚数を増やしてほしいです。(歯学部 歯学科5年)
- ・ 研究室での活動は、とても充実しているので、もっと早い時期に配属してほしかった。(工学部 建設工学科3年)
- ・ カリキュラムの改訂を過年度生にも適用して欲しい。(工学部 建設工学科4年 夜間主コース)
- ・ 夜間学生ですがもっと1～3年次に実験実習をもっと増やして欲しいです。(工学部 建設工学科4年 夜間主コース)
- ・ 全学共通でもっと体育のような科目を増やしてほしかった。(工学部 機械工学科4年)
- ・ 研究室の先輩と性格が合わず、1年間きつかったです。そういう場合、研究室を変えることは可能だったのでしょか？(工学部 機械工学科4年)
- ・ 工学部の生物工学科に自習室かパソコンを24時間使える部屋を設けて欲しいです。レポート作成が学校で出来ないため。電気電子棟には電算室があり、24時間パソコンが使えるから。(工学部 生物工学科4年 夜間主コース)

第13章 まとめと提言

本学においては、学生生活に関する実態調査が2年毎に行われ、昨年度は23回目を数えている。この調査においても、学生の修学状況に関する質問事項が含まれるが、学生の生活状況の調査に重点が置かれており、今回の調査は徳島大学初めての全学的な学習実態調査といえる。今回の調査の特徴は、全学的に同じアンケートを行うことによって、学部内で行われてきた調査と異なり、特に学部間の違いが明らかになり、大学全体の教育改革の方向性が示されたことであると思われる。調査結果と課題を総括し、提言をまとめてみたい。

今回の学習実態調査では、5つの項目（①大学教育と将来、②学習状況、③全学共通教育、④専門教育、⑤英語教育）について、合計56問の質問によって調査された。

（1）大学教育と将来

常三島キャンパスと蔵本キャンパスの学生の意識に大きな差が見られた。卒業後の職業に直結した免許・資格を取得できる医学部、歯学部、薬学部の学生と比較し、総合科学部・工学部の学生は将来の希望の実現に不安を持っている学生が多い。医学部、歯学部、薬学部の学生においても10－20%の学生が不安を持っている。特に常三島キャンパスの学生は、キャリアプランに対する十分な見通しがないまま入学する学生が多く、大学のホームページなど活用して、卒業後の就職先、業種、取得可能な免許・資格や卒業生の声などをさらに充実し、高校生ならびに在学学生に対する広報活動を充実すること、入学後の初年次教育における学習の動機付けを促す教育を施すことが必要である。大学での学習方法を学ぶ大学入門講座や基礎学力養成科目によって、円滑な高大接続が可能になりつつある。次のステップとして、職業意識育成のための初年次教育プログラムの充実が必要である。今後、このような教育を行うためには卒業生や社会人の協力が不可欠であるが、教員、プログラムをFD活動によって育成することが重要であろう。

（2）学習状況

全学部において普段の学習時間は1時間前後が最も多く、この学習時間の不足が授業内容の理解不足の原因であると思われる。しかし、アンケート結果から、出席をとる、宿題を課す等教員の努力で学生の学習を促すことが可能であることが示された。教科書に関する質問で、教科書を全て購入すると答えた学生の比率が最も高いのが、栄養学科で81%、低いのが医学科16%、歯学科18%であった。総合科学部、工学部では24－64%であった。購入しないと答えた学生も、全学部を通じて0－6%おり、教員の予想外の結果となった。最適な教科書の選択、教科書の活用が望まれる。期末試験の勉強に関する質問では、医学部、歯学部、薬学部の学生と総合科学部・工学部の学生に大きな差が見られ、この学習時間の差は、高校までに身に付いた自宅学習時間の差が出ていると思われる。薬学部、歯学科の学習時間は特に長い。総合科学部、工学部では、初年次から学生に自宅での学習時間を習慣づける工夫が重要である。

（3）全学共通教育

科目の選択については、「面白そうな科目を選んだ」と「単位のとりやすさ」で選んだと答えた学生が多かったが、医学部、歯学部、薬学部では後者の方が多く、総合科学部・工学部では前者の方が多い傾向にあった。また、全学共通教育で特に得るものがなかったと答えた学生は医学部、歯学部、薬学部で多く、初年次教育、共通教育プログラムの改善が必要である。

（4）専門教育

専門教育については、内容、難易度に関して、大部分の学生は満足していると考えられる。しかし、もっと易しくすべきであると答えた学生の比率が比較的高かったのは、医学科で28%、薬学部

新課程で30%、薬学部旧課程で25%、工学部では学科間で多少差があるが、30%前後の学生であった。日頃の学習時間の不足が主原因と思われるが、自主的な学習を促す授業改善が必要である。卒業研究、医学研究実習、研究基礎ゼミについては、学生の評価は非常に高く、やはりマンツーマンの教育の有効性が実証された。しかしスペース、設備に不満を持った学生も多く、学生のための研究スペースの確保、設備の充実が望まれる。

(5) 英語教育

アンケート結果から、学生は英語の重要性はよく認識し英語教育の充実化を望んでいるが、自ら努力して学習しようとする学生は少ないことがわかる。TOEIC 試験の2・3・4年生での実施、ネイティブスピーカによる講義、専門英語の基礎教育等の充実化が望まれる。大学の外国語教育には、異文化理解のための外国語能力、ビジネスツールとしての外国語能力、研究開発のための外国語能力の育成が期待されている。今回、英語以外の外国語教育についての調査は行わなかったが、次回はドイツ語、フランス語、中国語に関する調査を行う必要がある。

(6) 最後に

アンケート最後の大学教育全体への満足度に関する調査では、大部分の学生は満足していると判断されたが、80点以上の高い評価は全体の20%前後であり、次回の調査ではこの値がさらに高くなるよう期待したい。

最後に、この調査の実施および報告書の発行に際して、ご支援、ご協力いただきました川上副学長、大学教育委員会委員の方々、企画、執筆、編集にご尽力いただいた教育の質に関する専門委員会委員の先生方に深く感謝いたします。またアンケートの集計、編集にご尽力いただいた学務部職員の方々、およびアンケートに協力いただいた学生に厚く御礼申し上げます。

(教育の質に関する専門委員会委員長 辻 明彦)

ラーニングライフ

第1回 学生の学習に関する実態調査報告書



Learning life

徳島大学



徳島大学は、学校教育法第69条の3第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。(平成19年3月28日)

- ・ 認証評価機関：独立行政法人大学評価・学位授与機構
- ・ 認証期間：7年間(平成19年4月1日～平成26年3月31日)

